

Passo a passo.

令和 2 年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教 職 課 程

司 書 課 程

司書教諭課程

学校司書課程

学 芸 員 課 程



Devoted to the Development of Socio-Intelligence
SENSHU UNIVERSITY

Vol.23

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

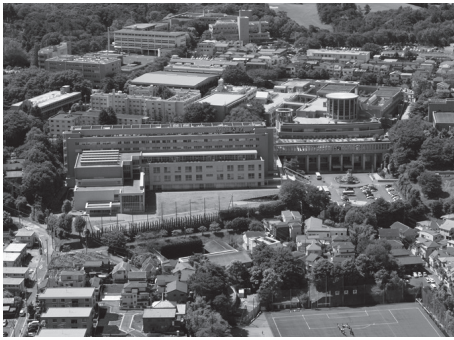
専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

2020年9月16日、創立140周年

専修大学は、米国から帰国した4人の若者により、1880年(明治13年)に創立されました。日本で初めて、日本語で経済学と法律学を共に学べる高等教育機関「専修学校」の誕生でした。

以来、本学は創立者たちの建学時の精神を脈々と継承し、わが国の高等専門教育の確固たる歴史を築いてきました。

2020年に専修大学創立140周年を迎えた今、めざすは21世紀ビジョンとして掲げる「社会知性の開発」です。18歳人口が減少し、グローバル化やAIの台頭など社会構造が変化するなか、よりしなやかで力強い、社会で活躍できる多様な人材を輩出するため、さまざまな取組みを進めています。



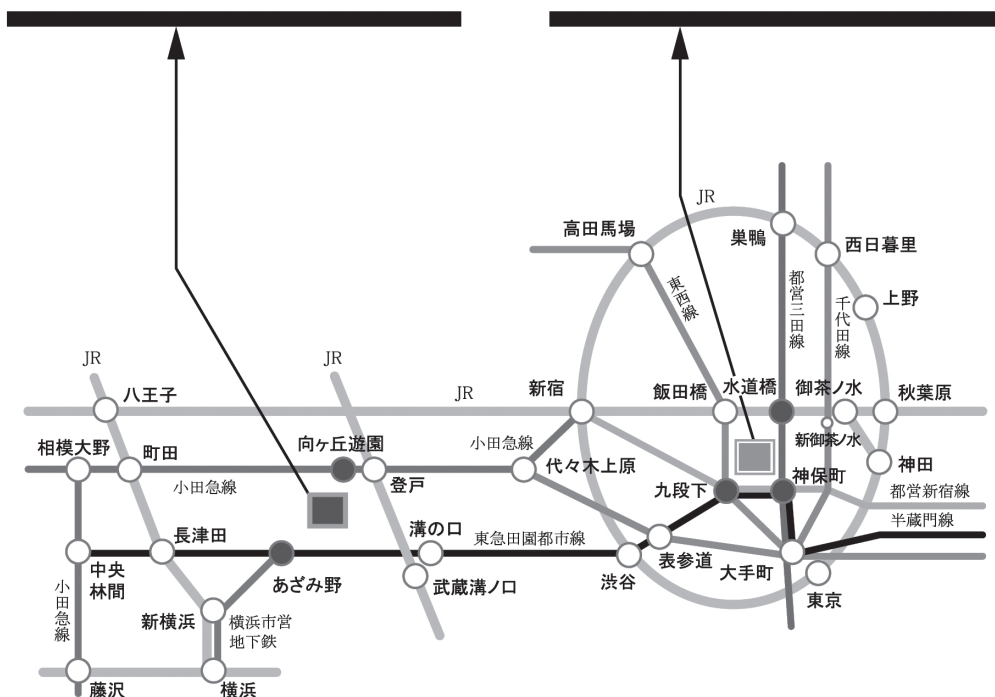
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅(新宿から急行で約20分)
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス(学生専用)約20分



神田キャンパス

- JR 水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



コミュニケーションの形

教職課程協議会委員長 文学部 教授 高島 裕之

資格課程の科目には、「実習」という形でそれぞれ学校、図書館、博物館などで実務を学ぶ場面がある。特に教職と学芸員に関しては、資格取得のために必修の科目である。

私が担当する「博物館実習」の場合、学生は自分で実習館を探さなければならない。まず教員との相談を行なうことが第一関門である。教員側では次のようなアドバイスをする。実習は、学生自身にとって初めて経験することばかりであり、思いもよらない負荷が掛かることになる。したがって通いやすく、興味を持っている館を選択するよう促し、他人を頼るのではなく、自分で決定するように指導するのである。そして交渉する予定の館が決まると、学生は博物館の担当者に直接電話をかけ、実習生として受け入れてもらえるかどうか、問い合わせをする。これまでの人生で学ぶ場所を難なく用意されてきた学生の中には、受け入れてもらうことが当然である、と考えがちな少数の者もいるだろう。しかし博物館の仕事は想像できないくらい忙しいため、時には予期できない厳しい返事が返ってくることもある。それでも粘り強く交渉し、課題を乗り越えた結果、初めて希望の館での実習がかなうのである。

実際に教育実習にしても図書館実習、博物館実習にしても、まず実習先があって成立する。相手があつてのことであり、実習を受け入れてくださった先では、学生に対して親身になって対応いただけることが常である。学生の皆さんには、まず実習を申し込む際に、そして取り組む時に、この科目が大学の中ではおさまらず、社会と繋がっていることを自覚し、ぜひとも周りに目を向けてほしい。

今般の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の中で、拡大防止の対策をとりながら、実習先があるのか、実習ができるのか、大きな課題であった。実際に博物館実習で受け入れを検討いただいていた館

からも、期間の短縮や内容の変更について、いくつかの問い合わせがあつた。その際には「学生にとって博物館の仕事に携わる方と直接コミュニケーションをとり、学ぶ機会が一番重要であると考えています。」と回答し、実習生の受け入れを改めてお願いした例もある。

2020年5月から突然始まったオンライン授業が継続する中で、いち早く大学内での対面授業の再開がかなったのは、「資格取得に関係する科目及び実習科目等の一部」であつた。学生を実習先に送り出すため、事前に十分に準備をする機会を設けることに、深く配慮いただいた教職課程協議会の先生方や教務課資格課程係、そして学内の関係諸機関の理解があつてのことである。幸いに2020年の年末となって、教育実習も博物館実習も何とか無事終了できそうである、との報告を教務課資格課程係からうかがつた。

多くの方が実感していると思うが、今年度は授業も含めオンラインを使ったやり取りについて、戸惑う時間を経験し、これまでのコミュニケーションの形が大きく変わった1年であつた。しかし私はこの変化について、コミュニケーションの形の選択肢が増えたのであつて、相手を思い、相手に確実に伝える方法を、より昇華させながら継続していくことは、今後も決して変わらないと考えている。たいへんな状況下の中で、資格課程を履修する学生の皆さんの現在の経験は、次の時代の大きな糧になることは確実である。ただ、目の前の人との直接のコミュニケーションもままならない今だからこそ、もう一度皆さんの実習を支えてくださる方々がいることを、忘れないでもらいたい。

まずはこの度、感染症拡大防止を考えながら、実習生の受け入れについてご支援いただき、またご指導いただいた全ての関係各位に心より感謝を申し上げたい。

Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

多様性と格差のはざまで格闘するアメリカの公立学校

法学部 教授 森田 司郎 8

教育が変わる時

商学部 教授 佐藤 由美 10

離島にみる読書環境づくりの工夫

文学部 教授 野口 武悟 12

教職課程

卒業生から 16

教員採用試験体験記 20

教育実習を終えて 25

介護等の体験を終えて 32

教職公開講座に出席して 33

教職総仕上げ「教職実践演習」 34

専修大学附属高等学校から

私立専修大学附属高等学校 教諭 渡邊 ユウノ 35

司書・司書教諭・学校司書課程

図書館情報資源の供給源「出版」を学ぶ授業

文学部 兼任講師 中和 正彦 38

就職（進路）懇談会、図書館実習について

文学部 教授 野口 武悟 経営学部 教授 荻原 幸子 40

卒業生から 41

学芸員課程

市学芸員のお仕事～文化財の最前線～

日野市教育委員会 生涯学習課 文化財係 幕田 淳子 44

博物館実習を終えて 46

データ編（令和2年度）

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数 50

教育職員免許状取得件数 52

司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数 52

教育実習先一覧 53

博物館実習先一覧 56

主な就職先一覧（教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員） 57

資格課程年間行事表 62

教職相談実施結果 63

教員採用試験対策特別講義実施結果 64

教職公開講座開催結果 65

学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告 66

資格課程活動報告 67

資格課程教員紹介 68

編集後記

■5つの資格課程

教職課程 … 中・高等学校の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者が教育職員免許状を取得するためのものであり、教員を養成することを目的としています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で、都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

<本学で取得可能な免許状>(令和2年度入学者)

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	現代経済学科	社会	公民
	生活環境経済学科	社会	公民
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民
国際コミュニケーション学部	日本語学科	国語	国語

※「教員免許更新制」

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。これが教員免許更新制です。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。

司書課程 … 「司書」公共・大学図書館等の専門的職員

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書館・資料室などで、様々な種類の資料を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、電子メディアの活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人々に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。常に社会状況に適合した図書館のあり方を展望し、他者と連携・協力して、現状を積極的に改革する意欲を持つことが必要です。

司書教諭課程 … 「司書教諭」学校図書館の専門的な業務を担う教員

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な業務に携わる教員です。司書教諭は教育の現場で、他の教職員と協力しながら、読書や図書館利用に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援する役割などを担っています。司書教諭の資格は教員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する場合には、教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

学校司書課程 … 「学校司書」学校図書館サービスを担う専門職員

「学校司書」は、小学校・中・高等学校等において、図書館資料の管理、資料の貸出や図書館利用ガイダンス、読書活動の推進、及び、授業の支援や児童・生徒の情報活用能力の育成などを行う役割を担います。2014年の学校図書館法の一部改正により、学校の設置者は学校司書の配置の促進に努めるものとされました。学校司書課程は、学校司書が職務を遂行するための基礎的な知識・技能を習得するための科目を、文部科学省が提示したモデルカリキュラムにもとづいて開講しています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。また学芸員の資格を活かし、博物館をサポートする職種につくことも可能です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

教職課程

図書館で働きたいなら



司書・司書教諭・学校司書課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程ガイダンス

1～4年次
教職課程履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験
(中学校教諭免許状取得希望者)
5月下旬～3月上旬

4年次
教育実習
5月～11月

卒業時（事前に申請した者）
教員免許状の交付
3月

1～4年次
司書課程
学校司書課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
図書館実習
(希望者)
8月～11月

卒業時（希望者）
司書資格取得証明
書・学校司書課程
修了証明書の申請
および交付

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

卒業後（事前に申請した者）
学校図書館
司書教諭講習修了証書
の交付

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業後（希望者）
学芸員資格取得証明書
の申請および交付

司書・司書教諭・学校司書課程サポート

司書課程就職（進路）懇談会 12月開催

図書館関係者をゲストに迎え、
図書館関連の就職や大学院進学に
ついて懇談をしています。

学芸員課程サポート

学芸員課程セミナーを開催

平成30年12月に第1
回学芸員課程セミナー「博
物館、学芸員のしごと」を
開催しました。

教職相談

教員をめざす学生を対象に教職相談を行っています。本気で教員をめざす学生はもちろんのこと、教員をめざすかどうか迷っている学生の相談も受け付けています。さらに希望者には、教員採用試験で求められる小論文作成や面接の方法などの指導を行っています。担当するのは、教員採用試験の実際を良く知る本学教職相談員（専任教員・名誉教授）のため、より実践的な指導を受けることができます。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、玉川大学と連携し、小学校教員養成特別プログラムを設けています。このプログラムにより、本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすことができます。

ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教員をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月上旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。この講座を受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小・中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。

活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校及び専修大学附属高等学校で、教科担当教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる「教職版インターンシップ」と言える貴重な制度です。

研修期間は、半期間で特定の曜日に研修を行う形か、春期休暇期間中の一定期間に集中して研修を行う形があります。

教員採用試験対策講座（エクステンションセンター主催講座）ガイダンス：4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいかわからず戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通した計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

教員を目指す

国公立・私立学校の教員になるためには教育職員免許状が必要です。

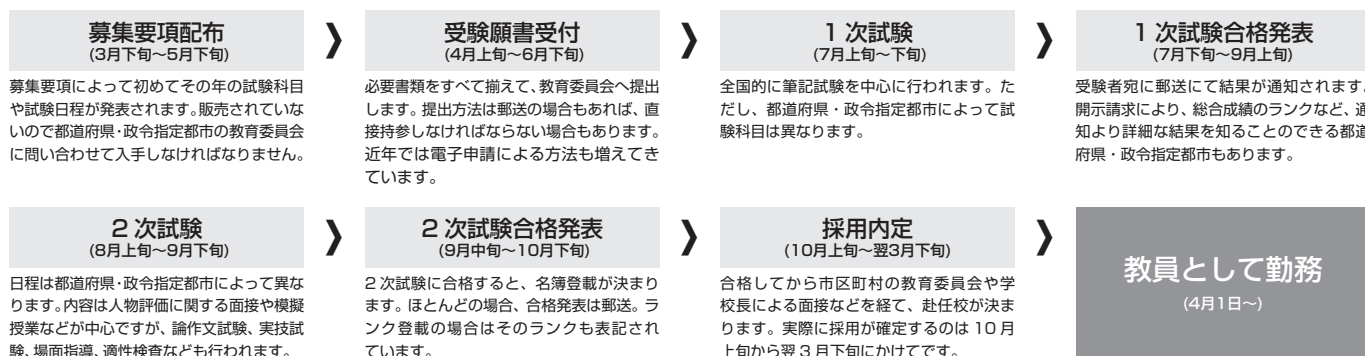
教員

教員に求められる総合力を養う教職課程

国公立・私立学校を問わず、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園の教員及び養護・栄養教諭になるには、各職種・科目ごとの教育職員免許状が必要です（小学校の場合、全科又は科目）。免許状は、大学等において学士の学位等の基礎資格を得るとともに、文部科学大臣が認定した課程において所定の教科

及び教職に関する科目の単位を修得し、申請書類等の審査を受けて適格であると認められた者に授与権者（都道府県教育委員会）から授与されます。ただしその後、教員として採用されるには、以下のような流れがあります。

〔公立学校の場合〕 教員採用試験の出願から採用までの流れ



教員採用試験の内容

教員採用試験では、基本的に次の5つの試験があります。

〔論作文試験〕

教育論や実践的な指導方法のテーマを課し、受験者の人格や教師としての考え方・資質を問う試験として、面接試験と同じく重視されています。

〔筆記試験〕

教養試験及び各教科の専門試験が行われます。教養試験は、教職教養と一般教養からなり、ほとんどの自治体（都道府県及び政令指定都市）が両方の試験を課していますが、片方だけを課すところもあります。

〔実技試験〕

小学校の音楽や体育、中学校・高校の英語・音楽・家庭・保健体育・工業・商業などで行われます。主に、その教科に関わる基本的な技術・技能を見る試験ですが、情報化の進展に伴い、全志願者にパソコンの操作を課す自治体が増えていきます。

〔面接試験〕

個人面接・集団面接・集団討論・模擬授業・場面指導など様々な形態で行われます。最近は人物的要素を重視する傾向が高まり、選考結果に占める面接試験のウエイトが大きくなってきています。そのため、1 次・2 次を通して 2～3 回面接を行う都道府県（政令指定都市）も見られるようになり、特に模擬授業は約 7 割の都道府県（政令指定都市）が取り入れています。

〔適性検査〕

教員に要求される資質を客観的に調べるために実施されます。主に、内田クレベリン精神検査、Y-G 性格検査、ローレルシャッハ・テストなどが用いられます。

〔採用試験後の流れ〕

公立学校の教員採用試験は、正式には「教員採用候補者選考試験(検査)」といい、教員として採用する候補として適した人材を選抜するものです。しかしながら、この教員採用試験に合格したからといって採用されるわけではありません。この点が民間企業と異なる点であり、この試験の大きな特色といえるで

しょう。最終合格発表（2 次試験合格発表）は都道府県（政令指定都市）によっても異なりますが、概ね 9 月中旬～10 月下旬頃に行われます。しかしその頃はまだ、次年度の児童・生徒数や退職教員数などが確定していない場合が多く、地域や校種、教科ごとに必要な教員数が判明していない状態です。そのため、合

格者数が実際に必要となる教員数を上回れば、合格しても採用されないという状態が生まれてきます。しかし仮に内定が出なくても、合格後 1 年以内に欠員が生じた場合は中途採用もあるほか、1 年間採用されなかった場合でも次年度の 1 次試験が免除される都道府県（政令指定都市）も見られます。

〔私立学校の場合〕

採用までの流れ

それぞれに独自の教育方針や校風がある私立学校では、選考方法や基準も各校により異なります。したがって、志望に当たっては各私立学校に対して、その年の募集計画などを各自で直接確認することになります。また、各都道府県に設置されている私学協会が私学教員適性検査を実施していたり、窓口となって募集している場合もあります。その他、大学の求人票やインターネットなどにより公募を行っているケースもあります。

司書・司書教諭・学校司書・学芸員を目指す

司書

【図書館の実践的な知識が身につく司書課程】

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の調査部、資料室などで、資料（図書、雑誌、CD や DVD 等）を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職です。

資格を取得するには、大学・短大の司書課程を履修するか、司書講習を受講する方法があります。司書課程を開講している大学・短大は少なくありません。その多くは、私立の大学・短大で、通信制大学もあります。

司書課程・司書講習では、子どもの読書、資料の選び方や整理の仕方、情報検索、著作権、出版流通の仕組みなど、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

【就 職】

1. 公共図書館

各自治体で実施される公務員採用試験を受験します。「司書職」として採用される場合と、「一般行政職」として採用された後に図書館に配属される場合があります。前者の場合には、採用時までに司書の資格を取得している必要があります。いずれの場合でも非常に高い競争率です。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2. 国立国会図書館

国立国会図書館職員総合職試験又は一般職試験（大卒程度試験）を受験します。試験内容はともに大学卒業程度ですが、総合職のほうが難易度が高いです。1 次試験は教養試験（多肢選択式）、2 次試験は専門試験（記述式）・英語試験（記述式）・小論文試験（総合職のみ）・性格検査・個別面接、3 次試験は集団討論（総合職のみ）・個別面接です。

3. 国立大学法人等の図書館

地区ごと（北海道、東北、関東甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）に実施される国立大学法人等職員採用試験を受験します。大学職員の「事務系（図書）」として働くことになります。試験内容は、1 次試験が教養試験多肢選択式（大学卒業程度）、2 次試験が専門試験および各大学での面接です。

4. 私立大学等の図書館

それぞれ独自の方法で採用しています。求人募集は、大学のホームページ等で行われています。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

司書教諭

【学校図書館を活かす司書教諭課程】

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育の基礎をなす学校図書館の専門的な仕事に携わる教員です。司書教諭は学校教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、直接児童・生徒たちに図書館や読書に関する指導や、教員に対して図書館や図書館資料を活用した授業展開ができるよう支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は、教育職員免許状を持つ者にのみ認められるので、教職課程と司書教諭課程のある大学で必要な科目の単位を修得し卒業すると「教育職員免許状」と「司書教諭」の資格が得られます。平成 15 年度から 12 学級以上の学校では必ず司書教諭を配置することになりました。有資格者へのニーズは高いです。

※経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科および国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科では司書教諭の資格を取得することはできません。

【就 職】

公立学校の場合は、教員採用試験を受験しなければなりません。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用を実施しています。詳しくは P6 を参照してください。

学校司書

【学校図書館を支える学校司書課程】

「学校司書」とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の職務に司書教諭と協働しながら従事する職員です。学校司書は、学校および学校図書館において、図書館資料の管理などの「間接的支援」に関する職務、閲覧や貸出、レファレンスサービスなどの「直接的支援」に関する職務、授業の支援や情報活用能力の育成などの「教育指導への支援」に関する職務の 3 つの職務を担っています。

学校司書課程では、上記の 3 つの職務に必要な知識・技能を身につけるための諸科目を設けています。これらの科目の多くは、司書課程、司書教諭課程と乗り入れており、司書、司書教諭という関連する資格も取得しやすいように配慮しています。

学校司書の配置は努力義務ではあるものの、学校図書館の運営の改善と向上、児童生徒の学習活動や読書活動での活用への期待から、配置する学校は増加傾向にあります。こうした期待に応えられる人材が求められています。

【就 職】

公立学校の場合は、各自治体での採用試験を受験します。正規職員は、司書の採用試験の合格者が学校に配置される状況があります。私立学校の場合は、それぞれ独自の方法で採用しています。嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。求人募集は、ホームページ等で行われています。

学芸員

【博物館で専門職となる学芸員課程】

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会的教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいる博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、文書館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第 5 条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門分野の知識を高めておくことも大切です。

【就 職】

1. 公立博物館の場合

学芸員については定期的に採用試験があるわけではなく、採用は欠員の補充が、博物館の新設・拡充の際に行われます。その場合は教員や一般職員（公務員）として採用した人の中から、学芸員資格を持っている人を部署の配属・異動という形で学芸員に採用することがあります。また県立や大都市の博物館は、一般の採用試験（公務員採用試験）とは別に学芸員の採用試験を実施することが多く、採用試験の実施はその自治体の広報紙やホームページで公開されます。

採用試験では一般教養のほかに、博物館学の知識と、募集する専門分野に関して広く深い知識や技能が問われます。また正規職員としてではなく、嘱託や非常勤の形で採用されることもあります。

2. 私立博物館の場合

それぞれ独自の方法で採用を実施しています。

多様性と格差のはざまで格闘するアメリカの公立学校

法学部 教授 森田 司郎

2019年3月から1年間、専修大学特別研究員（特例）としてアメリカ合衆国オレゴン州にあるオレゴン大学教育学部（University of Oregon, College of Education）で客員研究員として研究を行う機会を得た。本学の多くの皆様のご理解とご協力があったはじめて実現したこの貴重な機会であり、ここに心からの感謝を申し上げたい。また、研究期間終了のタイミングがアメリカで新型コロナウイルス感染症が爆発的に拡大した時期と重なってしまった。このため、事態が深刻化する中で、最後の1か月間はほとんど外出ができずに大きな不安を抱えて過ごすこととなった。この際にも、本学の多くの方々に支えていただき、全日程を終えて無事に帰国することができた。当然日本でも大変な事態であったにも関わらず、様々な形で私をサポートしてくださった皆様に、あらためて深く感謝を申し上げたい。



授業（調べ学習）の風景（各教員に教室が割り当てられ、アレンジは自由）

自然と人々との関わりに恵まれたユージーン生活

オレゴン大学の所在地ユージーン市は人口約17万人（2019年推計）、アートとアウトドアを中心にした魅力的で住みやすい街づくりをしている。ウィラメット川とマッケンジー川の合流地域で、大きな公園の数も大変多く自然豊かな中都市である。天候が穏やかで過ごしやすい春先から秋口まで、老若男女を問わず多くの人々が緑豊かな街中で散歩、サイクリングやジョギングを楽しんでい



54,000人を収容するオレゴン大学フットボールスタジアム

る。毎年ハロウィンやクリスマス等の季節になれば、多くの店が豪華な装飾をしたり、人々が自宅の壁や庭に飾りつけを楽しむようになる。特にサンクスギビング（感謝祭）は重要な行事で、多くの人々が家族や友人たちと大切な時間を共に過ごす。各家庭のルーツにまつわる伝統料理がふるまわれることも多い。幸運なことに私も友人宅に招いてもらい、そこで親類や友人たち30人以上が集う盛大なディナーを経験することができた。このように、ユージーン滞在中には地元の人々に関わる機会に驚くほど多く恵まれた。これは、大都市とは違い、ユージーンのような中規模都市ならではの経験ではなかったかと思い、とてもありがたく感じている。晩秋から春先までの約5～6か月間は雨季となり、すっかりしない日々が長く続くことを除けば、ユージーンは非常に住みやすい街であった。補足だが、ユージーンの人々が話す英語はアクセントがなくきれいだと聞いたこともある。オレゴン大学は専修大学の交換留学協定校でもあるため、自然と地元の人々に囲まれてゆったりとした留学生生活を過ごしたい学生さんには、ユージーン生活は大変魅力的かもしれない。

多様性と格差、格闘する公立学校

日米を問わず、多くの公立学校では子どもたちの生活環境や家庭環境の多様化、複雑化に対応することに苦心している。ここユ

ージーンでも状況は同じである。ここでは特に、子どもの安全・健康面、家庭の経済面、そして家庭の言語・文化面については徹底的に配慮されているように感じる。

校舎の厳重なセキュリティーや、厳格な子どもの出席管理システムは全ての学校に備わっている。子どもが定められた時間までに登校しない場合には、登録した保護者が遅刻の理由を報告しなければならない。これを怠ると虐待や誘拐等が疑われ、場合によっては警察に連絡が行く場合もある。ほとんどの学校が多くのボランティアスタッフを必要としているが、学校に出入りするためには学区データベースに登録し犯罪歴等をチェックされた上でオンライン研修を修了しなければならない。また、多くの学校において無償の朝食サービスが行われる。栄養ある食事が必要な子どもたちに対するボランティアの炊き出しが休日等に行われることもある。スクールバスは最優先され、送迎で停車中のバスを追い越すことはもちろん、狭い道路では対向車がすれ違うことも禁止されている。このように、子どもの安全と健康面に対しては最大限の配慮がなされている。

ユージーンには、貧困等の経済的問題を抱える家庭が他の都市と比較しても多く存在する。貧困率が高く、市街地にホームレスも多い。ダウントウンのいくつかの交差点には、信号待ちをしている車に話しかけ、金品等の支援を求めるホームレスたちが多く集まっているところもある。あ



子どもを楽しませるために仮装してマラソン大会に参加する小学校教員（右）

る。経済的問題を抱えた家庭を支援するために、学校では、地域住民からの寄付で得られたクーポンや文房具等を配布するなどの活動を行っている。また、地元企業にスポンサー契約を依頼して教材費や給食費等の寄付や支援を募ることや、保護者や地域住民が地元の店で飲食すると学校に一定の寄付が送られるような資金調達の企画が年間を通して様々に行われている。こうして得られた資金は、経済的問題を抱えた家庭の子どもの支援に重点的に使われる。

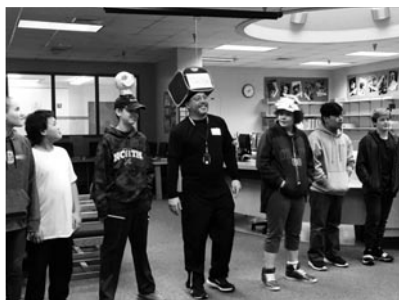
中南米等の国や地域からの移民が増加していることはアメリカ全体に当てはまるが、もちろんここユージーンにおいてもその傾向は顕著である。子ども自身の英語力もさることながら、保護者が英語を全く話せないという子どもの数も多い。このように文化的、言語的に困難を抱える子どもと学校とのつながりを確保するために、ユージーンのほとんどの公立学校では、保護者宛ての全ての配布物やメール等をスペイン語併記としている。また、英語を母語としない子どもに対する専門教員による英語学習の機会が、ほとんどの学校で設けられている。スペイン語圏の国や地域の文化を扱った学習活動を行ない、実際に保護者や地域住民を招いてスペイン語圏文化にまつわる行事等を実施する学校も多い。また、多くの学校には黒人系、ヒスパニック・ラティーノ系、さらにはLGBTQの生徒のためのクラブ・サークル活動がある。これらは、学校の中で生徒が安心できる居場所として活発に活動している。

公立学校の独立性と不安定性

ユージーン市に限らず、多くのアメリカの公立学校は学校運営のための十分な予算を得られない状況におかれている。多くの都市、地域では景気悪化の反動として、教育予算が大幅に削られている。

しかしながら、子どもの家庭環境の多様化は進み、教育的な格差は拡大している。こうした社会的に不利な立場に置かれている子どもを救うために、各学校は独自の工夫で学校運営資金を調達しているのが現状である。

アメリカの公立学校では教育委



校内イベントで作った「オリジナル帽子」をかぶって授業を行う中学校の社会科教員（中央）と生徒たち（Kelly Middle School ホームページより）

員会等の行政機関に対する校長のリーダーシップの独立性が確立している。人事や予算に関しても校長が中心的な権限を握っている。また、そこで働く教職員も、基本的にはその学校での採用であり、日本のように一定期間で他校に異動することもない。このような点から、アメリカの公立学校は独立性が高く、学校の実態に合わせ地域に根差したカリキュラム開発を継続的に行いやすい仕組みを持っているといえる。実際に、ユージーンの多くの学校では、独自の工夫を凝らして様々な格差対策を行っている。しかしこのことは逆に、学校運営予算、教職員、教材や教科書などの、日常の教育に必要な不可欠な資源の獲得さえも各学校に任されることをも意味する。資金調達がうまくいかずに、給食を一年間ストップせざるを得なかった学校もある。さらには、音楽や体育等の専科教員を雇うことができずに、その教科を実施できない学期があったという事例も聞く。このように、各学校に与えられた独立性と、教育活動の不安定性は表裏一体の関係にある。アメリカの公立学校はその運営に

おいて、まさにハイリスク、ハイリターンの仕組みを取っているといえる。

教育を支える教員の存在

ここまで、アメリカの公立学校における教育について、私が感じてきたことを思いつくまに述べてきた。ややもすれば課題ばかりが目につき、ネガティブな気持ちになってしまうこともある。しかし、私の滞在中には、今後のアメリカの教育に希望を感じさせてくれる事ながらも多く目にする事ができた。それは、目の前の全ての子どもをケアして、子どもの力を最大限に伸ばすための理想の教育を熱く追求し続ける教員の姿である。また、多様性を尊重し格差を乗り越える教育を学生とともに希求し続ける、大学の魅力的な教員養成カリキュラムである。例えば、オレゴン大学で学んだ後に、地元中学校で総勢70人を超えるボランティアクラブの顧問として創造性、遊び心豊かで魅力的な実践を精力的に行っている教員に出会うことができた。

理想的な教育は熱意のある教員に支えられて成り立つという事実は、国や地域の違いを超えた共通の真理であろう。このことが逆にまた教員の意欲を高め、理想の教育を実現するための原動力になる。こうした好循環が促進されるような教育現場と教員養成カリキュラムの関係性については別の機会ですべて述べることで、ここまで在外研究の報告とさせていただきます。



街中には路上で暮らすホームレスの姿も

教育が変わる時

商学部 教授 佐藤 由美

いよいよ2021年4月から中学校で新しい学習指導要領が施行される。「主体的・対話的で深い学び」は2017年3月の告示から移行期間を通じて徐々に浸透されつつあるようで、教室の学びの私たちにも変化が現れ始めている。高等学校では、2022年から一部の教科で科目の再編成が行なわれる。地理歴史科はこれまでの世界史・日本史・地理の各A・B科目から、地理総合・地理探究・歴史総合・日本史探究・世界史探究の5科目となり、地理総合と歴史総合が必修になる。公民科には必修科目の公共が誕生する。知識偏重型から、学んだ知識をどう使っていくのかを重視した課題解決型の教育にシフトしていくのがねらいである。こうした議論は1947年に最初の学習指導要領が公示されて以来、改訂を重ねるごとに繰り返されてきたように思うが、昨今では「持続可能な社会」の実現に向けて教育の見直しが求められている。そして、このような動きは日本に限ったことではない。

*

お隣の国、韓国でも教育改革は盛んに行なわれている。日本の学習指導要領にあたる「教育課程」が日本よりも短いスパンで改訂されており、「2009年改訂教育課



中学校「情報」と「進路と職業」の教科書

程」が2019年度に中高で完成年度を迎えるのを待たずに、「2015年改訂教育課程」が2017年度の初等学校第1, 2学年から開始され、2020年度には中高全学年で施行されるというスピード感である。2019年夏、Seoul 中心部にある書店の教科書売場を訪れたときには、2009年改訂準拠と2015年改訂準拠の教科書が並んでいたが、2020年からは一本化されたはずだ。韓国の学校制度は日本と同じ6・3・3・4制で、初等学校、中学校の9年間で義務教育である。新学年のスタートは3月で2学期制をとっている。「2015年改訂教育課程」の目玉は、キー・コンピテンシー（韓国では「核心力量」という）の導入だった。目指す人間像を実現するために、①自己管理能力、②知識・情報の処理能力、③創造的な思考力、④審美的感性、⑤コミュニケーション力、⑥共同体への貢献の6項目を育成することが掲げられ、これらを教育課程の核としてそれぞれの教育活動が展開されることになった。その具体策がいくつかあるが、中学校には週当たり1時間の必修教科「情報」が新設され、アルゴリズムやプログラミングを全員が学習することになった。高校では必修科目が7科目（韓国語・数学・英語・韓国史・統合社会・統合科学・科学探究実験）に増えた。高校は2009年改訂時にすべての科目を選択制にしたが、行き過ぎた選択制への批判から2011年には韓国史が必修科目として復

活していた。2015年改訂の必修科目には語学や数学といった基礎科目の他に、統合社会、統合科学、科学探究実験が加わっている。「統合」や「探究」を重視する発想やカリキュラム・マネジメントは、日本が地歴科の科目を再編する際に「総合」や「探究」科目を新設したことや、数学と理科を合わせた選択科目「理数」を新設したこと等とも通底しているように思える。学問の系統性は重要であるが、縦割りの学びではなく、各教科・科目の垣根を低くして、「持続可能な社会」の実現に収斂していくような総合的な学びが目指されるようになっているのだろう。

*

そのことと関連して、韓国の教育改革のなかで最も興味深いのが中学校に導入された「自由学期制」である。自由学期制とは、生徒が夢ややる気を見出すことができるように、中学校3年間の教育課程のうちの一学期間（例えば1年後期）をまるごと体験活動中心に運営する制度のことをいう。自由学期に指定した学期のカリキュラムは、「教科」と「自由学期活動」から成るが、一般的な教科の授業も討論や実習など生徒参加型の学習活動を中心に運営される。中間や期末等の試験は行わないことになっており、評価は形成評価やポートフォリオなどをもとに文章で行う。この制度が創設された背景には、中学生に将来の希望について調査したところ、「ない」



韓国書店に並ぶ教科書
2009 改訂と 2015 改訂準拠教科書

と答えた生徒が 31.6% と急増していたことがあるという。知識と競争中心の教育から、中学生が将来に夢を持ち、それに向かって進んでいくやる気を育てられるような教育に転換することが急務と認識されたのである。自由学期活動（進路探索活動、芸術・体育活動、主題選択活動、仲間活動）に充てる時間は 170 時間以上と決まっている。韓国教育部（日本の文科省に相当）が運用モデルの一つとして、午前中は各教科に充て、午後を自由学期活動とする例を紹介していたが、先にも述べたように、午前中の各教科でも授業方法、評価方法が刷新されており、教育課程全体を通じて、生徒の主体性、問題解決、経験、コミュニケーション等が重視されていた。このように見てくると、表現こそ異なるものの、韓国でも「主体的・対話的で深い学び」が求められていると言えそうである。

自由学期制は 2013 年度に数校で試験的に導入され、2016 年度から本実施されたのだが、先行実施を希望する学校が非常に多かったと聞く。試行期間が終わる頃に、生徒、保護者、教師に満足度を調査したところ、いずれも 5 ポイント中、4 ポイント前後と好評

価だった。今や自由学期制にとどまらず、自由学年制も誕生しているという。この制度を知ったとき、魅力を感じると同時に、保護者や教員、生徒自身から大学入試への不安や学力低下の心配は起こらなかったのだろうかとなった。韓国では政府の平準化政策により、人口の多い都市を中心に高校入試は行われない地域が多い。もちろん職業高校や英才学校のように受験による選抜が行われる学校もあるが、私立高校も平準化政策に組み込まれており、生徒は公立私立を問わず、割り振られた高校に進学することになっている。それ故、一発勝負となる大学入試が過熱すると聞いたことがあるが、自由学期制は中学校に導入されたので、大学受験まではまだ時間があるためか、概ね好意的に受け入れられているように見える。もしかすると、子どもたちが将来への希望を持っていないことの方がより深刻なのかもしれない。

韓国では大学卒業者の就職難や中堅技術者の不足も問題になっている、進路教育に力が注がれている。2011 年には「進路・進学相談教諭」が各校に配置され、2015 年 6 月には「進路教育法」が制定された。中学校・高等学校の選択科目には「進路と職業」があり、自由学期活動のなかにも進路探索活動があった。日本の職場体験が参照されたとも聞くが、中学校 1 年生、2 年生のうちから、自身の適性を探り、進路や就きたい職業が具体的にイメージできるような

働きかけが為されている。高校改革については、2017 年に「魅力的な専門高校育成事業」や「単位制高校の推進方針及び研究校の運営計画」が相次いで発表されており、単位制高校については 2022 年度からの全面導入を目指しているようである。

＊

さて、日本の教育に話を戻そう。「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、各校がカリキュラム・マネジメントに着手している。高校入試がある日本の中学校では、韓国の自由学期制のような大胆な取り組みは難しいかもしれないが、既に職場体験の実績があるように生徒をホンモノに触れさせ社会参画を早めることや、カリキュラムの一部で時間の枠を撤廃して、生徒が一つのことに没頭できるような時間を創出することならできるかもしれない。評価方法や評価に対する考え方にも変革が必要な時期が来ているのではないだろうか。高校の教育改革は進路を進学とする場合、大学入試改革と一体で行うことではじめて現実的になる。高等学校地理歴史科の新科目も、知識を問われるだけの入試問題が続けば変わることは難しい。30 年ぶりの科目再編とその内容や方法の改革が「絵に描いた餅」で終わっては元も子もない。「持続可能な社会」を中心となって担っていく世代が幸福に生きられるように、教育のことを本気で考えることが求められている。教育が変わる時が来た。

離島にみる読書環境づくりの工夫

文学部 教授 野口 武悟

1. はじめに

筆者は、2019年4月から2020年3月までの1年間、専修大学長期研究員として研究に専念する機会を得た。研究テーマは、「日本の離島における読書環境の現状と課題」である。日本はたくさんの島々からなる島国である。しかし、「離島」と呼ばれることの多い小さな島々の読書環境に焦点を当てた研究は意外なほど少ない現状にある。そこで、今回、1年間をかけて、離島の読書環境の実態を探るべく、質問紙調査と訪問調査を行った。

本稿では、質問紙調査と訪問調査で得られた成果のいくつかを通して、離島の読書環境の現状と、さまざまな工夫のもとに取り組まれている読書環境づくりの事例を紹介したい。

2. 離島の読書環境の現状

まず紹介するのは、質問紙調査の結果である。離島の読書環境のおおまかな現状を把握するために、人口3万人未満の離島だけから構成される全国57の地方公共団体（以下、自治体）を対象として調査を行った。

対象となる自治体内の読書環境の実数としては、公共図書館・公民館図書室等が57、小学校（小・中併置校、分校を含む）の学校図書館が225、中学校の学校図書館が79、高等学校その他の学校図書館が38、書店が48であった。57自治体を対象に調査して、公共図書館・公民館図書室等の数が

57という数字を見て、調査対象とした自治体のすべてに設置されているのではないかと思う人もいるかもしれない。しかし、実際はそうではない。公共図書館・公民館図書室等の現状に絞って、もう少し詳しく見ていきたい。

57自治体のうち、公共図書館・公民館図書室等が設置されている自治体は50（87.7%）であった（このうち公共図書館の設置自治体に限ると25）。設置されていない自治体では、小学校等の学校図書館を地域開放して、住民に図書館サービスを提供しているところが多かった。

公共図書館・公民館図書室等の職員数は、平均すると1館あたり4.2人（うち非常勤が2.6人）であった。44.7%の公共図書館・公民館図書室等では非常勤の職員のみで運営されていた。職員全体に占める非常勤の割合が高まっているのは全国的な傾向であるが、離島においても同様であることがわかった。一方、蔵書冊数や資料購入費は、公民館図書室等も含めた

数値であることを考慮しても、全国平均に比してかなり規模が小さいことがわかった。蔵書冊数は、平均すると1館あたり38,527冊（最大133,849冊、最小3,000冊）であった。日本図書館協会の『図書館年鑑2020』によると、2019年度の全国の公共図書館1館あたりの平均蔵書冊数は137,272冊であり、離島で蔵書冊数が最も多いところと全国平均がほぼ同規模であった。また、資料購入費は、平均すると1館あたり184.4万円（最大1,000万円、最小15万円）であり、全国平均の845万円の5分の1程度の規模であった。なお、こうした蔵書冊数や資料購入費の小ささを補う意味でも重要となるのが都道府県立図書館との連携であり、連携している割合は実に94.8%にのぼった。

3. 読書環境づくりのさまざまな工夫

このように、離島の公共図書館・公民館図書室等は、厳しい状況のもとで運営されていることが



写真1 1つのカウンターで買うと借りるの両方ができる（礼文町）

うかがえる。もちろん、それだけでよしとするところではなく、多くの公共図書館・公民館図書室等が限られた条件のなかでもハード・ソフト両面にわたるさまざまな工夫を凝らして住民の読書ニーズに応えようとしている。次にこの点を訪問調査したいくつかの事例から見ていきたい。ここでは、北海道礼文町、島根県海士町（隠岐・中ノ島）、沖縄県久米島町の事例を紹介する。

北海道礼文町では、読みたいときに読みたい本が手にできない状況を解消するべく、1993年10月に町立施設「BOOK 愛ランドれぶん」を開設した。この施設は、書店と図書室の複合施設で、本を買うと借りるの両方ができる。書店部分も含めて町教育委員会が直営で運営しており、カウンターも共通となっている（写真1）。職員に伺ったところ、新刊の本は書店コーナーでの販売をベースとし、発売から一定期間過ぎたものを町の予算で購入して図書室コーナーの蔵書にしているとのことであった。図書室コーナーでは、次代を担う子どもへのサービスを重視しており、充実した児童コーナーが設置されていた。

島根県海士町では、2007年度から「島まるごと図書館」という事業を行っている。これは、町の中央図書館を「本館」として、学校図書館、地区公民館、港のターミナル、保健福祉センターなど人が多く集まる拠点を「分館」と位置づけて、島全体を1つの図書館



写真2 港のターミナルの分館。船の乗船直前でも本が借りられる（海士町）

と見立てるものであり、町民誰もが等しく図書館サービスを受けることができる環境の構築が目指されている。分館は教育委員会以外の所管の施設、民間の施設（私立保育園、ホテルなど）にも置かれており、その数は島内約20に及ぶ（写真2）。まさに島（町）ぐるみの取り組みであり、町内外から高く評価されている。

小さな図書室しかなかった沖縄県久米島町では、2018年度から電子図書館の実証実験を行っている。今般のコロナ禍で全国的に電子図書館への関心が高まったが、手元にスマホやPCがあれば来館しなくても利用できる電子図書館は複数の離島からなる自治体にとっても、新たな読書環境づくりの手段となり得る可能性を有している。同時に、久米島町では、電子図書館だけでなくリアルな町立図書館を新たに開設させるべく準備を進めて、2020年10月30日に「ほんのもり」（複合型防災・地域交流センター2階・3階）が開館した。

4. おわりに

以上、本稿では、離島の読書環境の現状を質問紙調査の結果から、また、そこでみられるさまざまな工夫のいくつかを訪問調査の結果から紹介した。地域の状況が都市部、農村部、離島部などで異なるように、そこにある読書環境の実情も当然ながら多様である。しかし、既存の司書課程用のテキストや図書館情報学の専門書では、こうした地域多様性を十分に伝えられているわけではない。今回の研究を通して得られた知見を今後の司書課程の授業に生かすことで、図書館を画一的に捉えるのではなく読書環境の地域多様性を意識しながら実践に取り組める司書を養成していきたいと考えている。



「私立専修大学」と改称した頃

教職課程



10号館（生田キャンパス）

卒業生から（国語）

四街道市立四街道中学校 教諭 保坂 もも子（令和元年度文学部日本語学科卒業）

【はじめに】

皆さんこんにちは。私は現在、四街道市立四街道中学校で国語科の教諭として勤務しています。今年度新採用で本校に着任し、2年生の担任を受け持っています。まだ1年目（正確には半年…）の私に、皆さんのためにお話しできることがあるか分かりませんが、参考になれば嬉しいです。

【学級担任として…】

私は現在、2年生の担任をさせて頂いています。当たり前のことですが、担任の仕事は私が生徒として目にしていたことだけではありませんでした。毎日が初めての連続で戸惑うことばかりですが、担任として授業だけでなく給食や清掃、休み時間など、多くの時間を子どもたちと過ごすことで、様々な気付きが得られます。

「楽しくなければ学校ではない！楽しいだけでも学校ではない！」これは大学の授業でお世話になった、専修大学附属高等学校の根本校長先生がおっしゃっていた言葉です。子どもたちにとって学校は1日のほとんどを過ごす場所です。私は一人ひとりが少しでも楽しく充実した学校生活が送れるよう、一人ひとりに寄り添った指導がしたいと思っています。しかし「楽しいだけが学校ではない」ということも同時に伝えていく必要があります。学校生活を楽しむ中でも、時には自分のやりたいことよりも他のことを優先したり、何かを我慢したりすることが求められる場面もあります。これは子どもたちがこれから進んでいく将来でも同じことです。だからこそ今の私の課題は「楽しくなければ学校ではない！楽しいだけでも学校ではない！」を子どもたちに伝えていくことだと思います。どのように話せば伝わるのか日々模索中です…。



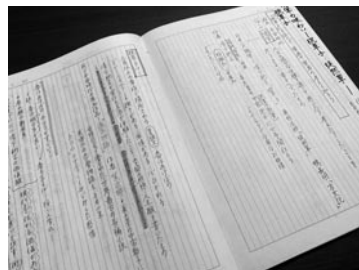
授業の板書

先したり、何かを我慢したりすることが求められる場面もあります。これは子どもたちがこれから進んでいく将来でも同じことです。だからこそ今の私の課題は「楽しくなければ学校ではない！楽しいだけでも学校ではない！」を子どもたちに伝えていくことだと思います。どのように話せば伝わるのか日々模索中です…。

【教科指導】

現在は新型コロナウイルスの影響で、1コマ40分の授業を行っています。通常50分の授業が短縮された授業時間になり、その中

で音読や話し合いをするのはとても難しく感じます。しかし話し合いをすると、時には私が思いつかなかったことや、指導書に書いていない発想が出てくることがあります。そんなことがあると、「教えている」というよりも「教えられている」と感じます。授業をするたびにたくさんのことを子どもたちから学んでいます。



授業ノート

準備に時間をかけると、その分子どもたちが集中して授業に取り組む様子が見られます。準備に時間をかけ何度もイメージトレーニングをした授業では、子どもたちの話し合いが活発になったり、とても良い意見が出たりと、ほんの少しだけ手応えを感じられることもありました。たくさん準備をしても手応えを感じられることは稀ですが、だからこそ「教える」ということにやりがいを感じています。

先生方の授業を参観させて頂くと、「自分の説明と言葉が一つ違うだけでこんなにも反応が違うのか！」と気づかされます。まだまだこれから。先生方の授業から技を盗み、1日でも早く先生方のような授業ができるようになりたいです。

【おわりに】

教員になってから「1年目で担任なんてすごいね」と周囲から何度も言ってもらいました。しかしそう言ってもらう度に、すごいのは私ではなく、私と一緒に頑張ってくれる子どもたちと、いつもフォローしてくださる先生方だと感じています。本当に恵まれた環境で教員が出来ていることに感謝しています。皆さんが教員になるときもたくさんの不安を感じるとと思いますが、教員にとっても「楽しくなければ学校ではない！楽しいだけでも学校ではない！」と思います。学校は様々なことに会える場所です。今まで知らなかった知識、尊敬できる先輩の先生、そして「もっと頑張りたい」と思える子どもたち。きっとたくさんの良い出会いが待っています。そのときまで不安に負けず頑張ってください。私も頑張ります。ありがとうございました。

The spring this year in Japan was like no other. The novel coronavirus, COVID-19, swept away all Japanese traditional educational practices. No kids dressed in new school uniforms walking to school with their smiling parents aside, no photographs under the cherry blossoms in full bloom at the corner of school field, no commencement in March, no orientation in April, the traditional markers of the Japanese academic year. Schools in April are usually vibrant with many welcoming events by seniors and extracurricular activities, followed by class photo sessions and medical check-ups. Instead, schools fell completely silent. There was no laughter of students or the sound of chalk running on the blackboard. It was as if schools across Japan had fallen in a deep sound sleep even during the daytime. Only sound did I hear was the clacking sounds of my business shoes that resonate eerily in a hall way.

Almost all Japanese schools were forced to close down under the state of emergency issued by the Japanese government. To reduce a risk of students and teachers being infected with COVID-19 and prevent the novel virus from spreading further across the entire archipelago, school officials demanded that all faculty and students stay at home and take enough health protection measures, avoiding 3Cs(closed spaces, crowded places, and close-contact settings). The sudden disruptions caused by the virus have changed both teacher's and student's lives in many ways. The coronavirus pandemic shed the light on the gap between schools which have the access to the Internet and don't. The sudden school closure also gave a great impetus to the necessity of online learning.

It is never easy to teach or learn virtually, especially when neither educators nor learners have had experience of distant learning programs. All teachers must prepare for the second wave and third wave of the infections since no vaccine is yet widely available at the time this article is written. The constant trial and error of online teaching has taught me some important lessons. Here are some things I wish I had learned in my college days to help me deal with the challenges that the coronavirus pandemic presents:

1. Basic computer editing skills (making handouts and power point slides, voice recordings)
2. Public speaking skills (making eye-contact[s], good posture when speaking, voice projection)
3. Knowing how to utilize online learning tools in a timely and efficient manner (starting zoom lessons, uploading some materials on a learning platform, collecting and evaluating students' work online)

1. Basic computer editing skills

Preparations for online learning is slightly different from the ones for actual classes at school. Since traditional "chalk and talk" methods do not work online, the approach must be modified; everything must be digitalized. Teachers in a virtual classroom at least should be able to "upload" a file instead of passing on paper handouts, "record" your voice instead of giving a talk in class, and "make some slides" instead of writing on a

blackboard.

Some of you might think that modern teachers need to be tech-savvy. However, that is not always the case. Some teachers prefer spending much time adding fancy visual effects on their shootings but they end up cutting their time for video editing due to their demanding class schedule. Simplification might be a key in order for your online class to be sustainable and successful.

2. Public speaking skills

Even in virtual classroom settings, teachers have to be careful with the way they behave and they deliver their voice. Volume check is required each time you shoot a video or start an online live lesson. Teacher's voice should be clear enough so that students will feel comfortable listening.

Your video should be no longer than ten minutes because the shorter your video becomes, the more convenient to edit and retake the video. Another reason is that students, most of whom grow up with TV games and YouTube, tend to skip some parts of the lecture once they find it boring or unmeaningful. Short videos also are effective and time-saving in that it would not take much time to upload if the file size is relatively small and that the screen is less likely to freeze when students view the content. Too much online lecturing can be a burden for learners and the network. Teachers must admit that in-person instructions cannot be replicated effectively online.

3. Knowing how to utilize online learning tools in a timely and efficient manner

Knowing how to use online learning tools is one thing. Being able to actually use them in a real situation is quite another. I knew there are many useful online educational resources, but I had no idea how these tools would fit together and work for my students before this health crisis. It would be a great advantage if you are familiar with online learning tools in advance and swiftly incorporate them at your school in the event of another school closure.

It is greatly advised to make sure that your online learning tool does not violate the school policy. You also must obtain permissions from the school principal and guardians especially when it charges money to use. If you wish to use the tool across the board at the school, teamwork with your colleagues will be indispensable.

Last, but not the least, a distant learning program is based on the premise that all households are connected to the Internet and all students have their personal device at school and home. When all educational institutions move ahead for online learning without checking the networking environment of each household, there is always a certain number of students who will be left behind and they will fall victim to this drastic educational reform. Teachers need to be updated in accordance with the diversified needs of each student. No one should be left behind just because they cannot go to school or they do not have their personal device. In these unprecedented times, school teachers are asked to reimagine their essential role as a teacher and deal with the evolving situations of the coronavirus far more flexibly.

卒業生から（総合的な探究の時間）

私立N高等学校 通学コース運営部 大宮キャンパス 教諭 鬼武 和南（平成25年度法学部法律学科卒業）

○「イケてること」をしましょう。」

新年度が始まった時に必ず生徒達に伝える言葉です。大学生のみなさんなら何を思うでしょうか？今回執筆のお話をいただいて大分頭を悩ませました。短い文章ではありますが、みなさんの中に何か残るものがあれば幸いです。

○新しい学校

私は現在、N高等学校という通信制高校で教員をしています。N高等学校はKADOKAWAとドワンゴが創るネットと通信制高校の制度を活用した新しい高校です。そこで私は高校卒業に必要な単位修得だけでなくプラスアルファの課外授業を受け、自分だけの武器を持つことを目指せる通学コースで働いています。全日制の学校と同様に1限から6限まで決められた時間割が設定されていますが、全日制の学校と異なる点として、①1、2限でプロジェクトNと呼ばれる課外授業が



2020年度プロジェクトN授業の様子

ある、②生徒は1ヶ月に1回、授業時間中に担任と個人面談を実施するという2点があります。

○プロジェクトN

プロジェクトNとは、アクティブラーニング形式の課題解決型学習の授業です。グループワークを基本に、実社会を題材に課題を考え、解決策を発見・発表します。例えば、SDGsの啓蒙活動のためのグッズを企画・製作するなど多種多様なプロジェクトを行なっています。私自身は地歴公民の免許を持っていますが、時には法律関連の授業をすることもあれば、理科関連の授業をすることもありますし、ヘルスケアを広めるゲーム企画・製作の授業を行うこともありました。回によって分野が異なり、授業者も専門の免許を持っている教員とは限らないため教材研究を念入りに行い、必要であれば生徒が使用するITツール（G SuiteやAdobe Creative Cloud等）の操作もできるようになくてははいけません。非常に苦労しますが、世の中の動向を鑑みると、科目指導だけでなく、実際に社会に出た時に必要なスキルを育むことに直結することがわかり、大人になっても新しいことに日々向き合える楽しさを感じるため、苦労と合わせてやりがいも感じています。

○個人面談

私の主な仕事は個人面談だと言っても過言ではありません。生徒1人に対して約30分

の個人面談を1日平均5、6人実施するので1日の大半を生徒と話して終わります。話す内容は多岐に渡りますが、生徒が卒業しても社会で主体的に行動し活躍できるよう、自立を目指したコーチングをすることが目的としてあります。しかし、昨今子供達の自己肯定感・自己効力感の低下が著しいとされており、自立を目指す以前に、まずはその課題を解決する必要があることを顕著に感じます。「私なんて」「私なんか」「どうせできない」というマイナスの言葉のオンパレードです。稚拙な表現ですが、もったいなくないですか？何にでも挑戦できて、失敗しても何度でもやり直せる非常に貴重な年齢で、その機会を自分から手放してしまうのは生徒達の成長の妨げになると思います。

学生時代、教育実習を行った時に指導教諭から「何かを伝えるためには自分の言葉を使わない」というアドバイスをもらいました。“自分の言葉”を使うためには、伝えたいことを適切に表現する語彙や表現を知らなくてはなりません。短い時間の中でどうしたらその子の成長に繋がる言葉を紡ぐことができるか、恥ずかしながら改めて国語の勉強をして、試行錯誤する毎日です。言葉が全く響かず悔しく思うこともあります。俯いてばかりの生徒と目が合うようになったり、声を聞き取るのもやっとだった生徒が大勢の前で発表する姿が見えることが糧になっています。

○イケてることをし続けられる教員であり、キラキラした大人でいたい

冒頭に戻りますが、「イケてること」とはどんなことだと思いますか？私が考える「イケてること」は、好きなこと/やりたいことに一生懸命取り組むことや、新しいことに挑戦し続けることです。N高に入職して3年になりますが、様々な授業を行い、様々な生徒と接する中で、私は夢を忘れず、学び続ける姿勢をいつまでも持ち続けるキラキラした大人でいることが、生徒の成長に影響を与えるのではないかと考えています。

教員になることを迷っている人もいますが、教員でなくとも、これを読んだみなさんが自分が思うやりたいことに一生懸命になれる道を進めることを願っています。



2019年度2学期終業式の筆者

卒業生から（小学校）

流山市立小山小学校 教諭 水代 稔泰（平成23年度法学部法律学科卒業）

はじめに

千葉県流山市立小山小学校の水代稔泰と申します。現在5年生の担任をしています。今日に至るまで多くの経験から感じたことや思ったことをみなさんにお伝えしたいと思います。

子どもにとっては一人の先生

私は大学を卒業後、中学校で講師を2年間、小学校で講師を3年間していました。長い講師経験の中で感じたことや新規採用になってからのことをみなさんにご紹介します。

一般企業とは異なり、講師には、入社後の研修がありません。4月に学校に着任し、1週間もすれば、子どもの前で「先生」になります。右も左も分からないまま、少し手探りで始まる新学期。みなさんが子どもならどう思いますか。不安いっぱい先生の姿は、子どもたちも敏感に感じ取り落ち着かないでしょう。採用試験に合格すると、指導教官がついて一から色々なことを教えて下さるのに対して同じ大卒1年目での講師は指導教官がいません。ですから、周りの先生にたくさん聞いて、たくさん見て、たくさん教えてもらわないといけません。

そんな中、私は小学校の教員免許取得のため通信制の大学に通い、仕事と学生の両立をしていました。仕事をしながら大学の学習をすることは大変困難を極めました。平日は一人一人の子どもたちと向き合い、休日は部活動に免許取得の勉強、採用試験前ともなれば正直いくら時間があっても足りないくらいでした。しかし、そんなことは目の前の子どもたちには関係ありません。1年間で子ども達が家族と過ごす時間と学校で先生と過ごす時間を比べるとおそらく学校で先生と過ごす時間の方が多いでしょう。小学校で勤務してわかったことですが、子ども達は無意識のうちに先生の好きなキャラクター



のものを好きになったり、先生の言葉遣いや立ち振る舞いを知らず知らずのうちに真似したり身につけていきます。ですから私たち教員はその立ち振る舞いからもお手本とならなければならないのです。

いつも通りにはいかない

教員の仕事は何ですか？と問われると多くの人は「勉強を教える仕事」と答えます。しかしながら、「教科の勉強」だけが私たちの仕事ではありません。校務分掌、学校行事、学年での仕事、施設の管理、事務処理など数多くの仕事があります。ですから、勉強を教えるだけでなく様々な仕事をこなすことから、「何でも屋」と言う人もいるくらいです。

たくさんの仕事の中で、私たち教員にはこれをすれば絶対に成功するという「マニュアル」はありません。なぜなら、地域や環境が違えばそこに住む人が違うように、学年や学級が違えばそれにあった指導が必要になってくるからです。どんなに一生懸命準備をしても、うまくいかない事もたくさんあります。学級にいる子どもが30人いれば30人違った考えを持ち、こちらが予想もしていない反応をしたりもします。だから、楽しいのです。明日はどんなアプローチをかけようか、どうしたらもっと発言してもらえようかなど、先輩の先生や学年の先生に相談しながらチームとして日々の指導にあたっています。

みんな違ってみんな良い

学校には様々な悩みや困難を抱え、その悩みや困難をどうにか解消したい、解消の糸口をつかみたいと考えている子どもたちもいます。特別支援教育を必要とする子どもたちも日々チャレンジしています。毎日、一人一人が様々なことに向かって挑戦するように私自身も子どもたちからエネルギーをもらいチャレンジしています。

最後に、皆さんにお伝えしたいことがあります。今、皆さんもぜひ「チャレンジ」してみてください。失敗や成功の中に貴重な発見があるはずです。それがのちの財産となるでしょう。いつか教壇に立つ日を夢見て頑張ってください。

①はじめに

この度、私は令和2年度東京都公立学校教員採用候補者選考に合格し、来年度から夢であった国語科教員の道に進みます。本稿では教員採用試験を受験するにあたって取り組んだ私なりの対策や心構えを中心に記していきます。

②一次試験について

東京都の一次試験は教職教養・専門・論文があります。はじめに取り組んだのは東京都の出題科目や形式、特徴を知ることでした。私は東京アカデミーの学内講座を受講していましたが、過去問題集を使って自主的に勉強を開始したのは3年の10月頃でした。教職教養は学内講座で知識を得た後に、自宅で過去問題集を解くことで定着を目指しました。ここで過去問題集を重宝したことで、解きながら出題頻度の多い条文や教育者、用語等の傾向を知り、“ここは絶対に間違えない！”というポイントを絞って勉強することができました。

専門については過去問題集を解くこと以外是对策しませんでした。本番では教職教養を終えると休む間もなく専門の試験だったので疲労で頭がまわらず解き終わらなかったのを覚えています。日頃から解く時間を少し短めに設定したり教職教養の後に続けて解く練習をしたりすればよかったと反省しています。

論文に関しては、まず何を答えに求められているのか・課題の背景には何があるのかを教職教養の知識をもとによく考えること、そして何より教員としての熱意や誠意を伝えることを意識しました。習得した各法令や教育用語等についての知識を現場でどう活かせるのかを能動的に考えていればどのような課題でも対応できると思います。

③二次試験について

一次試験同様に、まずは課される内容を知ることが大事だと思います。私は東京アカデミーの講座や大学の二次試験対策特別講座、そして同じ自治体を受験する友人等から主に情報を収集しました。例年、集団討論や面接で聞かれることをノートにまとめ、あらかじめ

め自分なりの考えを作りました。面接官に考えを伝えるにあたって意識したのは、自分の中で教育目標を明瞭



レジュメと単語帳

にすることでした。おそらくどの自治体でも志望動機や理想の教員像は問われますが、他の多くの質問についても面接官が見ているのは受験者の確固たる信念とそれに向ける情熱だと思います。本番では想定外の質問が来ることもあります。そんな時こそ、自分で考えた理想像や目標は多くの質問に通用するはずなので、必ず軸を作って挑んでみてください。

また、二次試験対策で一番効果的だったのは、同じ試験を受ける仲間がオンラインで開いてくれた集団討論に参加したことでした。初めて話す人や舵を取る人、熟慮する人等と関わる中でどの人とでも協同する姿勢を養えたことは本番での自信につながりました。

④終わりに

私は私学適性検査も受けました。試験内容は教職教養と専門のみなので受けてみましたが、後日様々な私立学校からお声掛けをいただきました。充実した教育設備や教育内容の豊富さ等、私立だからこその特色に改めて気づかされました。教員になる選択肢の一つとして考えてみてはいかがでしょうか。

私が採用試験を頑張れたのは、教員への憧れ、そして何より周りの大切な人たちの支えがあったからです。

当日は大変緊張し、挑む前からもう面接なんて二度とやりたくないというのが本音です。しかしそんな私の背中を押してくれたのは大切な人たちの存在でした。一人でやっていく強さもありますが、時には周りを頼ったり助けたりして道を拓いていってください。

最後に役に立つかはわかりませんが、私が本番前に救われた言葉を記しておきます。「人を信じよ、しかしその百倍自らを信じよ。」「面接で命とられるわけじゃないんだから！」皆さんの健闘を祈っています。

はじめに

この度、令和2年度神奈川県公立学校教員採用候補者選考試験に合格し、4月から神奈川県内の高等学校の英語科の教員として働かせていただくことになりました。私のこれまでの経験が皆さんのこれからの試験対策の参考に少しでも役立つ機会になればと思います。

1次試験

私は3年生の4月から東京アカデミーの対策講座を受講していたため、試験勉強は1年と半年程していました。神奈川県の高等学校英語の1次試験は通常、教職・一般教養（60分）と専門教科（60分）、論作文（60分）ですが、コロナの影響で密を避けるため今年度の論作文は中止となりました。また、私は特別選考の英語資格所有者という制度を利用して応募したため、専門試験も免除となり実際に受けた試験は教職・一般教養のみでした。ちなみに英語資格所有者というのはTOEIC（IPテストは除く）730点以上もしくはTOEFL-iBT 80点以上、実用英語技能検定準1級以上のスコアを持っていると応募が可能になります。試験勉強も大幅に絞って集中することができるので、神奈川県の高等学校英語を志望される方はぜひ検討してみてください。

次に具体的な試験対策として、教職教養は東京アカデミーで配布されたハンドアウトに講座受講中はひたすらメモを取り、自宅でページ後方にある1問1答を解くというのを覚えるまで何度も行いました。知識が浅かったため9月までは講座で得た知識を頭に詰め込むことに集中し、9月以降は問題集や過去問をできるだけ多く解いて苦手を潰していくことに尽力しました。

一般教養は理数系科目が苦手だったためその対策に力を入れながらも、得意な英語や国語の問題で落とさないように神奈川県の過去問を何度も使用し出題傾向を把握しながら対

策していきました。芸術科目（音楽と美術）は例年それぞれ1問ずつしか出ないので有名な人物のみ覚えるようにしました。

2次試験

神奈川県の高等学校英語の2次試験は通常、個人面接と集団協議を含む模擬授業、実技試験でしたが1次試験同様、コロナ対策のため個人面接のみ実施されました。2次試験の日程は予定よりも後ろ倒しとなり、1次の合格発表から1週間程空いたため対策に少しだけ時間をかけることができました。

また具体的な対策としては、市販の面接対策本を購入するだけでなく、専修大学主催の2次試験直前対策に申し込み教職課程の担当の先生たちにご指導いただいたり、先輩方の体験談を元に自分なりの返答を考え、自宅の鏡の前で練習するなどしました。1人で何度も練習することも大切ですが、時には同じ採用試験を受ける仲間と声を掛け合い練習することや、先生方に実際に見てもらうことも、多角的な視点から見てもらえる点や本番さながらの緊張感に対応するといった点でとても大切だと思います。

終わりに

私なりの試験対策を書かせていただきましたが、1番大切なのは「教員になりたい」という強い気持ちです。その気持ちを忘れなければどんなに試験勉強がキツくても、どんなに不安でも今まで辛い教職課程を履修し続けてきた皆さんなら、絶対に乗り越えていけるはずです。陰ながら応援しています。



試験勉強中に使用していたハンドアウトと過去問題集

1. はじめに

この度、令和2年度川崎市の教員採用試験に合格し、目標であった社会科教員の道に進むことになりました。大変恐縮ではございますが、折角の機会をいただきましたので、教員採用試験を受験するにあたっての私の体験を書かせていただきます。これから受験を考えている方々の、少しでもお役に立てれば幸いです。

2. 一次試験対策

私自身、今までスポーツ特待や付属推薦を利用して進学してきたため、受験勉強を経験しておらず、学力的にも合格はかなり厳しい状況にありました。そのため、3年生の4月から勉強をスタートすることにしました。まず、教養科目（教職教養・一般教養）の対策のため、学内で開講されている東京アカデミーの講座を受講しました。講座では出題されやすい部分に力を入れて解説してくださるので、どの部分を重点的に勉強すればよいかわかることができました。また、講座が終わった後は教室に残り、その日の範囲を復習して帰るようにし、帰ってからはその範囲の問題を解くといった方法で勉強をしました。

専門科目は講座では開講されていなかったため、自身で教材を決めて勉強することになりました。教養科目と同様、右も左も分からない状況からのスタートだったので、周りの友人や、教職公開講座で聴いた先輩方の話をともに勉強法を探りました。自治体によって様々ですが、専門科目は教養科目に比べて、かなり高いレベルの問題が出題されます。確実に合格するために、私は日本史・世界史・地理・政経などのセンター過去問を解き、どの教科も9割程度の点数を取れるまで徹底的に勉強をしました。また、エクステンションセンターにある教員採用試験の過去問も積極的に活用し、間違えた部分は参考書をもとに再度勉強をしました。当日の問題は出題形式が大幅に変わっていましたが、入念に勉強していたおかげで



使ったテキストやノート類

合格を掴み取ることができました。

3. 二次試験対策

二次試験に臨むにあたって、私は論作文と面接の対策に力を入れて取り組みました。これらの対策は自分一人の力でどうにかするも



二次対策のために読んだ書籍の一部
のでなかったため、先生方や周りの友人の力を借りて対策に臨みました。コロナ禍もあり、大学へ直接行くことができない日々が続いていたので、大学の先生にメールで連絡を取り、オンラインでの面接練習を何度もお願いしました。加えて、学内で開講された対面での対策会にも積極的に参加し、多くの先生方に指導していただきました。

論作文に関しては川崎を受験する友人たちと協力し、週に何日かオンラインで批評や添削をし合う時間を設けて対策をしました。また、論作文のテーマはその年によって様々なので、どんなテーマが出題されても対応できるよう、教育に関する書籍や答申資料などには何度も目を通し、理解を深めました。このようにして勉強し、週に最低でも3本程度書くことで自然と文章力が身についていったように思います。

4. おわりに

教員採用試験は高倍率の自治体も多く、狭き門であると思います。僕自身、勉強を始める前は「自分なんかで現役合格なんて無理だ」と考えていました。しかし、勉強をしていくうちに自信が持てるようになり、本番は「これだけやったし、絶対に受かる」という強い気持ちで臨むことができました。やはりなによりも「強い気持ち」が大切であると思います。最後になりますが、私が合格できたのは、周りの先生方や、いつも気にかけてくださる職員の方々、そして同じ志を持った友人がいたからこそであると感じています。本当に感謝しています。みなさんに恩返しができるよう、全力で4月から始まる学校生活に取り組んでいきます。

はじめに

この度、令和2年度東京都教員採用試験に合格し、目標にしていた教員の道に進むことになりました。これから教員採用試験を受験しようと考えている皆さんに少しでもお役に立てればと思い、体験記を書かせて頂きます。

1 次試験

東京都の1次試験では、教職教養、専門教養、論作文がありました。東京都はそれぞれに最低基準点（専門教養は分野別最低基準点）を設けており、全体的に勉強しておかなければ、合格はとても難しいものになります。その上で、私が行ってきた対策を紹介します。

第一に、教職教養についてです。東京都は他県とは異なり、一般教養がないため、各分野の難易度が高いことに加え、長い文章での問題形式になっており、多くの知識が必要になります。私は学内講座での授業を土台に、講座で頂いたプリントや市販の参考書、パンピの会（嶺井先生が発足した教職の勉強会）で頂いた資料等を使用し、対策を行いました。私は自身の知識が足りていないと感じていたことからある程度の知識をつけてから（4月：1次試験の3ヵ月前から）過去問を行いました。その中で、特に力を入れていたことが過去問や模試で出題される問題（間違えた問題や迷った問題を中心）を振り返ることです。東京都は5択のマーク式になっていることから正解以外の4つの選択肢は全て異なる解答になっています。そこで、一つ一つの問題の選択肢を見直し、どこがどう違うのかを分析して、それを自分自身の使用するプリントやノート等には書き込みました。それを何度も何度も見直すことで同じような問題が出た際に、正解の解答と他の解答は何が異なるのかが分かるようになりました。

第二に、専門教養についてです。東京都の専門教養は共通問題と選択問題があります。上にも記しましたが、分野別の最低基準点があるため、自分自身の専門だけではなく、他の分野も勉強することになります。そのため、私の専門ではなかった教科を一から見直し、高校時代に使っていた参考書、プリント等を

使い、必死に勉強しました。その後、私が受験予定だった自治体全ての過去問と全国の過去問を解き、間違った箇所を確認することを繰り返していました。

第三に、小論文についてです。一番重要な対策としては、何回も書いて添削して頂くことだと思います。そこで、自分自身に足りないものを確認することができました。また、友人達と論作文を見せ合う中で良い所を参考にしたり、新聞の社説を読んだりしていました。それらが2次試験での自分自身の考えに厚みを持たせてくれました。

2 次試験

2次試験の対策は5月頃から始めました。パンピの会で週に一度、意見交換会を行い、様々な方々の考え方を知ることができたこと、さらに友人らで行った試験対策会や専修大学が主催する2次試験対策講座などで何度も練習を重ねられたことが合格した要因の一つと感じています。特に集団討論練習は自分一人ではできないものであったため、集団討論で自分はどのような役割が得意であるのかを把握することができました。また、多くの方の意見を聴くことによって、自分自身の視野を広げられ、自分自身の考えに厚みを加えることができたと考えています。また、個人面接の対策は実践の場をできるだけ設け、自分自身の軸を持ち、練習を積み重ねることが非常に大切だと思います。

おわりに

私が教員採用試験に合格できたのは一緒に切磋琢磨してきた仲間や丁寧にご指導して下さいました先生方、いつも影で支えてくれた家族の存在があったからです。今後も周りへの感謝の気持ちを忘れずに、教員として、人間として大きく成長していきたいと思っています。そして、教師を目指している皆さん、辛い時期もあるかと思いますが、最後の最後まで諦めないで下さい。皆さんの夢、目標が実現されることを心から願っております。



教員採用試験勉強に使用したノート・講座のプリントと資料集

・はじめに

この度、令和2年度川崎市小学校教員採用試験に合格し、4月から教員という立場で働くことになりました。川上翔大と申します。自分にとって教員という職は長年の夢であり、合格が決まった時の喜びは本当に大きなものでした。拙い文章ではありますが、今回は自分の教員採用試験への挑戦についてお伝えしたいと思います。

・一次試験

一次試験の内容は教職教養、小学校全科の専門試験、二次試験で評価対象となる論文試験の3つでした。勉強を本格的に始めたのは3年生の11月でした。自分は東京アカデミーの講義は受講せず独学で教員採用試験に挑むつもりだったため市販の教材で教職教養の暗記科目から勉強を始めました。ひたすら暗記するという作業が苦手だったため、市販の問題集を購入し問題数をこなす中で知識の定着を図りました。年明けごろから専門科目の勉強、論文対策を始めました。4月ごろには教職教養、専門試験ともに点数が7割付近で定着してきたため、論文の勉強に力を入れ始めました。自分は文章を書くということに苦手意識を持っていたため、論文試験対策は非常に大変でした。勉強方法としては過去問に挑戦し、齋藤先生に添削してもらおうという方法で勉強を進めました。(齋藤先生独自の論文対策の資料は非常に役立ちます。)加えて、同じ川崎市の教員を志す同期と論文を批評しあったり、知り合いの現職の先生に添削してもらったり、とにかく色々な方法で論文試験対策を行いました。論文に苦手意識のある方はなるべく早く対策することをお勧めします。



おわかれ会で寄せ書きを受け取る筆者

・二次試験

二次試験は面接試験のみでした。面接試験で大切だと感じたことは、「現場にいかに関わっているか」ということです。もちろん、

面接試験の礼儀作法や、話し方のテクニック等もとても大切だと思います。しかし、面接試験では実際の現場を想定した質問が多いです。そのため、現場に携わらない限り知ることが出来ない学校の雰囲気や子どもたちの現状というものを知っておくということはとても大切だと感じました。実際に現場で子ども達と触れ合う中で気づくこと、子どもの考え方や物の見方など、思っている以上に発見があります。自分は、大学2年生の頃から公立小学校へボランティアに行かせていただいているのですが、その経験は実際の面接試験でとても役に立ちました。面接試験の対策は教育実習に限らず、とにかく現場に足を運び学ぶことが大切だと感じます。



国語「慣用句」の授業（教育実習）

・終わりに

大学生活の中で教育実習、教育ボランティア、大学での同期や先生方、教務課（資格課程）で日々サポートしてくださる事務の方々との出会いなど教員を目指す中で私は多くの出会いに恵まれました。そのおかげで教員採用試験の勉強は範囲が非常に広く、対策がとても大変だったのですが、わからないことは周りに頼りながら勉強を進めることが出来ました。わからないことは一人で悩むよりも周りの人たちに頼りながら解決していったほうが良いと思います。あとは、自分が教員として教壇に立ち、子ども達と素敵な時間を過ごしている場面を想像することが大切だと思います。「こんな先生になりたい。」「こんな子ども達を育てたい。」このような事を想像するだけでワクワクすると思いますし、教員採用試験を乗り越えるための大きなモチベーションになると思います。ぜひ楽しみながら充実した挑戦をしてください。応援しています。自分も夢や目標を持ち、生き生きと社会へ羽ばたくことのできる子どもを育てられるよう4月から全力で頑張ります。お互い頑張りましょう。

1. はじめに

私は母校である福岡県立輝翔館中等教育学校にて、6月8日から6月19日の2週間、教育実習を行わせていただきました。HRの担当をさせていただいたのは5年2組（高校2年生）、で、授業は5年2組に加えて、5年3組を担当しました。題材は、漢文の『画竜点睛』で2クラス×3時間、合計6時間授業をさせていただきました。

2. 授業見学

教育実習において、私たち実習生は生徒たちと同じように学校の時制（時間割）に沿って行動します。そして1日のスケジュールの中で大部分を占めることになるのが授業見学です。私の実習先では、前日までに見学したい授業を決め、その授業の先生に自分で見学の許可を取りに行きます。実習仲間の1日の授業見学の平均は7時限中、3時間～5時間でした。一見授業見学に時間を割きすぎているのではないかと思う方もいるかもしれませんが、ここでしっかりと授業を見学することで、自分の中の曖昧な教師像が具体化します。近いところで、教壇実習（実際に生徒の前で授業をすること）の際のイメージが掴めたり、また将来を見据えた上での、自分のロールモデルたりえるものだと思います。

3. 教壇実習

教壇実習は教育実習における、実習生の最大の関門です。大学で行なった大学生の前でする模擬授業とうって変わり、実際の生徒の前に授業を行う貴重な時間でした。自分が受け持つ範囲をしっかりと目の前の生徒に教えないといけないという責任を強く感じ、それに伴い、緊張感が高まっていったのを覚えています。

以下、実際の教壇実習で気づいたことをお話しします。

【既存スタイルからの転換】

授業は、先生ごとに違って、同じ科目でも先生方それぞれの工夫の上に成り立っており、全く同じ授業ということはありせん。しかし生徒は1年間同じ先生に習い、ある程度その先生のスタイルに慣れた状態で次の学年を迎えます。そんな時、新年度のはじめ、先生方は生徒がいち早く自分のスタイルに慣れてもらうために、最初にどのように進めていくのか丁寧に指導します。私の教壇実習最初の授業では、それが足りていませんでした。

た。どんなに生徒に分かりやすく指導しようと練った指導案も、生徒がやり方を分からず戸惑ってしまったら意味がありません。私は教壇実習を通して、改めて生徒と授業の流れを確認することの重要性を学びました。

【机間指導で見えたこと】

教壇実習1時間目は、とても緊張しました。黒板の前で喋ることはもちろん、机間指導はただまわっているだけで、とても生徒の進捗度を見れたものではありませんでした。しかし、段々慣れて、一人一人の作業しているのをじっくり見ていくと、どの生徒が授業の理解度が高いのか、どの生徒が遅れているのか、それだけではなく、わからないものにも果敢に立ち向かうタイプなのか、諦めが早いタイプなのか、生徒一人一人の顔が見えてきます。黒板の前では見えないことが、生徒の横に立って始めて見えることが沢山ありました。

4. おわりに

私が1番印象に残った担当の先生からの言葉は、「いわゆる『勉強』以外の面からも生徒を知ること、先生と生徒の信頼関係を築いたり、生徒の実態に即した授業ができたりする」というものです。つまり、学校の本分は、もちろん勉強ですが、学校はそれ以外にも行事や部活、その他日常生活など様々な面で生徒が活躍する場があります。学校の先生とは、その様な生徒の、授業だけでは見えない様々な面を真摯に受け止め、生徒のこれからの成長に寄与するものだと思いを改めて感じました。

最後になりますが、今年度はコロナの影響もあり、時制の変更、生徒の消毒・検温カード指導、部活動の感染対策等、通常とは様子が異なる、目まぐるしく学校が動いている中での実習でした。そんな中、実習生を受け入れて下さった、実習先の福岡県立輝翔館中等教育学校に、心から感謝申し上げます。これから実習に行く皆さんもぜひ実習を通して沢山のことを学び、実りのあるものにして下さい。



査定授業の学習指導案(上)、漢文の授業で使った絵(右)、生徒からもらった色紙(左)

教育実習を終えて（英語）

厚木市立相川中学校 文学部英語英米文学科4年 藤田 果歩

はじめに

私は母校である神奈川県厚木市立相川中学校にて、8月31日から9月11日の2週間、さらに10月12日から10月17日の1週間の合計3週間、教育実習を行わせていただきました。学級の担当をさせていただいたのは1年1組で、授業を担当したのは1年1組、1年2組、1年3組の1年生全クラスの英語でした。当初の予定では、5月下旬からの3週間でしたが、新型コロナウイルスの影響により、二学期での実習、さらに3週間から2週間の実習期間に変更となりました。あとの1週間は「学校体験ボランティア」という形で、10月にスポーツデー（体育大会）のお手伝いをさせていただきました。例年とは異なった状況の教育実習の中で私が感じたことを書き綴りたいと思います。

コロナ禍での教育実習

まず、私がこのコロナ禍の教育実習中で一番苦労をしたことは、「生徒との相互理解の距離の縮め方」です。例年ならば班の形にして給食を食べ、その間に生徒とのコミュニケーションを取ることができるのですが、今年は新型コロナウイルスの感染防止対策から全員が前を向いて会話をせずに給食を食べる形を取っていました。教師・教育実習生も同様、最後列で生徒の様子を背中越しで観察し、給食をいただきました。しかし、このような状況の中でも私が自己開示をしていくにつれて、生徒もどんどんと心を開いてくれたように思います。特に授業前には積極的に生徒に話しかけ、どんなに小さな会話でも生徒と交わすように心がけました。



教育実習について

教壇実習は実習4日目から始まりました。道徳の授業も含め、2週間で全13回教壇に立たせていただきました。教壇実習が始まるまでの授業見学の際は、主に指導教諭の授業を拝見し、時には他学年の英語科の教諭の授業を拝見することもありました。私はその時に、各クラスの雰囲気、導入・展開・終末の流れ、教師が生徒にどのような発問をしているのかや、授業スタイル等に特に目を向けて

見学をしていました。4日目から教壇実習が始まり、2週目の月曜日に道徳の授業も担当しました。そして、2週目の木曜日に研究授業を行い、最終日は様々な先生方の授業を拝見しました。担当学級では、朝の会・帰りの会の進行・各連絡を行うことや体温チェック表の確認、通信記（生徒日誌）の確認・コメントの記入等を行いました。

教壇実習を行う中で、私が大切だと感じたことが2つあります。一つ目は、「机間指導」です。私はこれまで行ってきた模擬授業の中で机間指導に注力したことはあまりありませんでした。全体の様子をさっと確認する程度でした。しかし、実際に中学生を相手にしたとき、机間指導がいかに大切かを思い知らされたのです。机間指導をしている間も常にアンテナを張っていることが必要でした。生徒の進捗状況を確認することはもちろん、作業が遅れている生徒のサポートやそれぞれの生徒の進捗状況を見て制限時間を延ばすかどうかの判断、そして、何より大切なことが「生徒が指示を理解できているかどうかを観察すること」です。

二つ目に大切だと感じたことは「導入部分でいかに生徒を引きつけるか」です。私が担当した中学1年生は特に、まだ英語の得意不得意が分かれる前の段階であると感じました。だからこそ、私は「授業が楽しいと思ってもらえたら英語を好きになってくれるのではないか」と思い、特に導入部分ではクイズやゲームを取り入れ生徒たちが主体となって楽しめる活動を取り入れました。その結果、生徒は楽しんでいただいているように思います。ただ、この部分の反省は、凝った導入を考えるために膨大な時間を費やしてしまったことです。小道具などを用意したこともあり思いのほか時間がかかってしまいました。今回は、教育実習生なので時間のある中で、教材研究ができやり遂げることができましたが、実際に教員になった際には、他にも多様な業務を抱える中での授業準備になるので、教材研究にかける時間にも配慮しなければならないと思います。

終わりに

教育実習では、失敗しても当たり前といわれます。しかし、失敗を恐れずに果敢に様々な挑戦をすることと、何より元気な姿でいることが大切だと思います。皆さんの実習においても多くの先生方から様々なことを吸収し、試行錯誤をしながら、自分なりの授業を作っていってほしいと思います。皆さんの教育実習が実りあるものとなるよう願っています。

教育実習を終えて（社会・地理歴史）

私立鶴見大学附属中学校・高等学校 人間科学部社会学科4年 若月 友紀

1. はじめに

私は、2020年9月8日から26日までの3週間、母校である鶴見大学附属中学校・高等学校にて教育実習を行いました。

母校は週6日制であり、例年の教育実習は18日間でしたが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、教員免許取得の必要最低日数である15日間という日程で行われました。

私のホームルーム担当は高校1年生の1クラス、教科担当は中学3年生の1クラスと高校2年生の選択科目の1クラスでした。例年より実習期間が短いため、ホームルーム指導も教科指導も2日間の観察実習後、3日目から教壇実習を行いました。

2. 教科指導について

中学3年生では公民、高校2年生では地理Bの授業をそれぞれ9コマずつ、計18コマの授業を行いました。そのため18種類の授業の準備が必要であり、教育実習の1ヶ月前から教材研究、授業作りを行いました。これまでに大学にて、いくつか指導案を作りましたが、18種類の授業を1ヶ月で準備することは、とても大変で苦労しました。

私は、生徒に「楽しい授業だった」と思ってもらえるような授業を行いたいと考え授業作りと教壇実習を行いました。特に力を入れたところは、導入の部分です。授業の一番初めで、どう生徒に興味関心を抱かせられるか何度も考えました。教育実習前での準備段階で考えたものを活用しつつ、観察実習にて生徒の様子を捉えて、より良い導入への変更も行いました。中学3年生のクラスの場合だと、指名しなくても意見が出るクラスであったため、生徒にとって身近な話題の質問や、生徒の好きなものを理解した上でそれに関連する質問を導入に取り入れました。一方、高校2年生のクラスの場合だと、地理の学習内容の理解度はとても高く、分かっているが発言しないようなシャイな生徒が多いクラスであったため、私自身の旅行の話題や生徒の日常生活に関わる話題を取り入れました。このように、生徒観を考慮した上で導入を検討することで、冒頭で生徒の心をつかむことができました。そして、その後の授業展開におい

ても視覚資料や発問によって生徒の興味関心を継続させることができました。

3. 生徒とのコミュニケーション

私が教育実習を通して心残りなことは、生徒とのコミュニケーションをもっと取って、距離を縮めたかったということです。教育実習前から授業準備を行っていたものの、指導教官との最終の練り直しも毎日夜まで続き、教科指導に重きを置きすぎてしまいました。もちろん授業をやらせていただくため、授業に重きを置くことは大切であるし、生徒とのコミュニケーションもしっかり取り関係を築けていたからこそ、授業での生徒の興味関心も引くことができたと思います。しかし、具体的に言うとホームルームクラスの生徒や部活動の部員とのコミュニケーションは十分ではありませんでした。教科担当のクラスの生徒には駆け寄って来てくれた生徒が数多くいたものの、ホームルーム担当のクラスの生徒と部活動の部員はそういうことは少なかったと感じています。自分から話しかけてはいたものの、その回数や時間が少なかったと反省しています。

4. おわりに

教育実習期間は、限られた時間しかありません。その限られた時間をどう使うかは実習生次第です。やらなければいけないことは必ず行い、プラスアルファをどう実行するかをよく考えて、是非実行してください。一度しかない教育実習を全力で取り組み、楽しみましょう。

最後に、授業づくりの準備にご協力いただいた大学の教授、同級生に心から感謝いたします。



教育実習仲間と（前列の一番左が筆者）

教育実習を終えて（商業）

茨城県立水戸商業高等学校 経営学部経営学科4年 佐藤 康平

1. はじめに

私は、9月7日から9月18日までの2週間、母校である茨城県立水戸商業高等学校で教育実習を行わせていただきました。HR、授業ともに1年1組を担当させていただきました。ここでは、私が教育実習を通して感じたことをお話ししたいと思います。参考になるかはわかりませんが、今後実習に行く皆さんの助けに少しでもなれば幸いです。

2. 教壇実習について

私が教壇実習を行う上で、大切だなと感じたことが大きく2点あります。

まず、1つ目が授業準備をしっかりと行うことです。具体的にいうと他の先生方の授業を見学させていただくことと教材研究をやり過ぎるくらいやるということです。私は、教科指導では1年1組の簿記を担当しましたが、指導教諭をしてくださった先生の授業だけではなく、他の先生方の授業の見学もさせていただきました。色々な先生の授業を見学することで実際に自分がどのような授業をしていきたいのか具体的なイメージが湧きますし、現職の先生方がどのように授業を進めていくかなど様々な点で学ぶことができました。また、教材研究では生徒がどこでつまづきそうか、どのような言葉選びをすれば生徒の理解が深まるのかといった点など非常に細かい所まで考えることが大切だと思います。また、基本的なことではありますが板書計画を考えておくことや授業展開を細部に至るまで検討しておくことなども実際に授業を行う前の準備としては大切です。自分が考えている以上に生徒に寄り添った指導を考えるべきだと感じました。実際の授業では、思うように進まないことが多かったですが、この授業準備は最終的には自分の成長にはつながったなと感じています。

2つ目は、生徒と積極的にコミュニケーションを取ることです。これは、授業内だけではなく、普段の生活面においても大切だといえることでした。教壇実習をする上で、自分が緊張するのはもちろんのことですが、自分だけではなく生徒も緊張しています。ほとんど初対面の教育実習生の授業を受けるとな

るので、当たり前だと思います。生徒の緊張をほぐすという意味でも自分の緊張をほぐすという意味でも生徒と打ち解けるために実習中の普段の生活からコミュニケーションを取っておくことが大切だと思います。私が、生徒とコミュニケーションを取るために心がけたこととしては、授業以外の時間にも積極的に生徒に自分から話しかけることです。例えば、掃除の時間や休み時間、部活動などの授業時間以外のところで生徒とコミュニケーションを取ることで、授業中には見えないような生徒の一面に気づくことができるようになったり、生徒の細かいところまで理解することができたように感じます。授業中のコミュニケーションだけではなく、普段の何気ない生徒との関わりを積み重ねていくことが生徒との信頼関係に結びついていくのだと学ぶことができました。



1年1組へ最後の挨拶

3. 終わりに

教育実習とは、ただ単純に教員免許を取得するためだけの実習ではないと実習を通して強く感じました。実習中には、教壇実習や授業準備など大変なことや苦労はたくさんあります。しかし、それ以上に嬉しいこと、楽しいこと、やりがいがたくさんあります。教科指導はもちろん大切ですが、それだけではなく生徒との関わりを大切にしてほしいです。教師としてだけではなく人として成長することができる貴重な経験だと思います。これから実習へ行く皆さん、不安なことや大変なこともあると思いますが、多くのことを学ぶことができる機会なので、様々なことに関わり多くのことを吸収してください。皆さんの教育実習がより良いものとなるように願っています。頑張ってください！

教育実習を終えて（情報）

神奈川県立深沢高等学校 経営学部経営学科4年 小鳥 朋樹

1. はじめに

私は、令和2年10月23日から11月13日までの3週間、神奈川県立深沢高等学校で教育実習を行いました。そこで1年生のHRや教壇実習（情報の科学）、部活動、行事など様々な経験をさせていただきました。ここでは、3週間の記録や体験したことについて皆さんにお届けできたらと思います。

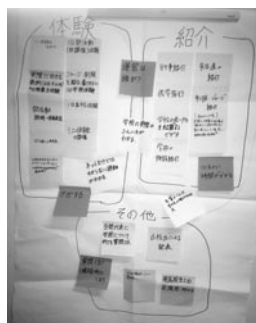
2. 教壇実習

実習の1週目は主に授業のアシスタントを行いました。教科が情報で授業内容としても「グラフの作成」だったので、手が止まっている生徒にアドバイスをを行いながら生徒一人一人の特徴や各クラスの雰囲気に着目して生徒とのコミュニケーションを取ることを意識していました。

実習の2週目からは実際に教壇実習が始まりました。6クラスを担当し全18回（各クラス3回）の教壇実習を行いました。実習が始まる前の事前打ち合わせの時に授業を行う範囲がある程度伝えられていたので、授業準備では、実習1週目に観察した生徒の様子を参考に生徒が興味を持ちそうな題材や授業方法について考え準備を行いました。

実際に教壇に立ってみると、教室全体が広く感じました。また生徒一人一人の視線を大学の模擬授業時とは比べ物にならないくらい感じました。しかし早めから生徒とコミュニケーションを取る機会を頂いていたので、自然と笑顔で授業をすることが出来ました。

授業では生徒が実際に手を動かして体験しながら内容を理解できる題材を用意し、私自身があまりしゃべりすぎず生徒一人一人が楽しめる授業を意識しました。また研究授業では「問題解決の手法」という内容でパソコンを使わず、KJ法という手法を体験する授業を行いました。その授業ではグループワーク



研究授業のワーク

を行ったため教室全体の雰囲気が明るかったのですが、大きな声でしゃべることや話し合いをするときと説明を聞くときの切り替えをしっかりと行うことが出来たので、明るい雰囲気でありながらまとまりのある授業が出来

ました。

3. 教育実習を終えて

3週間の教育実習を通して、授業だけではなくホームルームや部活動、委員会、行事の準備など様々な体験をすることが出



授業を行ったコンピュータールーム来ました。私は学校説明会の準備も体験しましたが、そこで広報や学校管理、生徒会といった様々なグループが協力をして準備を行っており、学校という組織は様々なグループが協力をして運営していることを知りました。

教師であるということはそのように様々な仕事を行いながら、生徒の前では見本となる立場として堂々としている姿がとても大切だと知りました。また教師は常に学び続け、生徒のことを真剣に考えてくれる存在であることを知りました。私はそのような存在に一步でも近づくために実習中は準備を大切にしてい、常に生徒が喜んでくれる授業のためにはどのような工夫が必要か考えていました。また学校にいる時間はできる限り多くの生徒とコミュニケーションを取り、授業だけでは知ることのできない違う姿を知ることが出来ました。

4. 終わりに

教育実習の3週間はあっという間の時間でしたが、生徒の前では笑顔で自信を持って立ち振る舞うことが出来たと思います。また多くの生徒と出会い、様々な活動を体験出来たので本当に楽しい3週間でした。そのため教育実習でしか知ることのできない様々なことを学ぶことが出来ました。

教育実習では不安になることや失敗することがあるかもしれませんが、ですが教師はそれでも生徒の前に立たなくてははいけません。そこで大切なのは失敗しないことではなく、失敗したとき次回どうするべきか、次の一歩を踏み出すことだと思います。そして常に挑戦する心、目標、夢を持ち、教育実習でしか体験できないことを全力で楽しんでください。より良い教育実習となることを願っています。

教育実習を終えて（数学）

横須賀市立不入斗中学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 田中 海都

【はじめに】

私は10月12日から10月30日までの3週間、横須賀市立不入斗中学校で教育実習を行いました。ホームルームや教壇実習など様々な経験をさせていただきました。ここでは、教育実習を通して学んだことを綴りたいと思います。

【教科指導で学んだこと】

ある教壇実習の授業で、ほとんどの生徒が途中で躓いてしまい、計画の半分も進まなかったことがありました。そこから、解けない生徒、躓く生徒を想定して、どのタイミングでどんなヒントを出せるか、どんな支援をしていけるかを考えないと授業が成り立たないことを学びました。授業を計画する際に、いろいろな生徒を想定することが大事になりますが、特にできない生徒のことを考えて授業を工夫していくことが重要であると実感しました。

また、号令をしっかり行って休み時間との切り替えを行うことや、逆に疲れて集中できていないと思ったら雑談を挟んでリラックスさせること、手を止めて前を向くよう指示を出して集中させることなど、切り替えのための声かけや工夫が、授業をアクティブに進めていくために必要だと学びました。

そして、物事を捉える時に視覚からの情報が大きな部分を占めていると実感しました。何かを伝える時も口で伝えるだけでなく、視覚を気にして伝えることが大事であると学びました。

授業において常につきまっていた問題は時間でした。授業時数は有限である中で、どこに時間をかけるのか、時間の使い方を考える必要があります。そのためには、生徒にどんな風になって欲しいのか、目標を明確にする必要があります。そして、そのためには現在の生徒の理解が必要不可欠です。学校による学力差は大きいというお話もいただきましたが、その



机間指導中の様子

学校の生徒、目の前の生徒に合わせた授業をするためにも生徒の理解が重要になると学びました。

【教科指導で苦労したこと】

教壇実習が始まってから、目の前の生徒たちのためにどう授業をするのが良いのか常に苦悩し続けました。いろいろな方法を考え試してみてもは反省し、別の方法を考え試してみてもは反省し、改善しての繰り返しでした。実習の1日が終わって疲れている状態でも本屋に行き教材を探したり、授業道具を買いに行ったりもしました。そうやって常に授業に悩み、授業準備に苦労しました。しかし、そうやって生徒のために常に苦悩し苦労するのが教師だと感じるようになりました。生徒に「分かりやすい」「もっと授業やってほしい」と言ってもらえた時は本当に嬉しかったです。その一瞬のために、生徒のために、努力し続けられる教員になりたいと思いました。

【教育実習を終えて】

授業のやり方一つ取っても様々なやり方があり、部活に毎日参加する先生や、朝や放課後生徒に個別で勉強を教える先生など様々な先生の姿がありました。自分がどういう教師になりたいのか、何を大事にしたいのかが大きなことであると感じました。しかし、どんな教師を目指すにしても、生徒のことを第一に考えることができる教師であるべきだと思います。

教育実習では楽しいこと辛いこと様々な経験をしましたが、どれも教育実習でしか体験できない貴重な経験だと思いました。どんな経験も無駄になることはないと思うので、取り組みたいことを含め、多くのことに積極的に取り組み、吸収しようとする姿勢で教育実習を行うと、より充実した実習になると思います。

【終わりに】

教育実習では失敗することもたくさんあると思います。大事なことは失敗したときにどうするかということだと思います。失敗を恐れずに誠実な姿勢で実習に挑んでください。より良い教育実習となることを願っています。

1. はじめに

私は大学4年生の9月に、母校の土浦市立中村小学校にて2週間の教育実習を行った。担当学級であった3年1組の皆さんとは、主な生活や学習の時間を一緒に過ごした。加えて、授業参観で伺った他の学級や、休み時間、委員会・クラブ活動等でも、多くの児童の皆さんと時間を共にした。以前から教職に興味を持ち、いくつかの研修等で児童生徒と触れ合うことはあったが、今回ほど多くの児童と一度に関わることは初めてだった。実習期間中は常に新鮮な発見の連続で、学ぶことがとても沢山あった。そのうちのいくつかについて、以下で述べたい。

2. 児童とのかかわりあい

小学生は自分の想像よりも、はるかに素直で純粋だ。課題を常に自分事として捉え、真剣に取り組もうとする。そして、学習過程で生じた疑問を時折、容赦なく教える側にぶつけてくる。どう伝えたらよいのか悩む場面も、本当に沢山あった。児童の考えや疑問に共に対峙し、時には受容し、適切に対応できる力の必要性を強く感じた。

児童とかかわる際、特に気をつけていたことのひとつに「目線」がある。児童の使っている机は意外と低い。机の近くにしゃがみ込み、目線を合わせて説明する。学習や作業を共にする。「それって、どういうこと?」「こうすればいいのかな」といった、児童の疑問や発見を、即座にキャッチして対応していく。そういった取組を通じて、自分も徐々に子どもたちと打ち解けることができたように感じている。

3. 授業のつくり方

研究授業では国語の物語文である「サーカスのライオン」を扱った。全10時間のうちの第5時を研究授業とし、第4時と第6時についても併せて行った。授業では児童の意見を積極的に板書に反映することや、作業指示を的確に出すこと等を通じ、内容理解を深めていけるよう留意した。その上で、『『目がぴかっと光った』とあるが、〈じんざ〉の目は本当に光ったのか』といった、物語特有の表現や言葉の一つひとつに着目して、男の子との出会いで生じた〈じんざ〉の気持ちの変

化を掴むことができるよう、意識して取り組んだ。授業自体は、3年1組の皆さんの積極性や発言の豊かさに助けられ、何とか無事進めることができた。しかし、一方で、意見を言える児童の影に隠れ、終始受け身の児童もいたと指摘頂いた。より多くの児童を巻きこむ授業の仕掛けづくりを考えたい。意見や呟きを拾って、「本当にそうかな?」「〇〇さんは、どう思う?」と再提起することや、ペアやグループを組んで、周囲と自身の意見を比較させることなどが有効だろう。授業は教員が単独でつくるものではない。子どもたちとのやり取りを通じて、一緒につくるものであるという意識を常に持った上であたっていくことが重要だ。児童主体の授業づくりについて、今一度深く考え、学ぶ必要があると感じた。



4. 終わりに

—これから教育実習を行う皆さんへ—

今回の小学校実習は、玉川大学と本学の連携による小学校教員養成特別プログラムを通じて行った。必要単位の取得を含め、実習までの道程は決して容易ではなく、加えて今年度はCOVID-19の感染拡大の影響もあり、難しい局面も多かった。そのような中でも実習の全日程を無事終えることができたのは、実習を受け入れてくださった土浦市立中村小学校の先生方と児童の皆さんのおかげだと思う。そのことに心から感謝したい。

これから教育実習を行う皆さんには、またと無い貴重な時間を、どうか余すことなく精一杯楽しみ、学んでほしい。子どもたちの多くはきっと、明るく元気に皆さんとかかわりあってくれる。出会いに感謝し、常に謙虚に接し、また貪欲に学んでいってほしい。自分がそうであったように、皆さんにとっても、実りある日々になることを心から願っている。

はじめに

今年度は新型コロナウイルスの流行によって、介護等の体験を行うことができなかったため、中止になる前の動向やその代替措置などを記録として述べる。

1 介護等の体験が中止になる前の状況

まず、介護等の体験の事前ガイダンスであるが、今年度が始まる前には、開催される予定であったが、4月に緊急事態宣言が発令され、大学が休校措置になり、入構できないので延期された。その後、8月上旬に入構禁止が解除され、介護等の体験の事前ガイダンスが行われたが、それでもなお高齢者のいる社会福祉施設を若者が実習体験で訪れるのはリスクがあるということで、受け入れ中止になる可能性があるという。8月中は、受け入れ先の要望で、健康診断を受ける必要がある可能性があったため、病院で健康診断を受診し、体験先での事前打ち合わせに備えていたが、8月下旬になり、介護等の体験が社会福祉施設も特別支援学校も合わせて中止になることが決定した。そして、その代替措置として文部科学省が認めている視覚障害児・聴覚障害児の教育課程及び指導法という2つの教材を読んだレポートの提出が課題として課された。

2 代替措置

レポートの提出のために指定されたのは、いろいろな大学の先生が視覚障害児・聴覚障害児のための学習法や留意点をまとめた教材である。その教材からは、視覚障害児・聴覚障害児の障害の特徴や、その子供たちが感じ

る学習上の問題点や、生活上の問題点をまず学ぶことができ、その後それらを踏まえて効果的な学習方法の具体例を知ることができた。その中でも特にICTを使用した学習方法の具体例で、視覚障害児に対して地図などを大画面で表示することや、聴覚障害児に対して点字などの発声言語以外を用いることなどがあり、ICTを使用する学習は、障害の有無にかかわらず子供たちの学習に効果的であると理解することができた。

そして、その子供たち一人ひとりのことを親身に考え、その子供たち目線で学習上でも生活上でも何が困難なのかを感じとり、それらに対してしっかりと教師側がサポートしていくことが大切であると学んだ。一人ひとりの個性を尊重し、教師がそれをいろいろな面で教育・サポートしていくことは障害の有無にかかわらず、教育者としてとても大切なことであると学び、それが障害者教育ではより一層大事なものであると理解することができた。

おわりに

介護等の体験の代替措置である教材学習では、系統的に障害児に対する学習方法を学ぶことができた。しかし、教育実習で実感したように、大学でたくさん勉強や準備をしても、現場の実践では想定してないことや、現場でしか学べないことがたくさんある。今年度の介護等の体験でそれらの経験が得られなかったことは非常に残念である。今回学んだ学習方法を、実践を通してしっかりと学ぶ機会や経験がもてたら良いと考える。

1. はじめに

コロナ禍の中で延期になっていた教育実習が終わり、これからの事も考えなければならない時期に開催されたのがこの教職公開講座であった。今年の講座のテーマは、「新しい生活様式における ICT 活用教育」である。今年は新型コロナウイルスの影響で、日本では小学校から大学まで休校を余儀なくされた。私自身も教員になった際に、いつ予測不能の事態に陥るか分からない。今回の講座の講師の先生方のお話をこれからの教員生活に活かしていきたい。そのような思いで臨んだ。

2. コロナ禍での ICT ツールが学校教育に及ぼした影響

ここ数年の間に、各地域で少しずつ着実に推進されてきた ICT 教育だが、コロナ禍ではどのような影響を学校教育に与えたのかということ、今回の講座では多くの先生方から拝聴することができた。まず、休校期間中に課題や授業動画が学校から生徒に渡るまでの違いが中学と高校で見られた。そして、公立か私立かといったところでも差があった。まず、公立の中学校では、「担任が各家庭を訪問して生徒に課題を配布するという方法をとった」と講師の先生が仰っていた。しかし、私立で尚且つ高校になると、「クラウドを使用してホームルーム活動や課題の配布などを行った」というお話を伺った。やはり、私立学校は授業料を払っているだけ、それなりの設備や環境が整っているのだと感じた。しかし、第二部でお話を伺ったある公立高校では、私立の高校と同じように「クラウドを使用した授業動画の配信などを行っていた」というお話だった。このお話の際に講師の先生は、「元々、ICT ツールを使用できる環境を整えていた」とも仰っていた。ここで、私が痛感したのは、「ICT ツールを使用する環境に地域差がある」ということである。これは、コロナ禍においても同様である。さらに、ICT ツールを使用する環境を整備する上で一番重要になってくるのが、まずは、タブ

レットや PC などを人数分確保すること、そして、大人数に耐えられる高速 Wi-Fi 回線の確保である。この二点が、整ってないと ICT ツールを使用した学校教育はなかなか難しいと感じた。これからはコロナ禍か否かに関わらず、県や市町村で ICT 教育をスムーズに行えるような環境整備をする事が大事なのではないかと感じた。

3. 板書授業と ICT ツールを使用した授業

私は、第一部でお話を頂いた、品田先生の「チョーク&トーク」の授業のお話が印象に残った。品田先生は、「今は ICT 活用が推進されているが、パワーポイントなどは形に残らないので、自分はチョーク&トークの授業をやりたい」と仰っていた。この話を受けて私は、ICT ツールを使用した授業にもメリットはあると思った。確かに「チョーク&トーク」の授業は、生徒が手を動かす時間も増えて、良いものだといえる。しかし、教育実習中には、板書の授業をしていらっしゃる先生はほとんどいなかった。それは、板書をしていると一年間の範囲が終わらないからである。それに加えて、ICT ツールを使用する事で、教員の授業準備は大変だが、授業中の教員自身の負担が減り、様々な資料や図を使用してより内容の深い授業にすることが出来る。どちらにしても、授業をより興味深いものにするのは、教員の努力次第ということを考えながら自分にあった授業の仕方をこれから見つけていきたい。

4. おわりに

この教職公開講座は、例年なら対面で行われる予定だったが、今回は新型コロナウイルスの影響でオンラインという形で行なわれた。そのような中で、現職の先生方のある意味「特別な年」のお話を拝聴することが出来て良かった。また、自分もいつかはこのような場所で、教員を目指す後輩たちに話せるようになりたいと思う。

この「教職実践演習」の講義は、専修大学で学んできた教職課程の総仕上げとして4年生の後期に履修することになっています。私は、齋藤先生の講義を履修していましたが、他にも複数の先生方によって開講されています。

この講義では、4年間の教職課程の講義や教育実習などで学んできた知識や経験を活かしながら、時代・社会の変化や子ども・青年の変容を捉え、学校教育が抱える様々な課題に対して、最新の教育に関する研究動向も踏まえながら、他の受講者と共に考えを深めることができました。

具体的には、「いじめへの対応」や「教員の働き方」などの学校教育の課題についてディベートを行いながら考えを深めたり、実際に現場に入ったことを想定しながら保護者会での対応を検討したりと、これまでの教職課程の講義に比べ、学校現場を想定した、より実践的な内容でした。さらに、自分とは異なる校種や教科の人と意見交換を行うこともあるため、自分の経験や考えを伝えたり、自分にはなかった視点や考え方を取り入れることもできたりするので、受講者同士で高め合う事ができることも、この講義の特徴だと思います。

私はこの講義を通して、より良い教育を行うためには、多様な他者と協働することが必要不可欠であると感じました。現在、学校現場には多様な課題が存在していると言われていいます。そのような状況下において、子どもたちのためにより良い教育を行うためには、

教員同士はもちろん、保護者や地域の人などと連携し、幅広い意見や人材資源を活用することが必要であると考えています。先程も述べたように、この講義では、学校教育の課題や現場での対応について、様々な校種や教科の視点から検討します。また、個人個人の教育実習や学校現場でのボランティア活動の経験を共有する機会も非常に多かったです。私はこのような講義の中で、自らの考えを深めることができ、新しい角度で物事を考えることもできました。このことから、私が実際に学校現場に入った際には、自分の考えに加えて、同僚の教員や保護者の意見、本やインターネット上の最新の研究結果などを参考にしながら、より良い教育を行うことができるように努めたいです。

以上のようなことに加えて、実際の教員に対して配布された資料を閲覧させて頂いたり、齋藤先生が現場で感じたことからのアドバイスを下さったりと、これまでの教職課程の講義以上に実践的で身につくことが多い講義でした。この講義で学んだことは、教員を目指す上で大きなものになると思います。

私は教職実践演習の講義の中で、非常に多くのことを学ぶことができました。そして、教員という職業の大変さや難しさも改めて認識しました。だからこそ、教員になるために必要な心構えや準備が少しずつ明確になり、モチベーションも向上しました。教員免許の取得を目指す中で、齋藤先生をはじめ、多くの先生に丁寧な指導をして頂くなど、大変お世話になりました。また、互いに切磋琢磨した受講生の存在もとても大きかったです。私と関わってくれた全ての人に心から感謝したいと思います。全ての講義がオンラインという難しい状況でも、教職実践演習では多くのことを学ぶことができました。この講義を含め、4年間の教職課程で学んだことを活かして、より良い教育を行うことができる教員になれるように励んでいきたいです。



教育実習中の筆者

1. はじめに

私は、令和2年度より専修大学附属高等学校で公民科の教員として勤務しています。講師時代よりも仕事の幅が大きく広がった分責任も重くなっていますが、高校生の時に教員になると決め、その夢を叶えたことの喜びを日々実感しながら毎日を過ごしています。

教育現場での仕事は多岐にわたり、どの仕事も疎かにはできません。授業や部活動、校務分掌やクラス運営など様々な仕事を行っていく中で、私が日頃から考えていることや大事にしていることを述べたいと思います。

2. 大切なのは“授業力”

生徒からの信頼を得ることができるかどうかは授業で決まると私は考えています。「教員で一番大切なのは“専門力”。」これは私が教員を目指すきっかけになった先生に言われた一言です。授業を作成・実践する際に教科書や専門書に載っている知識を用いるのは当たり前ですが、それだけでは生徒は授業に喰いついてきません。如何に生徒の身近な話題と密接に結びつけられるか、如何に生徒が考えるきっかけにすることができるのか。生徒には冊子に載っていることだけではなく、新聞やテレビなどあらゆるメディアを使って活きた知識を提供したいと考えて授業作成・実践をしています。

これからはただ授業を一方通行で行うのではなく、生徒自身が問題について考察し、他者と意見を交換した上でさらに自分の考えを完成させる。そのような社会で実践できる知識と考察力を養うことのできる授業がさらに重要だと思います。そのような授業を行うために自らの“授業力”を高める必要があります、教員になってからも日々勉強の毎日です。

3. 新たな「楽しさ」を

学校生活では授業や部活動のほかにも学校行事や委員会など様々です。ただ私が生徒に



意識してほしいことは、何事もとにかく全力で、とにかく楽しむことを忘れないでいてほしいということです。何かに夢中になって全力でぶつかる、またその環境を楽しむことは、今後の人生をより豊かにしてくれるものだとは思っています。だからこそ、その環境を作り出し、たくさんの失敗を重ねながら「楽しさ」を経験させることが我々教員の仕事であると日々感じています。生徒が抱く「楽しい」の感情は何気ない友達との会話や休み時間での出来事など、万人が抱きやすいものだけしか知りません。そこに勉強や部活動などから得られる「楽しさ」を発信するのが教員の仕事であり、この仕事の面白さであるとも考えています。私は現在ラグビー部の顧問を務めていますが、昔のようないわゆる根性論で指導するのではなく、生徒の自主性にも頼りながら指導をしています。一方的に指導するのではなく、生徒が自ら考えることでのびのびと笑顔でプレーすることができています。自分で考えて行動に起こす楽しさを知っている子は様々な壁にぶつかっても、その状況を面白いと考えられるのではないかと考えています。試合でもピンチの時間帯で私が介入することなくその時間帯を焦ることなく楽しそうに笑っていました。そういう楽しさを生徒にはたくさんの失敗をしながら感じてほしいです。



4. 終わりに

私自身、日々試行錯誤をする毎日です。先ほどたくさんの理想を伝えましたが、実際うまくいかないことも多々あります。むしろ成功することの方が少なく、心が折れそうになったこともありました。それでも教員を続けているのは、やはり学校が楽しいからであり、生徒の楽しそうな顔を見ると頑張ろうと思えるからです。この仕事の最大の醍醐味だと思っています。私の書いた文章の中に、教員を目指す皆さんに何か響くものがあれば幸いです。



図書館本館（生田キャンパス 9 号館）

司書・司書教諭・学校司書課程



図書館本館（生田キャンパス 9 号館）

図書館情報資源の供給源「出版」を学ぶ授業

文学部 兼任講師 中和 正彦

1. はじめに

図書館が提供するサービスは、資料の収集・整理・保存の上に成り立っています。資料がなければ始まりません。その多くを占める書籍や雑誌の出版活動が、大きく変わりつつあります。

私が担当する「図書館情報資源特論」では、出版活動の歴史と現在の動きから出版という営みの概要をつかみ、その役割、課題、新たな可能性などを探ります。「到達目標」としては、(1) 出版の歴史や果たしてきた役割について説明することができる。(2) 今日の出版業界の仕組みと課題について説明することができる。(3) 出版電子化の動きとその課題、新たな可能性について説明することができる——の3つを掲げています。

全体としては出版概論的な内容ですが、一般的な概論ではあまり扱われない内容もあります。図書館の「障害者サービス」(図書館利用に障害のある人々へのサービス)が対象とする人々への出版についてです。そこには、電子化が拓く一つの大きな可能性があり

ます。

授業は講義が中心ですが、履修者の皆さんに出版社や書店の立場から本や読者について考えていただくなどの演習も用意します。

2. 「出版」の歴史について

「電子書籍元年」といわれた2010年当時は「あんなものは本ではない」といった否定的な声も聞かれました。国語辞典で「出版」を調べると「文書・図画などを印刷して発売・頒布すること」(三省堂『大辞林』第三版)といったように、印刷が重要なキーワードでした。

しかし、紀元前数千年からの歴史を持つ書物は、最初から紙に印刷して冊子状に綴じたものだったわけではありません。媒体・複製法・形態は変化し、現代にまた新たな変化が訪れたのです。その変化の到来によって改めて「出版とは何か？」が問われたとき、英語のPublicationの意味(出版、公表)に着目した見方が生まれました。すなわち、出版の本質にあるのは印刷することではなく、公にすること。このように「出版」を捉え、電子書籍の生産・流通・販売も出版活動とするの

みならず、さらなる可能性にも目を向ける考え方です。

出版活動が歴史的な変化の渦中において明確な将来像がつかみにくい中、この授業では「出版」というテーマをこのような広い視野から扱いたいと考えています。

そして歴史は、単に昔の出来事を学習するのではなく、なるべく現在や今後を考える材料として扱いたいと考えています。

たとえば、古代エジプトに登場したアレクサンドリア図書館。設立した王朝は、ここに世界中の書物を集めて学問の中心地にし、「知」の覇権を確立しようとしたといわれます。さて、今日このような企てはあるでしょうか？

日本国内だけでも毎年7万点を超える新刊書籍が出版される現代において、世界中の本を集める図書館は夢のまた夢かと思われました。ところが、2003年末、グーグルが世界中の書籍をスキャンしてインターネット上でアクセス可能にすることを目指すプロジェクト(現・グーグル・ブックス)を公表。人類の「知」を収蔵してきた書籍の総体について、世界中のどこからでもアクセスできるようする挑戦に絶賛の声が挙がる一方、一営利企業による独占に強い危機感も広がりました。

そのことは、先進国で国立図書館などの資料のデジタル化を促し、さらに博物館や美術館などの資料も含めて一国(欧州ではEU)の文化資源を横断的に検索できるインフラづくりにまで至っています。

遠い歴史の中にあった問題が、電子化の進展などによってにわかにな今日の問題となって姿を現すことは今後とも起こることでしょう。

3. 今日の出版業界の仕組みと課題について

日本の紙の出版物の販売額は四半世紀近くにわたって減少しつづけ、ピークだった1996年の半以下になっています。戦後の出版業界の成長を支えた仕組みの綻びは深刻になる一方ですが、代わるものが確立されません。

しかし、出版社や書店を個別に見てみると、新しい取り組みや新規参入も少なくあり

ません。大手出版社では、出版事業からの展開としてインターネット通販などウェブ関連ビジネスに進出したり、リアルの施設を設けてエンターテインメントビジネスに乗り出したりと、従来の出版社の業態を超えた取り組みが生まれています。他方、ひとりで个性的な出版社や新しいタイプの書店を立ち上げ、紙の本を丁寧に作っていこう、売っていこうという動きも少なからず生まれています。

授業では、出版社や書店のさまざまなあり方や出版流通の仕組みについて現状と課題を講義しますが、その上で皆さんにも出版社や書店の立場になって考えてもらうことを試みます。

まず、各自に書籍の企画を考えてもらいます。すでに世にある本から選ぶのが図書館員の重要な仕事であるのに対して、出版社員はまだない本を世に出すのが大きな仕事です。

次に、皆さんの企画をリスト化したものを見て、書店として注文を出してもらいます。本を選ぶという点では図書館の選書と似たところがあるかもしれませんが、選ぶ視点や何がどのくらい売れるかを考えるところは異なります。

最終的にその書店注文をまとめることにより、いくつかのランキングが出来上がります。一連の試みにより、読者のニーズをつかむことの面白さと難しさをほんの一端でも実感してもらえたらと考えています。

また、授業が進行していく半期の間にも出版に関する注目すべきニュースが飛び込んで来ますので、それを取り上げて考える時間も設けていきます。

4. 出版電子化の課題と可能性について

電子出版（電子書籍＋電子雑誌）の販売額は、2010年以降、急速な増加を続けています。しかし、内容を見てみると、電子雑誌は2017年に一度ピークを打って減少に転じます。その減少を補って余りある増加を続ける電子書籍は、8割以上がコミック。文字モノのシェアは小さく、そもそも紙で出版される書籍のうち電子化されるものは半分にも満たない状態です。

多くの読者が求めているにもかかわらず電子化が進まない、というわけでもありません。

でした。この授業では、初回に行うアンケートの中で「電子書籍の利用状況」を聞いていますが、「紙と電子と両方出していれば電子版を買う」という積極的利用者は、「電子書籍を利用したことがない」という人とほぼ同程度の少数で、「利用したことはあるが、積極的になれない」という人が圧倒的多数です。

しかし、「すべての人の知る機会の保障」を使命とする公共図書館の仕事を目指す皆さんには、電子化が読書に障害のある人々に大きな可能性を拓くことを知ってもらう必要があります。たとえば、目の見えない人は、紙の本を手を介して点字や音声に変換してもらわなければ、本の内容にアクセスできませんが、電子化されたテキストならば、所有の端末で機械的に読み上げさせることが、技術的に可能です。

そして、2019年に施行された読書バリアフリー法は、読み上げを含め、読書に障害のある人も本にアクセスできる機能を備えた「アクセシブルな電子書籍」の普及を基本理念の一つに挙げています。

授業では、出版電子化の全体的な現状と課題を述べた後、電子化が読書に障害のある人に拓く可能性へと話を進めます。



視覚障害者が音声で聞く携帯読書端末

5. おわりに

2020年度の授業は新型コロナウイルス感染症のためにオンラインで行うことになり、グループワークができませんでした。一方、社会では外出自粛などの影響で、電子書籍や電子図書館サービスの利用が急増したと伝えられました。これは一過性のことなのか、次の段階へと不可逆的に進んだのか…。新年度は教室で、新しい時代の出版や図書館について皆さんの思うところも聞きながら、授業ができることを願っています。

就職(進路)懇談会、図書館実習について

文学部 教授 野口 武悟 経営学部 教授 荻原 幸子

コロナ禍に見舞われた今年度は、感染予防のために「就職(進路)懇談会」及び「図書館実習」を断念せざるを得なかった。来年度は是非実施したいという願いを込めて、それぞれの概要を以下に記すことにする。

就職(進路)懇談会について

司書・司書教諭・学校司書課程では、毎年度、12月ごろに就職(進路)懇談会を開催している。この懇談会では、本学の卒業生で図書館またはその関連業界で活躍している方(みなさんの先輩)などを講師に招いて、就職(進路)の実現に向けて準備したことや、現在の仕事の魅力などをお話しいただいている。講師に学生のみなさんから直接質問することもできる。「採用試験に向けてどんな対策をしたらよいかわかった」「司書以外にも資格が生かせる仕事があることがわかった」など、参加した学生からも好評である。

近年の講師は次の方々である。

- 2019 年度：関口真弓さん
(学校司書、本学卒業生)
- 2018 年度：中川恭一さん
(市立図書館長、本学兼任講師)
- 2017 年度：河村知佳さん
(学校司書、本学卒業生)



就職(進路)懇談会の様子(2018年度)

2021年度については、感染拡大の状況などを見極めつつ、オンライン開催なども選択肢に入れながら、開催に向けての検討を進める予定である。学生のみなさんには、11月ごろに司書・司書教諭・学校司書課程の授業(特に、荻原、野口の担当授業)内やポータルを使って開催を案内している。開催の案内があったら、ぜひ奮って参加してほしい。

なお、図書館職員の採用試験やその受験勉強のこと、図書館関連企業の就職のこと、大学院への進学のことなど、就職(進路)の相

談については、懇談会以外でも、随時対応している。授業時に声をかけてもらう形でも、メールでも構わない。遠慮なく荻原または野口まで相談してほしい。みなさんの夢の実現を応援している。

図書館実習について

図書館実習は、図書館の現場で実務を経験する、司書課程の3年生以上を対象としたプログラムである。例年4月中旬にポータルサイト等を通じて希望者を募っている。実習先は、担当教員(主に荻原)が各学生の希望に応じて図書館と調整したうえで決定する。希望者が居住する自治体の公立図書館や専修大学図書館が多いが、筑波大学附属小学校や日本点字図書館、東京子ども図書館などに受け入れていただいたこともある。申込みの際に、「この図書館で実習をしてみたい」という具体的な希望があれば、遠慮せずに知らせしてほしい。実習時期や期間は実習先の状況に応じて異なるが、近年は、9月以降の1週間から10日間程度という場合が多い。6月下旬に諸手続きのための事前ガイダンスがあり、実習後は「図書館実習報告会」(12月中旬頃に開催)で、他の学生と実習の経験を共有する。実習期間中に日々の経験や感想などを記した「実習ノート」は、実習先の職員の方からコメントが付されることも多く、おそらくは学生時代の大切な記念になることと思う。

司書課程受講生の皆さんは、ぜひ「資格課程年報」のバックナンバーに掲載された「図書館実習を終えて」に目を通してほしい。
<https://www.senshu-u.ac.jp/education/shikaku/report.html>
諸先輩方の貴重な経験が、例えば次のように表されている。

“今回の実習を通して、利用者目線や普段の座学では分からない実際の現場の様子や図書館で働く楽しさ、苦労や問題点などを肌で感じることが出来ました。”(Vol.22, p.38)

“現場で働いてみて、実際に働く職員の方と話す機会もあり、これまで以上に図書館や司書について深く考える機会であったと感じました。”(Vol.21, p.42)

“普段の授業の中では学びきれないものを数多く得ることのできる絶好の機会です。”

(Vol.20, p.20)

質問や相談のある方は、荻原・野口まで。

1. はじめに

皆さん、図書館は好きですか？ 私は図書館が大好きです。私は新卒で埼玉県に司書として採用され、今年の春から埼玉県立川越初雁高校で学校司書として勤務しています。埼玉県は全ての県立高校に学校司書を配置するなど、学校図書館に大きな期待を寄せており、司書の採用が比較的多い県です。就活の一環として受験したら合格をいただけたという流れなので、採用試験に関してはたいした話ができません。そのため、今回は半年間学校司書として働いて感じたことを中心に書かせていただきたいと思います。これを読む司書を志す方々の何か参考になれば幸いです。

2. 勤務してみて感じていること

学校司書として勤務して半年ですが、当校は4～5月、新型コロナウイルスの影響で休校でした。そのため、図書館オリエンテーションが6月になったり、新採用職員研修が10月にずれたりといレギュラーだらけです。しかし、新採用だろうといレギュラーだろうと研修を受けていなかろうと、学校図書館に司書は大抵一人しか居ないため、図書館業務を進めていかななくてはなりません。理解はしていましたが、一人職場はやはり心細いです。もちろん、他の先生方や他校の学校司書など、助けてくれる方はいます。ですが、学年が変われば生徒も変わり、前任の司書の方が作った昨年度の図書館が、今年度の生徒にも当てはまるかと言われるればそれは未知数です。今年度の生徒のニーズに応えられているのか、常に不安がつきまとっています。アンケートを取ったり、図書館に来てくれる生徒に声をかけたり、貸出履歴をあさったりしつつ、今生徒がどんな資料を求めているのか、敏感に感じ取る努力をしています。

また、私が目指す図書館と利用者の求める図



書館の齟齬に気がついています。学校図書館は読書や勉強をしたい人が集中できる静かな



場所、というイメージが強いと思いますが、私はその反面で、パズルやぬいぐるみを置いて、少しでも図書館に親しみを持ってもらうことを目指しています。高校生は、勉強に部活にとやることが多く、読書を楽しむ時間が惜しいかもしれません。また、当校は読書や本自体に苦手意識を持っている生徒が多いと感じています。今は忙しかったり、読書を遠ざけていたりする生徒が、いつか本という媒体に触れたいと思ったときに自然と図書館を選択できるように、「図書館は気楽で身近な場所だ」という印象を高校で持って欲しいです。もちろん、足を運んでくれた生徒に興味を持ってもらえるような展示や書架作りを心がけています。しかし、これは静かな場所としての図書館を求める利用者には迷惑にしかなりかねないため、その塩梅に気がつくつ、試行錯誤していきたいです。

3. おわりに

私は高校生の時から学校司書に憧れ、大学で勉強しました。しかし、簡単になれるとも思っていないでした。今、自分がこうして原稿を書いていることに、自分が一番驚いています。実際司書としての技量はまだまだだと思いますし、司書は経験が物を言う職業だと日々痛感しています。図書館のことに限らず、どんな知識でも司書にとっては役に立ちます。アンテナを張り、貪欲に学び続けることが司書になる上で、働く上で大切なことだと思います。司書を目指す方は、ぜひいろんな図書館に行き、各々の取り組みを見てください。正解なんてありません。現状が最善で、それを更新するために司書と図書館員は学び試し続けるのだと思っています。どんな図書館を作りたいのか、今一度よく考えてみてください。皆さんと一緒によりよい図書館を作る日を、心から楽しみにしています。



黒門（平成 22 年復元・神田キャンパス）

学芸員課程



展示実習室（生田キャンパス 2 号館）

市学芸員のお仕事 ～文化財の最前線～

日野市教育委員会 生涯学習課 文化財係 幕田 淳子（平成29年度文学研究科歴史学専攻修了）

1. はじめに

みなさん、こんにちは。私は一昨年より東京都日野市教育委員会の学芸員として勤務しています。考古学を学ぶため専修大学に入学し、日本考古学、主に古墳時代の墳墓や埴輪に関心をもち学んでおりました。卒業後、念願の埋蔵文化財に関わる仕事に就くことができましたが、勤務内容は埋蔵文化財に限らない様々な文化財への取り組みでした。学芸員という博物館に勤務している印象が強いですが、ここでは日野市の文化財への取り組みを通して、教育委員会に所属する学芸員として扱った埋蔵文化財・国登録有形文化財（建造物）・郷土教育支援についてご紹介します。

2. 日野市について

日野市は東京都の中心部に位置し、市内に流れる多摩川と浅川に挟まれた日野台地、浅川左岸の河岸段丘、二つの河川が形成する沖積地や南端に広がる多摩丘陵など多様な地形から成り立っています。日野市教育委員会では市内で盛んに進められている区画整理事業や、近年増加している開発計画に伴う埋蔵文化財発掘調査により様々な遺物や人間活動の痕跡が発見されています。

また、日野市は新選組の土方歳三や井上源三郎の出生地であることから「新選組のふるさと」でもあり、新選組を支えた名主の佐藤彦五郎の屋敷で都内に現存する唯一の本陣である「日野宿本陣」は市指定有形文化財として今現在も多くの方が足を運んでいます。市内には新選組に関する施設としての「新選組のふるさと歴史館」、隊士の子孫が運営する資料館や日野の郷土資料に関する施設としての「日野市郷土資料館」などがあります。

3. 埋蔵文化財発掘調査について

私が所属している生涯学習課文化財係では、主に埋蔵文化財への対応業務を日々行っています。土地開発によって地中に眠っている遺構・遺物が破壊される可能性がある場合、事前に発掘調査を行う必要があります。発掘までの流れとしては、まず事業者により対象地が埋蔵文化財包蔵地範囲（地中に文化財が埋まっている可能性が高い範囲）に該当するか否かが照会が行われ、該当する場合発掘届が必要となります。計画によっては工事前に試掘・確認調査、場合によっては本調査を

行うため、調査開始までには事業者と調査に至る経緯や期間等について連絡を密にとり、調査に向けて準備を進めていきます。安全・正確に調査を進めるためには事前の調整作業が重要になると日々身をもって実感しています。

平成30年度に本調査した七ツ塚遺跡は、過去調査で100軒以上の縄文時代の住居跡が発見されており、日野台地の北端、多摩川と谷地川を望む舌状台地に改めて縄文時代中期後半の住居跡が10軒以上見つかりました。調査中、発掘現場に興味をもった小学生からの「校内新聞の記事にしたい」との要望に応えたり、教科書内容と実物を見比べる生徒がいたり、現場の様子が生徒やその家族に広がり、最終的には近隣小学校の6年生に向けて現場見学会を開催し、本物の縄文土器や石器、住居跡（柱穴や火を扱った石囲い炉）を実際に見て、観察する貴重な体験をしてもらいました。

4. 国登録有形文化財「旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室」について

「旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室」は現在の日野市仲田の森蚕糸公園内に昭和7年に建設されまし



旧農林省蚕糸試験場日野桑園第一蚕室

た。当時桑や蚕の品種改良について最先端の研究が行われた国の施設です。明治30年頃から起こる良質な蚕種を製造する動きの中で、明治44年に東京都杉並区の高円寺に「原蚕種製造所」が開設、そこへ蚕のエサとなる桑の葉を供給するため日野桑園が現在の日野に設けられ、後に桑の供給に限らず養蚕研究のための建物整備が順次行われていきました。昭和55年に蚕糸試験場の機能が筑波へ移転し、日野桑園は閉鎖され取り壊されていくなかで第一蚕室は唯一残りました。その後、歴史的価値の再発見により平成29年に日野市初の国登録有形文化財として登録され、令和元年より保存・修理工事を行い、今後の保存・活用に向けて現在準備を進めています。

第一蚕室は養蚕施設であるため、蚕の育ち

やすい温度・湿度を保つ工夫を建物の構造から知ることができます。一階は鉄筋コンクリート造、小屋裏（二階）は木造の混構造です。地面より1 mほどの高床になっており、蚕室中央床下には煉瓦で作られた火炉が設けられています。建設初期は床下から空気を調節しながら取り込み、火炉で火を起こし、部屋をゆっくり一定の温度に暖める「埋薪法」がとられ、温かい空気は小屋裏、屋根の越屋根を通して気抜きされる仕組みとなっています。火炉の次段階では電気温床、ボイラーを使用した温水暖房、最後には冷房機が設置され、時代ごとの蚕室温度管理システムの変遷を示す貴重な建物です。

第一蚕室の窓枠や扉など当時のカラー写真がないため色合いが分かりませんでした。工事中に取り外された窓枠の一部に当時の塗装が残っており、明治期に流行したあずき色が塗装されていたことが分かりました。また、床板や小屋裏の木造トラス構造の木材にある焼き印（文字）からは日本のどこから運ばれた材料であるかなど調べることができました。

私にとって、建造物の保存・修理に関わることは初めてであり、工事管理担当者と話し合いながらどの部分を保存・修理するか検討を行い、工事中、何度も第一蚕室に足を運び、建築用語を教えてもらいながら文化財を守りつつ建物として健全化するためにすべきことを模索する毎日でした。指定文化財のように、全てそのまま保存するのではなく、登録有形文化財としての在り方を活かし、第一蚕室の特徴になる部分を維持しつつ、今後活用していくために必要な整備（耐震や床の補強、バリアフリー等）に向けて当時の姿に手を加える部分もありました。現地に残せるか、一部でも資料として保管できないかなど、工事の進行に合わせて各資料それぞれに検討を重ねました。工事の前年に学芸員による第一蚕室の見学会を2日間開催し、当時の姿が見られる最後の機会に1089名の方々が見学に来てくれました。今後第一蚕室を公開した時、工事で分かったことを伝えられるよう、準備を進めています。

5. 郷土教育支援について

郷土の学びへの取り組みのなかで、私は郷土教育推進研究委員として幼稚園、小学校、

高校の先生方と一緒に郷土の学びを授業に取り入れた教材作りをしています。出張授業では土器や石器のつくりや素材をよく観察してもらい、土器の文様や石の種類、土器の胎土などについて色々なお話をしています。



土器観察の授業

最近では七ツ塚遺跡における縄文時代の住居規模（実物大）を再現したものを作成し、出張授業で使用しました。竪穴住居について説明し、一クラスまとめて住居の入口から入ってもらい規模を体感してもらうことができました。自然と住居中央においた石囲い炉の写真パネルを囲むように一クラスが集まった様子が印象的でした。



竪穴住居の説明風景

6. おわりに

私は就職して3年目でまだ経験不足であることもあり、慣れない事務作業や現場での判断も多くあります。文化財への対応はひとりで判断し進めることはなく、職場の先輩とお互いの現場を行き来し合い調査状況を確認することも多くあります。製造元が分かっている資料については製造元の方へ聞き取り調査や施設見学に行くなど、様々な方と協力して謎解きをすることもあります。就職先では専門外のことを扱うことが大いにあるので、在学中より様々なことに興味を持っておくことをお勧めします。また、私は学芸員として働いていますが、「学芸員」という肩書でなくとも、同内容のお仕事をされている方も多くいます。学芸員課程を履修したみなさんが今後どのようなお仕事についたとしても、文化財という資料の扱いを学ぶことは、人とのかわりや思いを知ることであり、今後必ず役に立つことであると思います。

私は5月23日から7月5日の間に6日、東京都青梅市にある青梅きもの博物館で実習を行いました。青梅きもの博物館は、日本の伝統文化財であるきものを展示している博物館です。皇室の衣裳や江戸時代の衣裳など、貴重な衣裳の実物を実際に見ることができます。また、3月から4月は皇室衣裳展、5月から7月は江戸時代中期から後期にかけての時代衣裳展、8月から9月はシルクロード展、10月から11月は江戸時代の婚礼衣裳展を行っています。

実習では、主に2つの業務に携わらせていただきました。1つ目は、展示品のレクチャーです。教育機関としての役割を持つ博物館において、来館者に展示品を説明するというのは大切な業務の1つです。まず実際にレクチャーを受け、説明内容のポイントを教わった後に自分の専攻を活かしたオリジナルの説明を追加するというのが実習中の課題でした。お手本のレクチャーを受けながらメモを取り、自宅で読み返ししながら調べて覚えるという作業を繰り返すことで、よりしっかりと知識を身に付けることができました。また、きものの文様や用いられている生地にも意味があることを学びました。文様については、中国など大陸から伝来した歴史を持つものもあり、衣裳を通じて当時の様子を知ることができると学びました。レクチャーを行うにあたって大変だった点は、自分の専攻を活かしたオリジナルの説明を考えると、来館者に実際にレクチャーを行うことです。自分の専攻は日本古代の歴史だったため、皇族の衣裳のみに用いられる文様の歴史的背景についてと天皇制について説明しました。きものと自分の専攻を関連付けるのは難しく、知識の幅を広げることと学びの大切さを実感しました。来館者に対してレクチャーを行う際には、緊張もあり思うように説明できないことが難点でした。レクチャーをしながら来館者が何に興味を持っているのか、自分の説明を押し付けてはいないかといった点に気を付けるというのはとても難しいことだと知りました。また、レクチャーは行う人の専攻や

興味によって内容が変わるため、自分以外の人のレクチャーを聞いて自分と比較することも大切だと教わりました。

2つ目は、展示替えです。実習では、江戸時代の衣裳への展示替えを行いました。資料の扱い方や、光や湿度に弱いといった特性を教わりながら作業を進めていきました。実際に資料に触れるのは初めての経験であり、たたみ方や手入れの仕方、展示の仕方など多くの事を学びました。資料をしまう際に刷毛でほこりを取る時の力加減や、衣裳を展示する時に衣桁の金具に引っかからないように注意するなど、実際に行ってみないと分からないことも多く、貴重な経験になりました。また、展示をする際に来館者の目線から見て見やすい高さや配置、光のあたり具合など様々なことへの配慮が必要なのだと学びました。自分が展示替えを行った衣裳について説明を聞く際には、見やすいように工夫されている点にも気が付き、今までとは違う視点から展示を見ることができました。展示替えを通して、全体を見てバランスを整える広い視点と資料の魅力を引き出す狭い視点の両方を合わせて展示を行う過程を知ることができました。

今回の実習を通して、資料の扱い方や来館者に伝える説明をすることの難しさなど多くの事を学びました。授業で学んだことを実践する機会もあり、知識がより身に付いたと感じました。今後、今回の実習で学んだことを活かし、学芸員としてまだ自分に足りていない能力を養っていきたいと思います。



私は7月16日から30日の5日間、埼玉県さいたま市大宮区のさいたま市立博物館で実習を行いました。この館は、さいたま市ゆかりの歴史的資料、民俗的資料、考古資料の収集、保存、展示、調査研究、そして学校との連携（夏休み子ども博物館）を行っています。

今回の実習では大きく3つの仕事を体験しました。1つ目は掛け軸と古文書の扱い方、2つ目は展示パネルの作成と解説、3つ目は企画展のチラシ制作という流れで行いました。

1つ目の掛け軸と古文書の取り扱いでは、2つのグループに分かれ、交互に練習しました。また、コロナの影響を考慮し、こまめな消毒を行いつつの体験でした。掛け軸は矢筈を使って壁に掛ける、掛かっているものを外すことを繰り返し行いました。古文書の取り扱いでは、収蔵庫から台車で作業室に運び、資料を広げ、固定する作業を教わりました。取り扱う際に毛氈という布を敷いて資料を扱うことや、掛け軸の巻き方は様々あり、もとの巻き方でしまうという作法を学びました。加えて、学芸員の方から「所蔵者の前で掛け軸を掛け、学芸員の技量が試される場合もある」と教えて頂き、学芸員という仕事の多様さを再認識しました。

2つ目に展示パネルの作成と解説を行いました。これは、博物館側から提供された資料から自身で1つ選び、資料用展示パネルの作成（キャプション含む）と資料解説を一日で行うという厳しいものでした。とりわけ、苦戦したのは、資料に関する調査と展示パネルの作成を平行して行う必要があったことでした。私が担当した資料は、神仏習合と関係の深い、各地の牛頭天王（牛王）信仰の御符や、牛に関する他の信仰のお札をあつめたものでした。資料に関する調査が進まないうちに、展示パネルを作成しなければならず、キャプションの文面を簡潔に分かりやすくする



展示パネル

ことに時間がかかりました。その後の解説では、初めにキャプションの内容を説明、次に私が調査し



チラシ作成課題発表風景

た内容の解説という構成で、分かりやすさを意識して発表しました。解説後、学芸員の方から、「展示パネルと資料の色合いが良く、見やすい」という講評を頂き、展示作成のやりがいを見つけることが出来ました。同時に資料に合わせた、パネル作成の大変さを実感しました。大学の講義では、実際に資料展示を制作、研究、解説する機会がなかったため、貴重な経験が出来たと思います。

3つ目は最終日に企画展のチラシ制作を行いました。テーマは自由で、自身の関心に基づいた分野での制作、発表というものでした。私は、『氷川神社と武士一大社と武家そして絵図一』というテーマで、武士との関係、境内の絵図から、氷川大社の歴史を探るという企画で制作しました。まず、テーマに関する資料調査、リスト作成、目玉資料を取り込んだチラシ作成の順序で制作を進めました。その後の発表では、資料リストとチラシから、どの章でどの資料を使うのか設定し、現実味を帯びるよう工夫しました。発表後、学芸員の方々から、配色や画像の調整、背景と文字の色彩的な見にくさ等、様々なご指摘を頂き、チラシ制作において、伝わりやすさと知的好奇心へのアピールの両立が大切なのだ学びました。資料をチラシにいれるためにスキャンを行い、レイアウトや配色を考えることは、大学では学べない内容だと感じています。

今回の実習で学芸員として多様な業務を教えて頂きましたが、全てが中々味わえない貴重なものでした。コロナの状況下で、来館者と接する機会は無かったものの、資料の展示、調査作業の緻密さや来館者の学習目的を考慮した展示作り、限られた設備の活用などを知り、学芸員が展示とどのように向き合うべきか考えさせられました。



情報コアゾーン（生田キャンパス 10 号館）

データ編



2号館3号館（奥）（生田キャンパス）

令和2年度 教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修者数

教職課程

令和2年5月1日 現在

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	18	14	19	51
		現 代 経 済	10	—	—	—	10
		生 活 環 境	11	—	—	—	11
		国 際 経 済	10	2	2	9	23
	法	法 律	15	20	13	7	55
		政 治	11	7	8	4	30
	経 営	経 営	13	14	9	4	40
		マ ー ケ テ ィ ン グ	11	12	13	9	45
	商	会 計	2	1	3	3	9
		日 本 語	—	22	19	14	55
	文	日 本 文 学 文 化	23	11	21	20	75
		英 語 英 米 文	21	16	17	12	66
		哲 学	12	11	4	3	30
		歴 史	35	29	21	27	112
		環 境 地 理	10	6	6	2	24
	ネットワーク情報	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	11	4	15
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	18	7	12	4	41
	人 間 科	心 理	5	0	0	0	5
		社 会	12	3	5	7	27
	国際コミュニケーション	日 本 語	14	—	—	—	14
	小 計		233	179	178	148	738
二 部	経 済	経 済	—	2	6	2	10
	法	法 律	—	4	0	1	5
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	1	2	3	6
	小 計		—	7	8	6	21
合 計			233	186	186	154	759
目 等 履 修 生			—	—	—	—	4
大 学 院 生			—	—	—	—	2
総 合 計			233	186	186	154	765

1 4年次には、5年次以上も含む。

2 経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は、履修できない。

司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	2	1	1	4
		現 代 経 済	2	—	—	—	2
		生 活 環 境	1	—	—	—	1
		国 際 経 済	0	4	0	0	4
	法	法 律	0	2	1	4	7
		政 治	1	0	0	0	1
	経 営	経 営	1	4	0	0	5
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	1	0	—	—	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	1	1	2
		会 計	0	1	0	0	1
	文	日 本 語	—	2	8	4	14
		日 本 文 学 文 化	12	24	24	8	68
		英 語 英 米 文	0	1	1	2	4
		哲 学	2	4	6	3	15
		歴 史	7	19	9	7	42
	ネットワーク情報	環 境 地 理	1	0	1	2	4
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	13	3	16
	人 間 科	ジ ャ ー ナ リ ズ ム	4	8	—	—	12
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	0	3	2	5
	国際コミュニケーション	心 理	1	2	0	0	3
		社 会	0	4	4	2	10
	小 計	日 本 語	2	—	—	—	2
		異文化コミュニケーション	0	—	—	—	0
	小 計		35	77	72	39	223
二 部	経 済	経 済	—	1	1	1	3
	法	法 律	—	2	3	3	8
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	0	1	2	3
	小 計		—	3	5	6	14
合 計			35	80	77	45	237
目 等 履 修 生			—	—	—	—	4
大 学 院 生			—	—	—	—	0
総 合 計			35	80	77	45	241

1 4年次には、5年次以上も含む。

司書教諭課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	2	0	2	4
		現 代 経 済	0	—	—	—	0
		生 活 環 境	1	—	—	—	1
		国 際 経 済	0	1	0	0	1
	法	法 律	0	2	0	2	4
		政 治	0	0	0	3	3
	経 営	経 営	1	2	0	0	3
		マ ー ケ テ ィ ン グ	0	1	1	2	4
	商	会 計	1	0	0	0	1
		日 本 語	—	3	1	3	7
	文	日 本 文 学 文 化	3	8	14	2	27
		英 語 英 米 文	1	1	1	0	3
		哲 学	2	3	5	0	10
		歴 史	4	4	1	2	11
		環 境 地 理	1	1	0	0	2
	ネットワーク情報	人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	3	1	4
		ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	1	0	2	0	3
	人 間 科	心 理	0	0	0	0	0
		社 会	0	2	2	0	4
	国際コミュニケーション	日 本 語	0	—	—	—	0
	小 計		15	30	30	17	92
二 部	経 済	経 済	—	0	0	0	0
	法	法 律	—	0	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	0	0	0	0
	小 計		—	0	0	0	0
合 計			15	30	30	17	92
目 等 履 修 生			—	—	—	—	0
大 学 院 生			—	—	—	—	0
総 合 計			15	30	30	17	92

1 4年次には、5年次以上も含む。

2 経営学部ビジネスデザイン学科、文学部ジャーナリズム学科及び国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科は、履修できない。

学校司書課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	1	1	0	2
		現 代 経 済	0	—	—	—	0
		生 活 環 境	1	—	—	—	1
		国 際 経 済	0	0	0	0	0
	法	法 律	0	2	0	1	3
		政 治	0	0	0	0	0
	経 営	経 営	1	2	0	0	3
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	1	0	—	—	1
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	1	1	0	2
		会 計	0	0	0	0	0
	文	日 本 語	—	1	3	0	4
		日 本 文 学 文 化	5	7	10	0	22
		英 語 英 米 文	0	0	1	1	2
		哲 学	1	0	3	0	4
		歴 史	2	2	0	0	4
		環 境 地 理	2	0	0	0	2
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	2	0	2
		ジャ ー ナ リ ズ ム	1	1	—	—	2
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	0	0	0	0
	人 間 科	心 理	0	0	0	0	0
		社 会	1	3	3	0	7
	国際コミュニケーション	日 本 語	0	—	—	—	0
		異文化コミュニケーション	0	—	—	—	0
	小 計	計	15	20	24	2	61
二 部	経 済	経 済	—	0	0	0	0
	法	法 律	—	0	1	1	2
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	0	0	0	0
	小 計	計	—	0	1	1	2
合 計			15	20	25	3	63
科 目 等 履 修 生			—	—	—	—	5
大 学 院 生			—	—	—	—	0
総 計			15	20	25	3	68

1 4 年次には、5 年次以上も含む。

学芸員課程

区分	学 部	学 科	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	合 計
一 部	経 済	経 済	—	0	1	0	1
		現 代 経 済	0	—	—	—	0
		生 活 環 境	1	—	—	—	1
		国 際 経 済	2	3	1	2	8
	法	法 律	0	0	0	0	0
		政 治	0	1	0	0	1
	経 営	経 営	0	3	1	0	4
		ビ ジ ネ ス デ ザ イ ン	0	0	—	—	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	1	0	1
		会 計	0	0	0	0	0
	文	日 本 語	—	1	2	1	4
		日 本 文 学 文 化	2	4	6	1	13
		英 語 英 米 文	0	0	1	0	1
		哲 学	0	1	3	0	4
		歴 史	24	25	19	6	74
		環 境 地 理	1	1	0	2	4
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	—	—	6	0	6
		ジャ ー ナ リ ズ ム	0	3	—	—	3
	ネットワーク情報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	0	1	0	0	1
	人 間 科	心 理	0	1	0	0	1
		社 会	1	7	1	0	9
	国際コミュニケーション	日 本 語	0	—	—	—	0
		異文化コミュニケーション	0	—	—	—	0
	小 計	計	31	51	42	12	136
二 部	経 済	経 済	—	0	0	0	0
	法	法 律	—	0	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	—	0	0	0	0
	小 計	計	—	0	0	0	0
合 計			31	51	42	12	136
科 目 等 履 修 生			—	—	—	—	1
大 学 院 生			—	—	—	—	2
総 計			31	51	42	12	139

1 4 年次には、5 年次以上も含む。

令和 2 年度 教育職員免許状取得件数

区分	学 部	学 科	取得人数	中学 1 種		高校 1 種		中学専修		高校専修		合 計
				教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	教 科	件 数	
一 部	経 済	経 済	17	社 会	11	地 理 歴 史	15	—	—	—	—	40
		国 際 経 済	7	社 会	7	公 民 業	13	—	—	—	—	17
	法	法 律	6	社 会	5	地 理 歴 史	5	—	—	—	—	17
		政 治	4	社 会	4	公 民 業	6	—	—	—	—	12
	経 営	経 営	3	社 会	1	地 理 歴 史	4	—	—	—	—	6
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	6	社 会	3	公 民 業	2	—	—	—	—	13
		会 計	3	—	—	商 業	2	—	—	—	—	3
	文	日 本 文 学 語	13	国 語	12	地 理 歴 史	1	—	—	—	—	25
		日 本 文 学 文 化	17	国 語	9	公 民 業	3	—	—	—	—	29
		英 語 英 米 文	8	外国語(英語)	6	商 業	5	—	—	—	—	14
		哲 学	3	社 会	3	情 報	0	—	—	—	—	9
		歴 史	25	社 会	17	地 理 歴 史	3	—	—	—	—	54
		環 境 地 理	2	社 会	1	公 民 業	24	—	—	—	—	4
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	4	社 会	1	地 理 歴 史	13	—	—	—	—	6
	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	3	数 学	3	地 理 歴 史	2	—	—	—	—	9
	人 間 科	心 理	0	社 会	0	公 民 業	3	—	—	—	—	0
		社 会	8	社 会	8	地 理 歴 史	7	—	—	—	—	22
	小 計		129	—	91	—	189	—	—	—	—	280
二 部	経 済	経 済	2	社 会	2	地 理 歴 史	2	—	—	—	—	6
	法	法 律	1	社 会	1	公 民 業	2	—	—	—	—	3
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	3	社 会	0	地 理 歴 史	1	—	—	—	—	3
	小 計		6	—	3	—	9	—	—	—	—	12
部	科 目 等 履 修 生		1	国 語	0	国 語	0	—	—	—	—	1
				外国語(英語)	0	外国語(英語)	0					
				社 会	0	地 理 歴 史	1					
				数 学	0	公 民 業	0					
部	小 計		1	—	0	—	1	—	—	—	—	1
	大 学 院 生		2	—	—	—	—	国 語	0	国 語	0	3
				—	—	—	—	外国語(英語)	0	外国語(英語)	0	
				—	—	—	—	社 会	1	地 理 歴 史	1	
				—	—	—	—	—	—	公 民 業	0	
部	小 計		2	—	—	—	—	—	1	—	2	3
	合 計		138	—	94	—	199	—	1	—	2	296

この表は、教員免許状一括申請をした数である。

令和 2 年度 司書・司書教諭・学校司書・学芸員資格単位取得者数

区分	学 部	学 科	司 書	司 書 教 諭	学 校 司 書	学 芸 員
一 部	経 済	経 済	0	1	0	0
		国 際 経 済	0	0	0	1
	法	法 律	5	2	2	0
		政 治	1	2	1	0
	経 営	経 営	0	0	0	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	2	2	0	1
		会 計	1	0	0	0
	文	日 本 文 学 語	4	4	0	0
		日 本 文 学 文 化	19	4	1	4
		英 語 英 米 文	3	0	1	0
		哲 学	2	0	0	2
		歴 史	4	2	0	20
		環 境 地 理	0	0	0	5
		人 文 ・ ジャ ー ナ リ ズ ム	4	0	0	2
	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	ネ ッ ト ワ ー ク 情 報	1	0	0	0
	人 間 科	心 理	0	0	0	1
		社 会	2	1	0	1
	小 計		48	18	5	37
二 部	経 済	経 済	0	0	0	0
	法	法 律	1	0	1	0
	商	マ ー ケ テ ィ ン グ	0	0	0	0
	小 計		1	0	1	0
部	科 目 等 履 修 生		2	0	2	0
	大 学 院 生		0	0	0	1
	合 計		51	18	8	38

令和 2 年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
北海道・東北	北海道	北海道岩見沢西高等学校	国語	文	日本文学文化	
	青森県	青森市立浦町中学校	社会	文	環境地理	
	岩手県	専修大学北上高等学校	地理歴史	経済	経済	
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	文	人・ジャーナリズム	
	山形県	山形県立新庄北高等学校	地理歴史	文	歴史	
	福島県	尚志高等学校	地理歴史	経済	経済	
	福島県	福島県立葵高等学校	地理歴史	文	歴史	
関東・東北	茨城県	常総学院高等学校	地理歴史・公民	経済	国際経済	
	茨城県	茨城県立水戸商業高等学校	商業	経営	経営	
	茨城県	土浦市立土浦第三中学校	国語	文	日本語	
	茨城県	土浦市立中村小学校	全科	文	日本語	
	栃木県	栃木県立栃木翔南高等学校	地理歴史	経営	経営	
	栃木県	栃木県立栃木高等学校	地理歴史	文	歴史	
	栃木県	栃木県立小山西高等学校	地理歴史	文	歴史	
	群馬県	下仁田町立下仁田中学校	国語	文	日本文学文化	
	群馬県	群馬県立高崎北高等学校	地理歴史	文	歴史	
	埼玉県	本庄第一高等学校	地理歴史	経済	経済	
	埼玉県	浦和学院高等学校	公民	経済	経済	
	埼玉県	吉見町立吉見中学校	社会	経済	経済	
	埼玉県	美里町立美里中学校	国語	文	日本語	
	埼玉県	西武台高等学校	国語・書道	文	日本文学文化	
	埼玉県	さいたま市立大宮北高等学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	さいたま市立春里中学校	社会	文	哲	
	千葉県	流山市立北部中学校	社会	経済	経済	
	千葉県	鴨川市立鴨川中学校	社会	経済	経済	
	千葉県	船橋市立宮本中学校	社会	経済	国際経済	
	千葉県	市原中央高等学校	国語	文	日本語	
	千葉県	日本大学習志野高等学校	地理歴史	文	歴史	
	千葉県	志学館高等部	国語	文学研究科		日本語日本文学
	東京都	東京都立小川高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	東京都立松が谷高等学校	公民（政治経済）	経済	経済	
	東京都	東京都立雪谷高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語	

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
関東・東北	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	八王子学園八王子高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	東京都立小川高等学校	国語	文	日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	明法中学・高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	文化学園大学杉並中学・高等学校	公民	文	哲	
	東京都	東京都立山崎高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	杉並学院高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	東京都立調布南高等学校	地理歴史（世界史）	文	歴史	
	東京都	青梅市立西中学校	社会	文	歴史	
	東京都	東京都立小平南高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	京華中学・高等学校	地理歴史	文	歴史	
	東京都	調布市立第五中学校	社会	文	歴史	
	東京都	工学院大学附属中学校・高等学校	地理歴史（日本史）	文	人・ジャーナリズム	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人・ジャーナリズム	
	東京都	大田区立田園調布中学校	社会	人間科	社会	
	東京都	跡見学園中学校高等学校	公民	人間科	社会	
	神奈川県	川崎市立柿生中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	川崎市立東柿生小学校	全科	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	公民	経済	経済	
	神奈川県	大和市立南林間中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	鎌倉市立御成中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立橋本高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	神奈川県	相模女子大学中学部・高等部	社会・地理歴史	経済	国際経済	
	神奈川県	横浜市立みなと総合高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	公民（現代社会）	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立深沢高等学校	情報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立伊志田高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	国語	文	日本語	
	神奈川県	横浜市立希望が丘中学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立東高等学校	国語	文	日本文学文化	

令和 2 年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
関 東	神奈川県	神奈川県立大和高等学校	国語	文	日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立相模原弥栄高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	向上高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	厚木市立相川中学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立元石川高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	横浜創英中学・高等学校	英語	文	英語英米文	
	神奈川県	平塚市立中原中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立舞岡高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立川崎工科高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	川崎市立西生田中学校	社会	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立大船高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	公民	文	歴史	
	神奈川県	横浜隼人高等学校	地理歴史	文	歴史	
	神奈川県	横須賀市立不入斗中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	平塚市立中原中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	相模原市立大沢中学校	社会	人間科	社会	
	神奈川県	鶴見大学附属中学校・高等学校	社会・地理歴史・公民	人間科	社会	
	神奈川県	横浜市立中田中学校	社会	人間科	社会	
甲 信 越	新潟県	東京学館新潟高等学校	国語	文	日本文学文化	
	新潟県	南魚沼市立塩沢中学校	社会	文	哲	
	新潟県	北越高等学校	地理歴史	文	歴史	
	新潟県	新潟県立高田高等学校	地理歴史	文	歴史	

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生		
				学 部	学 科	専 攻
甲 信 越	新潟県	上越市立名立中学校	社会	人間科	社会	
	山梨県	山梨県立上野原高等学校	地理歴史 (日本史)	経済	経済	
	山梨県	山梨県立吉田高等学校	地理歴史	文	歴史	
	長野県	諏訪市立上諏訪中学校	国語	文	日本語	
	長野県	長野県上田染谷丘高等学校	国語	文	日本語	
	長野県	長野県上田高等学校	英語	文	英語英米文	
北 陸	石川県	星稜高等学校	地理歴史	経済	経済	
	石川県	石川県立輪島高等学校	国語	文	日本語	
	石川県	遊学館高等学校	国語	文	日本文学文化	
	福井県	北陸高等学校	地理歴史 (世界史)	経済	経済	
東 海	静岡県	富士市立富士南中学校	社会	経済	国際経済	
	静岡県	常葉大学附属菊川中学校・高等学校	国語	文	日本文学文化	
	静岡県	静岡県立富士東高等学校	国語	文	日本文学文化	
	静岡県	静岡学園中学校・高等学校	地理歴史	文	人文・ジャーナリズム	
	静岡県	島田市立島田第一中学校	社会	人間科	社会	
	愛知県	豊橋市立青陵中学校	社会	文	歴史	
中 国	岡山県	岡山市立旭東中学校	社会	経済	経済	
九 州 ・ 沖 縄	福岡県	福岡県立輝翔館中等教育学校	国語	文	日本文学文化	
	佐賀県	佐賀県立唐津東高等学校	国語	文	日本語	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史	経済	経済	
	熊本県	大津町立大津中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	宮崎県	宮崎第一中学高等学校	地理歴史	文	環境地理	

令和 2 年度 教育実習先一覧（一部神田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生	
				学 部	学 科
北 海 道 関 東 東	福島県	日本大学東北高等学校	地理歴史	法	法律
	茨城県	神栖市立神栖第四中学校	社会	商	マーケティング
	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	商業	商	マーケティング
	埼玉県	さいたま市立与野東中学校	社会	法	法律
	千葉県	国府台女子学院中学部	社会	法	政治
	東京都	貞静学園中学校・高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京都立芦花高等学校	地理歴史	法	政治
	神奈川県	神奈川県立湘南台高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	横須賀市立神明中学校	社会	法	法律

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生	
				学 部	学 科
関 東	神奈川県	神奈川県立大和南高等学校	地理歴史	法	政治
	神奈川県	横浜翠陵中学・高等学校	地理歴史・公民	法	政治
	神奈川県	神奈川県立商工高等学校	商業	商	会計
北 陸	富山県	高岡第一高等学校	地理歴史	法	法律
	岐阜県	岐阜聖徳学園高等学校	商業	商	マーケティング
	静岡県	静岡県立駿河総合高等学校	地理歴史	商	マーケティング
東 海	愛知県	愛知県立愛知商業高等学校	商業	商	会計
	滋賀県	滋賀県立野洲高等学校	公民	商	マーケティング
	鹿児島県	樟南高等学校	商業	商	マーケティング
近 畿	鹿児島県	鹿児島県立鶴翔高等学校	商業	商	会計
	鹿児島県	鹿児島県立鶴翔高等学校	商業	商	会計

令和 2 年度 教育実習先一覧（二部神田）

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生	
				学 部	学 科
関 東	千葉県	千葉県立成東高等学校	公民	法	法律
	千葉県	千葉県立銚子商業高等学校	商業	商	マーケティング
	東京都	調布市立第四中学校	社会	経済	経済
	神奈川県	横浜市立万騎が原中学校	社会	経済	経済

	所在地	実 習 校 名	実習教科	実 習 学 生	
				学 部	学 科
北 陸	石川県	石川県立金沢商業高等学校	商業	商	マーケティング
	岐阜県	岐阜県立土岐商業高等学校	商業	商	マーケティング

令和 2 年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生		
			学 部	学 科	専 攻
北 道 ・ 東 北	宮城県	東北歴史博物館	文	歴史	
	茨城県	坂東郷土館ミュージズ	文	文・ジャーナリズム	
	栃木県	小杉放菴記念日光美術館	文	日本文学文化	
	栃木県	宇都宮美術館	文	日本文学文化	
	埼玉県	さいたま市立博物館	文	歴史	
	埼玉県	ふじみ野市立大井郷土資料館	文	歴史	
	千葉県	館山市立博物館	文	日本語	
	千葉県	千葉市立加曽利貝塚博物館	文	文・ジャーナリズム	
	東京都	くにたち郷土文化館	文	日本語	
	東京都	日本民藝館	文	日本文学文化	
	東京都	目黒区美術館	文	英語英米文	
	東京都	家具の博物館	文	歴史	
	東京都	進化生物学研究所	文	歴史	
	東京都	永青文庫	文	歴史	
	東京都	青梅きもの博物館	文	歴史	
	東京都	日野市郷土資料館	文	歴史	
	東京都	立川市歴史民俗資料館	文	歴史	

	所在地	実 習 館 名	実 習 学 生		
			学 部	学 科	専 攻
関 東	東京都	すみだ郷土文化資料館	文	歴史	
	東京都	古代オリエント博物館	文	環境地理	
	東京都	東京富士美術館	文	文・ジャーナリズム	
	東京都	東京都多摩動物公園	人間科	社会	
	神奈川県	横浜都市発展記念館	文	歴史	
	神奈川県	平塚市博物館	文	歴史	
	神奈川県	相模原市立博物館	文	歴史	
	神奈川県	横須賀市自然・人文博物館	文	歴史	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	文・ジャーナリズム	
甲 信 越	新潟県	新潟市美術館	文	歴史	
	山梨県	山梨県立美術館	経営	経営	
	長野県	ハーマ美術館	商	マーケティング	
東 海	静岡県	三島市郷土資料館	文	哲	
	静岡県	清水港湾博物館	文	歴史	
	静岡県	静岡県立美術館	文	文・ジャーナリズム	
	愛知県	名古屋市博物館	文	文・ジャーナリズム	
九 州 ・ 沖 縄	沖縄県	沖縄県立博物館・美術館	文	環境地理	

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成28年度	平28 経済・経済	市川市立東国分中学校	少人数学習等担当補助教員	社 会
	平28 経済・経済	神奈川県立深沢高等学校	常 勤	地 理 歴 史
	平21 法・法律	藤沢市立湘南台中学校	専 任	社 会
	平26 法・法律	むつ市立大畑中学校	非 常 勤	社 会
	平28 法・法律	学校法人旭川宝田学園（旭川明成高等学校）	専 任	地理歴史・公民
	平28 法・法律	野田市立東部中学校	専 任	社 会
	平26 法・政治	川崎市立橘中学校	専 任	社 会
	平28 経営・経営	川崎市立高津中学校	非 常 勤	社 会
	平26 商・マーケティング	綾瀬市立落合小学校	専 任	全 科
	平28 商・マーケティング	山梨県立塩山高等学校	期 限 付	商 業
	平28 商・マーケティング	海老名市立柏ヶ谷中学校	非 常 勤	社 会
	平28 商・マーケティング	学校法人矢谷学園（鳥取城北高等学校）	非 常 勤	商 業
	平25 文・日本語日本文	学校法人成田山教育財団（成田高等学校）	専 任	国 語
	平27 文・日本語	神奈川県立鎌倉高等学校	専 任	国 語
	平28 文・日本語	大和市立つきみ野中学校	臨時的任用	国 語
	平28 文・日本語	学校法人菅生学園（東海大学菅生高等学校）	非 常 勤	国 語
	平28 文・日本語	富士宮市立富士宮第四中学校	常 勤	国 語
	平28 文・日本語	上田市立塩田中学校	常 勤	国 語
	平28 文・日本語	神奈川県立保土ヶ谷高等学校	期 限 付	国 語
	平28 文・日本語	北区立堀船中学校	期 限 付	国 語
	平28 文・日本文学文化	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	国 語
	平28 文・日本文学文化	東京都立杉並工業高等学校	専 任	国 語
	平28 文・日本文学文化	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	国語・書道
	平22 文・英語英米文	足立区立伊興中学校	専 任	英 語
	平26 文・英語英米文	大村市立西大村中学校	臨時的任用	英 語
	平28 文・英語英米文	神奈川県立厚木清南高等学校	期 限 付	英 語
	平28 文・英語英米文	日本工業大学駒場中学校・高等学校	非 常 勤	英 語
	平28 文・英語英米文	学校法人立花学園（立花学園高等学校）	非 常 勤	英 語
	平28 文・英語英米文	浦添市立神森中学校	専 任	英 語
	平28 文・英語英米文	荒川区立諏訪台中学校	期 限 付	英 語
	平28 文・哲	学校法人東海山形学園（東海大学山形高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平26 文・歴史	千葉県立船橋夏見特別支援学校	臨時的任用	特 別 支 援
	平26 文・歴史	神奈川県立麻生総合高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平27 文・歴史	静岡県教育委員会	専 任	社 会
	平27 文・歴史	葉山町立南郷中学校	専 任	社 会
	平28 文・歴史	学校法人沼津学園（桐陽高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平28 文・歴史	神奈川県立相模原高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平28 文・環境地理	伊勢崎市立宮郷中学校	臨時的任用	社 会
	平20 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立綾瀬西高等学校	専 任	情 報
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立飯能高等学校	専 任	数 学
	平26 人間科・社会	港区立白金小学校	専 任	全 科
	平28 人間科・社会	富士市立岩松中学校	専 任	社 会
	平28 院文・修士	学校法人駿台学園（駿台学園中学・高等学校）	常 勤	国 語
	平28 院文・修士	神奈川県立大橋高等学校	専 任	英 語
	平28 院文・修士	学校法人成立学園（成立学園中学・高等学校）	常 勤	英 語
平成29年度	平23 経済・経済	川崎市教育委員会	専 任	全 科
	平23 経済・経済	東京都教育委員会	期 限 付	全 科
	平27 経済・経済	福井県立武生商業高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平28 経済・経済	市川市立第五中学校	専 任	社 会
	平28 経済・経済	調布市立第三中学校	専 任	社 会
	平28 経済・経済	神奈川県立商工高等学校	期 限 付	地理歴史・公民
	平29 経済・経済	相模原市立東林中学校	専 任	社 会
	平29 経済・経済	藤沢市立湘南台中学校	臨時的任用	社 会
	平29 経済・経済	学校法人上野塾（東京実業高等学校）	非 常 勤	商 業
	平22 経済・国際経済	北区立桐ヶ丘中学校	専 任	社 会
	平25 法・法律	足立区立東洲江小学校	専 任	全 科
	平26 法・法律	川崎市教育委員会	専 任	社 会
	平22 法・政治	学校法人八洲学園（福岡女子商業高等学校）	常 勤	商 業
	平29 法・政治	静岡県立御殿場高等学校	専 任	公 民
	平26 経営・経営	大磯町立大磯中学校	専 任	社 会
	平29 経営・経営	岐阜市立岐阜商業高等学校	常 勤	商 業
	平28 商・マーケティング	学校法人国際学園（星槎国際高等学校（湘南学習センター））	常 勤	情 報
	平29 商・マーケティング	学校法人調布学園（田園調布学園中等部・高等部）	専 任	情 報
	平29 商・マーケティング	学校法人三島学園（東北生活文化大学高等学校）	常 勤	商 業
	平29 商・会計	東京都立千早高等学校	専 任	商 業
	平29 商・会計	神奈川県立厚木商業高等学校	専 任	商 業
	平29 商・会計	茨城県立磯原郷英高等学校	常 勤	商 業
	平23 文・日本語日本文	神奈川県教育委員会	専 任	全 科
	平29 文・日本語	学校法人翔光学園（横浜創学館高等学校）	常 勤	国 語
	平29 文・日本語	船橋市立葛飾中学校	常 勤	国 語
	平29 文・日本語	江戸川区立南葛西中学校	期 限 付	国 語
	平29 文・日本語	学校法人松薫学園（焼津高等学校）	常 勤	国 語
	平29 文・日本語	神奈川県立磯子高等学校	臨時的任用	国 語
	平29 文・日本語	南部町立南部中学校	期 間 採 用	国 語
	平26 文・日本文学文化	菊池市立隈府小学校	専 任	全 科
	平29 文・日本文学文化	神奈川県立新羽高等学校	臨時的任用	国 語
	平29 文・日本文学文化	学校法人大谷学園（横浜隼人中学・高等学校）	非 常 勤	国 語
	平29 文・日本文学文化	長野県伊那北高等学校	専 任	国 語

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成29年度	平29 文・日本文学文化	神奈川県立白山高等学校	専 任	国 語
	平29 文・日本文学文化	長野県諏訪実業高等学校	専 任	国 語
	平25 文・英語英米文	神奈川県教育委員会	専 任	英 語
	平27 文・英語英米文	さいたま市立原山中学校	専 任	英 語
	平27 文・英語英米文	東京都立葛飾商業高等学校	専 任	英 語
	平27 文・英語英米文	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	専 任	英 語
	平28 文・英語英米文	神奈川県立二宮高等学校	専 任	英 語
	平28 文・英語英米文	学校法人日本体育大学（日本体育大学荏原高等学校）	常 勤	英 語
	平29 文・英語英米文	川崎市立高津中学校	臨時的任用	英 語
	平29 文・英語英米文	大和市立上和田中学校	臨時的任用	英 語
	平29 文・英語英米文	学校法人武陽学園（西武台新座中学校・西武台高等学校）	非 常 勤	英 語
	平29 文・哲	神奈川県立相模原総合高等学校	専 任	公 民
	平26 文・歴史	千葉県立大網高等学校	常 勤	地理歴史・公民
	平29 文・歴史	小千谷市立総合支援学校	常 勤	社会・地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人東海大学（東海大学付属浦安高等学校・中等部）	特 任	社 会
	平29 文・歴史	神奈川県立平塚湘風高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平29 文・歴史	藤沢市立大庭中学校	臨時的任用	特 別 支 援
	平29 文・歴史	学校法人聖パウロ学園（聖パウロ学園高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人総持学園（鶴見大学附属中学校・高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人常葉学園（常葉学園橘中学校・高等学校）	常 勤	社会・地理歴史・公民
	平29 文・歴史	学校法人明昭学園（岩倉高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平29 文・歴史	神奈川県立伊勢原高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史
	平29 文・環境地理	美郷町立西郷中学校	常 勤	社 会
	平29 文・環境地理	相模原市立大沢中学校	常 勤	社会・特別支援
	平29 文・環境地理	江東区立数矢小学校	専 任	全 科
	平29 文・人文・ジャーナリズム	山梨県立甲府昭和高等学校	専 任	公 民
	平24 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人玉川学園（玉川学園中学部・高等部）	専 任	数 学
	平29 ネットワーク情報・ネットワーク情報	茨城県立真壁高等学校	非 常 勤	数 学
	平29 院文・修士	静岡県立御殿場南高等学校	専 任	国 語
	平29 院文・修士	神奈川県立鶴見高等学校	臨時的任用	英 語
平成30年度	平25 経済・経済	練馬区立中村小学校	専 任	全 科
	平28 経済・経済	横浜市立小坪小学校	専 任	全 科
	平28 経済・経済	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平30 経済・経済	藤沢市立秋葉台中学校	非 常 勤	社 会
	平30 経済・経済	北九州市立木屋瀬小学校	常 勤	全 科
	平30 経済・経済	学校法人昭和第一学園（昭和第一学園高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平26 法・法律	学校法人角川ドワンゴ学園（N 高等学校）	専 任	地理歴史・公民
	平26 法・法律	木更津市立馬来田小学校	専 任	全 科
	平27 法・法律	山梨大学附属小学校	専 任	特 別 支 援
	平28 法・政治	松戸市立第一中学校	専 任	社 会
	平30 法・政治	東京都立新宿山吹高等学校	専 任	公 民
	平30 法・政治	神奈川県立川崎高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平28 経営・経営	川崎市立高津中学校	専 任	社 会
	平30 経営・経営	岐阜県立岐阜城北高等学校	常 勤	商 業
	平30 経営・経営	神奈川県立小田原東高等学校	臨時的任用	商 業
	平30 経営・経営	清川村立緑中学校	専 任	社 会
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	臨時的任用	全 科
	平28 商・マーケティング	山梨県立塩山高等学校	専 任	商 業
	平29 商・マーケティング	学校法人上野塾（東京実業高等学校） 大田区立志茂田中学校 目黒区立東山中学校	非 常 勤	社 会 公 民
	平30 商・マーケティング	学校法人京華学園（京華商業高等学校）	非 常 勤	商 業
	平30 商・マーケティング	学校法人安部学院（安部学院高等学校）	専 任	商 業
	平30 商・会計	茨城県立土浦第三高等学校	専 任	商 業
	平30 商・会計	岐阜県立岐阜各務野高等学校	常 勤	商 業
	平22 文・日本語日本文	東京都教育委員会	専 任	国 語
	平27 文・日本語	新島村立式根島小学校	専 任	全 科
	平28 文・日本語	綾瀬市立北の台中学校	専 任	国 語
	平29 文・日本語	江戸川区立南葛西中学校	専 任	国 語
	平30 文・日本語	学校法人高松学園（飯田女子高等学校）	非 常 勤	国 語
	平30 文・日本語	相模原市立東林中学校	非 常 勤	国 語
	平30 文・日本語	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	常 勤	国 語
	平30 文・日本語	神奈川県立伊勢原高等学校	期限付任用	国 語
	平30 文・日本語	学校法人駿台甲府学園（駿台甲府学園中学校・高等学校）	期限付任用	国 語
	平30 文・日本語	松田町立松田中学校	専 任	国 語
	平30 文・日本語	千葉県立松戸馬橋高等学校	期限付任用	国 語
	平30 文・日本語	多摩市立青陵中学校	臨時的任用	国 語
	平30 文・日本文学文化	学校法人横浜学院（横浜女学院中学・高等学校）	常 勤	国 語
	平30 文・日本文学文化	埼玉県立小川高等学校	常 勤	国 語
	平28 文・英語英米文	川崎市立大師中学校	専 任	英 語
	平30 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語
	平30 文・英語英米文	横浜市立鶴見中学校	臨時的任用	英 語
	平30 文・英語英米文	大田区立蓮沼中学校	臨時的任用	英 語
	平30 文・英語英米文	横浜市立田奈中学校	臨時的任用	英 語
	平30 文・英語英米文	学校法人タイケン国際学園（日本ウェルネス高等学校・東京キャンパス）	専 任	英 語
	平30 文・英語英米文	市原市立ちはら台西中学校	専 任	英 語
	平30 文・英語英米文	神奈川県立綾瀬高等学校	専 任	英 語

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成30年度	平28 文・哲	新発田市立外ヶ輪小学校	専 任	全 科
	平28 文・哲	新潟県立高田特別支援学校	専 任	社 会
	平30 文・哲	常総市立菅生小学校	非 常 勤	全 科
	平28 文・歴史	学校法人日本体育大学（日本体育大学柏高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平30 文・歴史	千葉県立八千代西高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平30 文・歴史	学校法人富士学園（静岡県富士見高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	学校法人世田谷学園（世田谷学園中学校・高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	神奈川県立七里ガ浜高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平30 文・歴史	東京文理学院高等部	非 常 勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	栃木県立鹿沼高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平30 文・歴史	群馬県立館林商工高等学校	常 勤	地理歴史・公民
	平30 文・歴史	江戸川区立瑞江中学校	専 任	社 会
	平30 文・歴史	愛川町立愛川中原中学校	専 任	社 会
	平30 文・環境地理	糸魚川市立糸魚川小学校	常 勤	全 科
	平27 文・人文ジャーナリズム	川崎市立田島支援学校 桜校	専 任	特 別 支 援
	平19 ネットワーク情報・ネットワーク情報	東京都教育委員会	専 任	数 学
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	西伊豆町立西伊豆中学校	臨時的任用	数 学
	平27 ネットワーク情報・ネットワーク情報	練馬区立大泉学園中学校	専 任	数 学
	平29 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人大妻学院（大妻多摩中学高等学校）	非 常 勤	数 学
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	山梨県教育委員会	期限付任用	数 学
	平30 人間科・心理	香取市立栗源中学校	常 勤	社 会
	平30 院文・修士	川崎市立京町中学校	非 常 勤	国 語
	平30 院文・修士	福島県立磐城高等学校	常 勤	英 語
	平29 院文・博士	学校法人成蹊学園（成蹊高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
令和元年度	平28 経済・経済	神奈川県立生田高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平30 経済・経済	学校法人緑丘学園（水戸英宏小学校）	常 勤	全 科
	平30 経済・経済	逗子市立沼間中学校	専 任	社 会
	平31 経済・経済	神奈川県立釜利谷高等学校	非 常 勤	公 民
	平31 経済・経済	藤沢市立白浜養護学校	常 勤	特 別 支 援
	平31 経済・経済	江東区立元加賀小学校	臨時的任用	全 科
	平28 経済・国際経済	学校法人小野学園（小野学園小学校）	専 任	全 科
	平31 経済・国際経済	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	専 任	社会・地理歴史・公民
	平31 経済・国際経済	学校法人いわき秀英学園（いわき秀英中学校・高等学校）	常 勤	社会・地理歴史・公民
	平17 法・法律	豊島区立南池袋小学校	専 任	全 科
	平27 法・法律	埼玉県立秩父高等学校	専 任	公 民
	平28 法・法律	船橋市立丸山小学校	専 任	全 科
	平29 法・法律	江戸川区立小岩第五中学校	専 任	英 語
	平31 法・法律	学校法人横浜商科大学高等学校（横浜商科大学高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	平31 法・法律	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	地 理 歴 史
	平31 法・法律	神奈川県立大船高等学校	期 限 付	地 理 歴 史
	平31 法・法律	中野区立江原小学校	専 任	全 科
	平31 経営・経営	学校法人大分高等学校（大分高等学校）	非 常 勤	商 業
	平31 経営・経営	中津川市立神坂中学校	専 任	社 会
	平22 商・マーケティング	山口県立宇部商業高等学校	専 任	商 業
	平27 商・マーケティング	市原市立若葉中学校	専 任	社 会
	平27 商・マーケティング	西東京市立向台小学校	専 任	全 科
	平29 商・マーケティング	大田区立志茂田中学校	非 常 勤	社 会
	平30 商・マーケティング	大島町立第二中学校	専 任	体 育
	平31 商・マーケティング	茨城県立石岡商業高等学校	非 常 勤	商 業
	平31 商・マーケティング	川崎市立白鳥中学校	非 常 勤	社 会
	平31 商・マーケティング	岐阜県立土岐商業高等学校	非 常 勤	商 業
	平31 商・マーケティング	学校法人玉名学園（専修大学玉名高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	平31 商・マーケティング	学校法人安部学院（安部学院高等学校）	専 任	商 業
	平24 商・会計	東京都立五日市高等学校	専 任	商 業
	平31 商・会計	高知県立清水高等学校	常 勤	商 業
	平28 文・日本語	大和市立引地台中学校	専 任	国 語
	平29 文・日本語	神奈川県立横浜明朋高等学校	専 任	国 語
	平29 文・日本語	南アルプス市立白根御勅使中学校	専 任	国 語
	平30 文・日本語	町田市立小山中学校	専 任	国 語
	平31 文・日本語	学校法人長野家政学園（長野女子高等学校）	常 勤	国 語
	平31 文・日本語	学校法人武蔵野学院（武蔵野中学高等学校）	専 任	国 語
	平31 文・日本語	学校法人白鵬女子学院（白鵬女子高等学校）	常 勤	国 語
	平31 文・日本語	神奈川県立横浜桜陽高等学校	専 任	国 語
	平31 文・日本語	埼玉県立朝霞高等学校（定時制）	専 任	国 語
	平28 文・日本文学文化	川崎市立白鳥中学校	専 任	国 語
	平31 文・日本文学文化	学校法人瀧野川女子学園（瀧野川女子学園中学高等学校）	専 任	国 語
	平31 文・日本文学文化	学校法人明德学園（相洋高等学校）	非 常 勤	国 語
	平31 文・日本文学文化	葉山町立葉山中学校	専 任	国 語
	平31 文・日本文学文化	常総市立水海道西中学校	常 勤	国 語
	平27 文・英語英米文	学校法人立花学園（立花学園高等学校）	専 任	英 語
	平29 文・英語英米文	大田区立清水窪小学校	専 任	全 科
	平30 文・英語英米文	東京都教育委員会	専 任	英 語
	平30 文・英語英米文	神奈川県立大井高等学校	専 任	英 語
	平31 文・英語英米文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	英 語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立弥栄高等学校	臨時的任用	英 語
	平31 文・英語英米文	学校法人関東国際学園（関東国際高等学校）	常勤（期限付）	英 語
	平31 文・英語英米文	学校法人東駿学園（御殿場西高等学校）	常 勤	英 語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立城山高等学校	専 任	英 語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
令和元（平成31）年度	平30 文・哲	板橋区立富士見台小学校	専 任	全 科
	平30 文・哲	坂東市立岩井第二小学校	専 任	全 科
	平31 文・哲	渋谷区立千駄谷小学校	専 任	全 科
	平31 文・哲	学校法人常磐大学（智学館中等教育学校）	常 勤	社会・地理歴史・公民
	平31 文・哲	横浜市立浦島丘中学校	専 任	社 会
	平29 文・歴史	千葉市立都賀中学校	専 任	社 会
	平30 文・歴史	学校法人日本体育大学（日本体育大学荏原高等学校） 学校法人戸坂学園（三田国際学園中学校）	非 常 勤	社会・地理歴史・公民
	平30 文・歴史	千葉県立市川高等学校	非 常 勤	公 民
	平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	期 限 付	特 別 支 援
	平31 文・歴史	横浜市立釜利谷中学校	専 任	社 会
	平31 文・歴史	千葉県立津田沼高等学校	非 常 勤	地理歴史・公民
	平31 文・歴史	射水市立新湊中学校	専 任	社 会
	平31 文・歴史	豊橋市立高豊中学校	非 常 勤	社 会
	平26 ネットワーク情報・ネットワーク情報	島田市立金谷中学校	専 任	数 学
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	臨時的任用	全 科
令和2年度	平31 院文・修士	学校法人芝浦工業大学（芝浦工業大学柏中学校・高等学校）	常 勤	国 語
	平31 院文・修士	学校法人光明学園（相模原高等学校）	専 任	英 語
	令2 経済・経済	長崎県立島原特別支援学校	非 常 勤	特 別 支 援
	令2 経済・経済	川崎市立生田中学校	常 勤	特 別 支 援
	令2 経済・国際経済	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	非 常 勤	地 理 歴 史
	平27 法・法律	山梨県立わかば支援学校	専 任	特 別 支 援
	平30 法・法律	牛久市立ひたち野うしく中学校	専 任	社 会
	平30 法・法律	あきる野市立増戸小学校	専 任	全 科
	令2 法・法律	熊谷市立三尻中学校	臨時的任用	社 会
	令2 法・法律	焼津市立小川中学校	非 常 勤	社 会
	平29 法・政治	東京都立紅葉川高等学校	専 任	地 理 歴 史
	令2 経営・経営	学校法人佼成学園（佼成学園女子中学高等学校）	専 任	情 報
	平29 商・マーケティング	宮城県松島高等学校	専 任	商 業
	平30 商・マーケティング	学校法人長野家政学園（長野女子高等学校）	常 勤	地理歴史・公民
	平31 商・マーケティング	川崎市立菅中学校	専 任	社 会
	令2 商・マーケティング	学校法人荒井学園（新川高等学校）	常 勤	公 民
	令2 商・マーケティング	山梨県立富士北稜高等学校	常 勤	商 業
	令2 商・マーケティング	学校法人九里学園（浦和実業学園高等学校）	非 常 勤	商 業
	令2 商・マーケティング	横浜市立いずみ野中学校	臨時的任用	特 別 支 援
	平31 商・会計	高知県立大方高等学校	専 任	商 業
	令2 商・会計	千葉県立千葉商業高等学校	専 任	商 業
	令2 商・会計	埼玉県立幸手桜高等学校	専 任	商 業
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立秦野総合高等学校	専 任	保 健 体 育
	令2 文・日本語	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	令2 文・日本語	学校法人横浜商科大学高等学校（横浜商科大学高等学校）	非 常 勤	国 語
	令2 文・日本語	川崎市立川崎高等学校	臨時的任用	国 語
	令2 文・日本語	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学校・高等学校）	常 勤	国 語
	令2 文・日本語	四街道市立四街道中学校	専 任	国 語
	令2 文・日本文学文化	学校法人柏木学園（柏木学園高等学校）	常 勤	国 語
	令2 文・日本文学文化	横浜市立東山田中学校	専 任	国 語
	令2 文・日本文学文化	牧之原市立榛原中学校	専 任	国 語
	令2 文・日本文学文化	神奈川県立秦野首屋高等学校	専 任	国 語
	平31 文・英語英米文	神奈川県立橋本高等学校	専 任	英 語
	令2 文・英語英米文	八王子市立川口中学校	臨時的任用	英 語
	令2 文・英語英米文	学校法人愛国学園（愛国高等学校）	専 任	英 語
	令2 文・英語英米文	八王子市立宮上中学校	専 任	英 語
	令2 文・英語英米文	静岡県立御殿場高等学校	常 勤	英 語
	令2 文・英語英米文	学校法人武陽学園（西武台新座中学校・西武台高等学校）	常 勤	英 語
	平30 文・歴史	習志野市立第二中学校	専 任	社 会
	平30 文・歴史	神奈川県立厚木商業高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平31 文・歴史	東京都立足立特別支援学校	専 任	特 別 支 援
	令2 文・歴史	学校法人沖永学園（帝京八王子中学校・高等学校）	専 任	社会・地理歴史・公民
	令2 文・歴史	学校法人國學院大學（國學院大學久我山中学高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史
	令2 文・歴史	富岡市立吉田小学校	常 勤	全 科
	令2 文・歴史	学校法人東海大学（東海大学付属静岡翔洋高等学校）	非 常 勤	地理歴史・公民
	令2 文・歴史	学校法人角川ドワンゴ学園（N高等学校）	専 任	地理歴史・公民
	令2 文・歴史	川島町立川島中学校	臨時的任用	社 会
	令2 文・歴史	裾野市立西中学校	常 勤	社 会
	令2 文・歴史	千葉県立小中台中学校	非 常 勤	特 別 支 援
	令2 文・歴史	千葉県立若松高等学校	常 勤	地 理 歴 史
	平28 文・環境地理	伊勢崎市立赤堀中学校	専 任	社 会
	平30 ネットワーク情報・ネットワーク情報	厚木市立清水小学校	専 任	全 科
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	株式会社ウイザス（第一学院高等学校）	常 勤	情 報
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	座間市立相模中学校	臨時的任用	数 学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	神奈川県立生田東高等学校	非 常 勤	情 報
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	川崎市立総合科学高等学校（定時制）	臨時的任用	数 学
	令2 ネットワーク情報・ネットワーク情報	魚沼市立魚沼北中学校	常 勤	数 学
	平30 院文・修士	会津若松市立第五中学校	専 任	英 語
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語
	令2 院文・修士	学校法人専修大学附属高等学校（専修大学附属高等学校）	非 常 勤	国 語

司書課程・司書教諭課程・学校司書課程主な就職先一覧

勤 務 先	
川口市立中央図書館	八街市立図書館（千葉県）
（株）図書館流通センター	藤沢市総合市民図書館（神奈川県）
日本獣医生命科学大学附属図書館	東京都立図書館
信州大学附属図書館	長岡市立中央図書館（新潟県）
大和市立図書館	埼玉県立高等学校図書館
武蔵大学図書館	国土館大学鶴川図書館
東京大学法学部図書館	追手門学院大学附属図書館
日外アソシエーツ（株）	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
見附市立図書館（新潟県）	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
ドルトン東京学園中等部・高等部ラーニングcommons	神奈川県立高等学校図書館
女子栄養大学図書館	横須賀市立中央図書館
公立はこだて未来大学情報ライブラリー	（株）三省堂書店
東京医科大学図書館	神奈川県立図書館
杉並区中央図書館（東京都）	江東区立亀戸図書館
横浜市立図書館	横浜総合リハビリテーションセンター図書室
キハラ（株）	法政大学多摩図書館
専修大学図書館	

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県栗原市役所	通信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武都市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工芸社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡県立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市創造都市推進局文化財課	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	愛知県大口町歴史民俗資料館
飯田市教育委員会	新潟県教育委員会
佐渡市教育委員会	紅ミュージアム
（公財）メトロ文化財団	埼玉県立さきたま史跡の博物館
米沢市教育委員会	三重県教育委員会
宇都宮市教育委員会	鶴ヶ島市教育委員会
松本市教育委員会	ふじみ野市教育委員会
岡崎市教育委員会	太田市教育委員会
日野市郷土資料館	斎宮歴史博物館
石岡市教育委員会	石川県立美術館
狭山市教育委員会	日野市教育委員会
藤沢市生涯学習部郷土歴史課	国土館大学国土館史資料室
島根県教育委員会文化財課	横須賀市自然・人文博物館
専修大学大学史資料室	

令和 2 年度 資格課程年間行事表

課 程		教 職 課 程		司 書 課 程 学校司書課程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4 月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修方法等の案内（全学年） 履修科目登録および履修修正（全学年）							
	中 旬 下 旬	実習希望校との内諾交渉 介護等の体験申し込み 教育実習事前ガイダンス （郵送）	3 3・4 4						
5 月	上 旬	介護等の体験資料送付 （ポータル）	3・4					博物館実習（館務実習） （5月～1月）	3・4
	下 旬								
6 月	上 旬	教育実習 （6月～1月）	4						
	中 旬	教育実習登録ガイダンス （郵送）	3						
		教育実習内諾書の提出 （郵送）	3						
7 月	下 旬	教員免許状一括申請ガイ ダンス（郵送）	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （郵送） （3年次までに司 書教諭の単位をす べて修得した者）	4	博物館実習事前ガイダンス 実習料納金	3・4
8 月	上 旬	介護等の体験事前講習会	3・4	前期試験（新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず） 夏期休暇（8月中旬～9月中旬） 前期追試験（新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず）					
	中 旬								
	下 旬	介護等の体験代替措置 （8月下旬～11 月下旬）	3・4						
9 月	中 旬	教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程履修ガイダンス（1年次） 教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程各種納金（全学年）							
	下 旬	教員免許状授与と申請書確 認ガイダンス（郵送）	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （郵送） （4年次で司書教 諭の科目を履修し た者）	4	館務実習登録ガイダンス （第1回）（オンライン）	2・3
10月	上 旬	教職公開講座 （オンライン）	1～4						
11月	上 旬							館務実習登録ガイダンス （第2回） 実習希望博物館との内諾交渉	2・3 2・3
12月									
1 月	下 旬	後期試験（新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず）							
2 月	中 旬	後期追試験（新型コロナウイルス感染症の影響により実施せず）							
	下 旬								
3 月	22 日	教員免許状の交付	4						

令和 2 年度 教職相談実施結果

1. 実施期間

令和 2 年 4 月～令和 3 年 1 月

2. 実施日・担当者

場 所	担 当 者	相談日（4月～8月）	相談日（9月～1月）
オンライン	齋藤 博志	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止	月曜日 12:00～13:00
			火曜日 12:00～13:00
			木曜日 12:00～13:00
	嶺井 正也	希望者と相談の上決定	希望者と相談の上決定（9月～3月）

3. 実施結果

(1) 齋藤 博志 商学部特任教授 オンライン実施結果 ※メールでの事前申込制

①月別曜日別相談者数

場所	曜日\月	9月	10月	11月	12月	1月	合 計
オンライン	月曜日	0	0	0	0	2	2
	火曜日	0	0	0	0	1	1
	木曜日	1	0	0	0	2	3
合 計		1	0	0	0	5	6

②学部学科別相談者数

学部	経済				法		経営	商		文							ネットワーク	人間科		国際 英語学	合計
学科	経済	現代 経済	生活環 境経済	国際 経済	法律	政治	経営	マーケティング	会計	日本語	日本文 学文化	英語 英米文	哲	歴史	環境 地理	人文・ ジャーナリズム	ネットワーク	心理	社会	日本語	
人数	3 (1)	0	0	0	0	0	1 (1)	0	0	1 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1)	0	

()内の人数は実数

③相談者学年

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	合 計
人 数	0	1	4	1	6

④相談内容

一次試験対策	論文文対策	二次試験対策	志願書の書き方	教職への心構え	教育実習	大学院進学	面接練習	その他	合計
1	1	1	0	1	0	0	0	2	6

⑤その他の主な内容

・特別支援教育の免許状取得について ・基礎免許状の取得校種について ・教員採用試験(公立・私立)について ・公立と私立の教員採用試験を同時進行で対応できるか ・東京都の論文試験対策 ・常勤と非常勤講師のメリットとデメリットについて ・教師になるために支援員としてどのようなことに意識して勤務すればよいか

⑥相談日数

場 所	曜日\月	9月	10月	11月	12月	1月	合 計
オンライン	月曜日	0	0	0	0	2	2
	火曜日	0	0	0	0	1	1
	木曜日	1	0	0	0	2	3
合 計		1	0	0	0	5	6

(2) 嶺井 正也 専修大学名誉教授 オンライン実施結果 ※福山文子経営学部准教授と協働

①相談者数

4月～9月 各回合計 70名程度
 在学生：経済学部経済学科 1名、国際経済学科 2名
 文学部日本語学科 1名、日本文学文化学科 1名、歴史学科 5名
 人間科学部社会学科 1名
 卒業生：3名

10月～3月 各回合計 100名程度
 在学生：経済学部経済学科 2名
 文学部日本語学科 1名、日本文学文化学科 4名、英語英米文学科 2名、哲学科 1名、歴史学科 10名、人文・ジャーナリズム学科 1名
 卒業生：1名

②相談内容・日数

4月～9月 ・ZOOMによる面接練習
 5月中旬以降から7月までは、ほぼ毎日曜日10時～12時を基本。8月、9月はリクエストに応じた個別面接
 ・教職大学院・教育学系大学院進学に際しての研究計画作成について個別指導

10月～3月 ・インターネットを通じた教職・一般教養関係問題の提示と解答チェック・説明（30回程度）
 ・ZOOMによる教育時事・小論文・面接等の学習（20回程度）
 ・教職大学院・教育学系大学院進学の個別相談

令和 2 年度 教員採用試験対策特別講義実施結果

・教員採用試験二次試験対策特別講義（7月）第1回・2回

1. 実施日 第1回 令和2年7月14日（火） 10:45～12:00
第2回 令和2年7月21日（火） 13:30～15:00
2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 428教室
3. 対象者 今年度（令和2（2020）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）
4. 担当講師 齋藤 博志 商学部特任教授
5. 内容 (1) 面接票、指導案等の作成指導
(2) 二次試験に臨む上での心構え
6. 持ち物 各自該当するものを当日持参
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
7. 参加者 第1回 令和2年7月14日（火） 6名（内卒業生1名）
第2回 令和2年7月21日（火） 10名（内卒業生0名）
8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター

・教員採用試験二次試験対策特別講義（8月）第1回・2回

1. 実施日 第1回 令和2年8月3日（月） 10:00～15:30
第2回 令和2年8月5日（水） 10:00～15:30
2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 420教室
第1回 423教室・424教室・426教室・429教室
第2回 426教室・427教室・428教室・429教室
3. 対象者 今年度（令和2（2020）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）
4. 担当講師 【第1回】令和2年8月3日（月） 【第2回】令和2年8月5日（水）
①齋藤 博志 商学部特任教授 ①齋藤 博志 商学部特任教授
②角田真紀子 経済学部講師 ②福山 文子 経営学部准教授
③望月 俊男 ネットワーク情報学部准教授 ③砂原 由和 ネットワーク情報学部教授
④神山 安弘 文学部客員教授 ④神山 安弘 文学部客員教授
5. 内容 (1) 面接票、指導案等の作成指導
(2) 個人面接、集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業
6. 提出物 各自該当するものを当日持参
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
7. 参加者 第1回 令和2年8月3日（月） 18名（内卒業生1名）
第2回 令和2年8月5日（水） 20名（内卒業生2名）
8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター

・教員採用試験二次試験対策特別講義（8月）第3回

1. 実施日 令和2年8月6日（木） 11:00～16:00
2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 426教室・428教室・429教室
3. 対象者 今年度（令和2（2020）年度）教員採用試験受験者（教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
4. 担当講師 ①長船 孝明 経済学部兼任講師（昭和53年 商学部会計学科卒）
（元東京都立荒川商業高等学校校長）
②佐藤 由美 商学部教授
③中野 育男 商学部教授
5. 内容 (1) 主に東京都の教育に求められる教師像など簡単な講義（東京、千葉、神奈川、埼玉の二次試験のポイント、評価方法等）
(2) 個別指導（主に個人面談）
6. 参加者 13名（内卒業生0名）
7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会

・教員採用試験二次試験対策特別講義（8月）第4回

1. 実施日 令和2年8月18日（火） 11:00～17:00
2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 420教室・426教室・428教室・429教室
3. 対象者 今年度（令和2（2020）年度）教員採用試験受験者（私学受験者、卒業生も受講可）
4. 担当講師 ①齋藤 博志 商学部特任教授
②森田 司郎 法学部教授
③小峰 直史 人間科学部教授
④神山 安弘 文学部客員教授
5. 内容 (1) 個人面接
(2) 集団面接、集団討論、場面指導、模擬授業
6. 提出物 各自該当するものを当日持参
二次試験当日に教育委員会に提出する面接票、指導案等
7. 参加者 7名（内卒業生0名）
8. 主催 教職課程協議会・エクステンションセンター

・教員採用試験対策特別講義 第1回

1. 実施日 令和2年7月11日（土） 10:00～12:30
2. 実施場所 専修大学生田校舎 4号館2階 428教室
3. 対象者 来年度（令和3（2021）年度）教員採用試験受験予定者 1年次～4年次（教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
4. 担当講師 伊藤 雅夫 先生（昭和54年 経済学部経済学科卒）
江東区教育委員会ブリッジスクール（元江東区立第二砂町中学校校長）
5. 内容 (1) 自己紹介および現在の学校現場について
(2) 求められる教師像（役職の立場から思うこと）
(3) 人物試験（二次試験）の学習の仕方とその実際
6. 参加者 12名（内卒業生0名）
7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会

・教員採用試験対策特別講義 第2回

1. 実施日 令和2年11月28日（土） 13:30～16:00
2. 実施方法 Google ClassroomおよびGoogle Meetによるオンライン実施
3. 対象者 教員採用試験受験予定者 1年次～4年次（教員採用試験対策講座受講生以外および卒業生も受講可）
4. 担当講師 TAC講師
樋口 良太 氏（TAC教員講座 専任講師）
令和2年度採用試験最終試験合格者
①佐藤 高寛（東京都教育委員会 中学校社会・高等学校公民 経済学部経済学科4年）
②石井 瑠璃（横浜市教育委員会 中学校国語 文学部日本文学文化学科4年）
③古木 鈴乃（神奈川県教育委員会 高等学校英語 文学部英語英米文学科4年）
5. 内容 (1) TAC講師から各教育委員会の採用試験の概要説明
(2) 令和2年度採用試験最終試験合格者の体験談および質疑応答（担当：森田 司郎 法学部教授）
6. 参加者 30名（内卒業生0名）
7. 主催 エクステンションセンター・教職課程協議会

令和 2 年度 教職公開講座開催結果

1. テーマ 新しい生活様式における ICT 活用教育のあり方
2. 開催日 令和 2 年 10 月 3 日 (土)
3. 時間 14 時 00 分 ~ 17 時 10 分
4. 開催形態 Google Classroom「2020 教職公開講座」および Google Meet によるオンライン開催
5. 参加人数 第 1 部：217 名 第 2 部：210 名
6. 内 容

(1) 今の教育現場について、現職教員とのディスカッション (専修大学 O B ・ O G)

講 師 (卒業年・学部・学科)	勤 務 先	科 目
村 山 ほのか 先生 (平成 30 年 3 月 文学部 日本語学科 卒業)	松田町立松田中学校	国 語
小 林 大 介 先生 (平成 22 年 3 月 文学研究科 英語英米文学専攻 修了)	静岡市立高等学校	英 語
清 澤 由 衣 先生 (平成 31 年 3 月 文学部 哲学科 卒業)	横浜市立浦島丘中学校	社 会
品 田 直 人 先生 (平成 29 年 3 月 文学部 哲学科 卒業)	神奈川県立相模原総合高等学校	地歴・公民
渡 邊 雄 太 先生 (平成 30 年 3 月 商学部 会計学科 卒業)	茨城県立土浦第三高等学校	商 業
村 山 達 哉 先生 (平成 29 年 3 月 商学部 マーケティング学科 卒業)	田園調布学園高等部	情 報
関 本 圭 吾 先生 (平成 30 年 3 月 法学部 法律学科 卒業)	あきる野市立増戸小学校	小学校
橋 本 莉 奈 先生 (平成 30 年 3 月 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科 卒業)	厚木市立清水小学校	

(2) 求められる教師像

講 師	神奈川県立川崎北高等学校長 柴 田 功 先生 神奈川県教育委員会指導部高校教育課指導主事 橋 本 雅 史 先生
-----	--

(3) タイムテーブル

	時 間	内 容	形 態
第 1 部 14:00 ↓ 16:00	14:00~14:05	全体のスケジュール確認および講師紹介	Google Meet
	14:05~14:45 (40分)	ー今の教育現場についてー 「新しい生活様式におけるICT活用教育のあり方」をテーマに現場での 実践事例についての講演	
		国 語 村 山 ほのか 先生 英 語 小 林 大 介 先生	Google Meet
		社 会 清 澤 由 衣 先生 地歴・公民 品 田 直 人 先生	Google Meet
		商 業 渡 邊 雄 太 先生 情報・数学 村 山 達 哉 先生	Google Meet
		小 学 校 関 本 圭 吾 先生 小 学 校 橋 本 莉 奈 先生	Google Meet
	14:45~15:15	休憩	
	15:15~16:00 (45分)	ー現職教員とのディスカッションー 実践事例報告を踏まえディスカッション	
		国 語 村 山 ほのか 先生 英 語 小 林 大 介 先生	Google Meet
		社 会 清 澤 由 衣 先生 地歴・公民 品 田 直 人 先生	Google Meet
第 2 部 16:00 ↓ 17:10	16:00~16:10	休憩	
	16:10~17:10 (60分)	ー求められる教師像ー 神奈川県立川崎北高等学校 校 長 柴 田 功 先生 神奈川県教育委員会指導部高校教育課 指導主事 橋 本 雅 史 先生	Google Meet

学芸員課程「博物館実習（学内）」の展示実習報告

生田校舎 2 号館の博物館実習室・展示実習室を活用し、学内実習授業の一環として、平成 29 年度より実習生による展示実習および展示の一般公開を行なっている。令和 2 年度は、感染症拡大防止対策のなかで例年のように一般公開はできなかったが、下記の日程で授業の復習も含めた実践的な展示実習を行なった。

<令和 2 年度>

前期：7 月 18・24・25・31 日・8 月 1 日 1 限・2 限

・テーマ：「柄鏡の展示」

・履修者 17 名

後期：12 月 5・11・12・18・19 日 1 限・2 限

・テーマ：「博物館実習で学んだこと」

・履修者 17 名

<前期>



展示プランの話し合い



完成した展示

<後期>



ガラスケースへの展示



完成した展示

令和 2 年度 資格課程活動報告

日 付	事 項	方 式	参加者
令和 2 年 5 月12日	令和 2 年度 全国大学博物館学講座協議会 全国委員会	書面審議	—
6 月17日	令和 2 年度 スクールライフサポーター派遣事業連絡会議	書面審議	—
6 月18日	令和 2 年度 第 1 回横浜市 大学連携・協働協議会	書面審議	—
6 月19日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2020 年度定期総会	書面審議	—
6 月19日	令和 2 年度 全国大学博物館学講座協議会 総会	書面審議	—
6 月20日	全国私立大学教職課程協会 オンライン・シンポジウム 2020 年度教育実習・介護等体験の現状と見通し	オンライン	教員 1 名 職員 3 名
10月24日	大学教務実践研究会 教務系職員向けオンライン講習会	オンライン	職員 6 名
10月28日	令和 2 年度 全国大学博物館学講座協議会東日本部会総会	書面審議	—
10月31日	京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2020 年度第 1 回教員免許事務勉強会	オンライン	職員 5 名
11月14日	東京地区教職課程研究連絡協議会 令和 2 年度定期総会・情報交換会	オンライン	教員 1 名
11月21日	大学教務実践研究会 教務系職員向けオンライン講習会	オンライン	職員 1 名
12月 5 日	京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2020 年度第 2 回教員免許事務勉強会	オンライン	職員 1 名
12月 5 日	関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 2020 年度研究懇話会	オンライン	教員 1 名 職員 1 名
12月12日	全国私立大学教職課程協会 2020 年度教職課程運営に関する研究交流集会	オンライン	教員 1 名 職員 1 名
12月12日	全国私立大学教職課程協会 2020 年度定時社員総会（定期総会）	書面審議	—
12月18日	令和 2 年度 教職課程認定等に関する事務担当者説明会	オンライン	職員 2 名
12月19日	大学教務実践研究会 第 8 回大会	オンライン	職員 1 名
12月21日	教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議（第 2 回）傍聴	オンライン	職員 2 名
12月22日	中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第 119 回）傍聴	オンライン	職員 2 名
令和 3 年 1 月18日	教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議（第 3 回）傍聴	オンライン	職員 2 名
2 月 4 日	横浜市 令和 3 年度教育実習 教職員向け説明会	オンライン	職員 5 名
2 月27日	令和 2 年度 神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会	オンライン	教員 1 名 職員 2 名

令和 2 年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	講師	角田真紀子	教育相談の理論と方法
法 学 部	教授	森田 司郎	教育課程論
法 学 部	准教授	大西 楠・テア	法律学 a・b
法 学 部	准教授	加藤 雄三	法律学 a・b
経営学部	准教授	福山 文子	公教育制度論
商 学 部	教授	佐藤 由美	地理歴史科教育研究 1・2
商 学 部	教授	中野 育男	商業科教育研究 1・2
商 学 部	特任教授	齋藤 博志	教職実践演習
文 学 部	教授	江崎 雄治	人文地理学概論 b
文 学 部	教授	大谷 正	日本史 a・b
文 学 部	教授	片桐 一彦	英語科教育法 1・2
文 学 部	教授	苅谷 愛彦	自然地理学概論 a
文 学 部	教授	高橋 龍夫	国語科教育研究 1
文 学 部	教授	田邊 祐司	英語科教育研究 3・4
文 学 部	教授	薦尾 和宏	国語科教育研究 2
文 学 部	教授	貫 成人	哲学 a・b
文 学 部	教授	廣瀬 玲子	中国文学講義 a・b
文 学 部	教授	松尾 容孝	人文地理学概論 a
文 学 部	教授	山口 政幸	日本文学通史 b
文 学 部	教授	米村みゆき	日本文学概論 b
文 学 部	准教授	赤坂 郁美	自然地理学概論 b
文 学 部	准教授	佐藤 岳詩	倫理学 a・b
文 学 部	准教授	松尾 治	書道科教育研究 1・2
文 学 部	助教	小笠原 強	外国史 b
文 学 部	助教	福島 大我	外国史 a
ネットワーク情報学部	教授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	准教授	望月 俊男	情報科教育研究 1・2
人間科学部	教授	小峰 直史	生徒・進路指導論
人間科学部	教授	菱山 宏輔	社会学原論 a
人間科学部	准教授	勝俣 達也	社会学原論 b
経済学部	兼任講師	青木 猛正	生徒・進路指導論
経済学部	兼任講師	長船 孝明	特別活動・総合的な学習の時間の指導法
経済学部	兼任講師	杉山比呂之	社会科教育研究 1・2
経済学部	兼任講師	別府さおり	特別支援教育論
経済学部	兼任講師	宮崎三喜男	教育実習 1・2・3
法 学 部	兼任講師	相賀由美子	道徳教育指導論
法 学 部	兼任講師	金 ヒョン淑	教育課程論
法 学 部	兼任講師	松村 芳明	法律学 a・b
法 学 部	兼任講師	山口 晶子	教育社会学
経営学部	兼任講師	白岩 伸也	教育原論
経営学部	兼任講師	半田 勝久	教育法学
経営学部	兼任講師	堀内 泰利	情報と職業
商 学 部	兼任講師	五十嵐卓司	公民科教育研究 1・2
商 学 部	兼任講師	生田 清人	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	泉 貴久	地理学 a・b
商 学 部	兼任講師	小川 晴久	職業指導 a・b
商 学 部	兼任講師	加瀬きよ子	商業科教育研究 1・2
商 学 部	兼任講師	進士 勇介	職業指導 a・b
商 学 部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論 a・b
商 学 部	兼任講師	松岡 路秀	社会科教育研究 3・4
商 学 部	兼任講師	皆川 雅樹	日本史 a・b
文 学 部	客員教授	神山 安弘	教職入門

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文 学 部	兼任講師	荒畑 隆	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	市川 康夫	地誌学 a・b
文 学 部	兼任講師	内門 亮子	書道 a
文 学 部	兼任講師	太田 弘	自然地理学概論 a・b
文 学 部	兼任講師	小泉 秀人	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	小長野航太	倫理学 a・b
文 学 部	兼任講師	小林 孝秀	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	寺戸 淳子	宗教学 a・b
文 学 部	兼任講師	富永 裕子	英語科教育法 1・2
文 学 部	兼任講師	西澤美穂子	日本史 a・b
文 学 部	兼任講師	根本 欣哉	国語科教育研究 3・4
文 学 部	兼任講師	古田 正幸	日本文学通史 a
文 学 部	兼任講師	正野 泰周	倫理学 a・b
文 学 部	兼任講師	山下 直	国語科教育研究 1・2
文 学 部	兼任講師	山田 朋子	外国史 a・b
文 学 部	兼任講師	山本 幸博	書道 a・b
ネットワーク情報学部	兼任講師	飯塚 久男	教育方法論
ネットワーク情報学部	兼任講師	大塚慎太郎	数学科教育研究 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	宮野 尚	教育課程論
人間科学部	兼任講師	渡辺 彰規	社会学原論 a・b
購買コミュニケーション学部	兼任講師	竹内はるか	日本語学入門 a・b

《司書・司書教諭・学校司書》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	大曾根 匡	図書館情報技術論
経営学部	教 授	荻原 幸子	図書館概論
文 学 部	教 授	野口 武悟	図書館情報資源概論
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	蟹瀬 智弘	情報サービス演習 2
経営学部	兼任講師	下山佳那子	情報資源組織演習 2
経営学部	兼任講師	鴫田 拓哉	情報資源組織論
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	石原 眞理	図書館サービス概論
文 学 部	兼任講師	汐崎 順子	図書館サービス特論
文 学 部	兼任講師	千代原真智子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	戸田あきら	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	中川 恭一	図書館制度・経営論
文 学 部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス演習 2
文 学 部	兼任講師	中和 正彦	図書館情報資源特論
文 学 部	兼任講師	成松 一郎	図書館基礎特論
ネットワーク情報学部	兼任講師	榎本裕希子	情報資源組織演習 1・2
ネットワーク情報学部	兼任講師	栗原 浩美	学校経営と学校図書館
ネットワーク情報学部	兼任講師	竹村 和子	学校図書館メディアの構成
ネットワーク情報学部	兼任講師	日向 良和	情報サービス演習 1

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館概論
文 学 部	教 授	高島 裕之	博物館実習
経営学部	兼任講師	水本 和美	博物館資料保存論

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

例年通りでないことの多い一年間でした。本学資格課程においても、感染予防を最優先事項として、何ができるのか、どのようにしたらできるのか、そして、何ができないのかが問われ続けました。その状況は今も続いています。本号はそうした中での刊行となりました。残念ながら、専修大学教育学会、教科研修生、学校教育ボランティア、図書館実習は、感染予防のために中止となりましたので、体験報告の掲載は見送らざるを得ませんでした。一方で、教育実習、介護等の体験、教職公開講座、博物館実習などは、様々な対応を協議したうえで実施されました。それぞれの体験記では、数々の制約のなかでの奮闘ぶりが伝わってきます。思いがけない事態に、不安もあったことと思いますが、紙面には収まりきれないほどの多くの学びがあったものと思います。そして毎号のことですが、教員採用試験体験記に記された「ひたむきな」姿勢には感動を覚えます。教員を志望する多くの在学生にとっては、大いなる励ましとなることでしょう。合格された方々はもとより、受験した全ての4年生と卒業生に、拍手とエールを送ります。資格を活かして働く卒業生からは、頼もしい報告が寄せられました。実際には大変なことや辛いこともあるのですが、それぞれが自身の職場に「誇り」を持ち、「やりがい」を感じながら、懸命に職務に励んでいる様子を垣間見ることができます。本号にはその他にも、本学や附属高校の先生方による興味深い内容の記事が掲載されています。ご寄稿いただいた全ての皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

ワクチン接種は始まりましたが、まだまだこの先も、手洗い、マスク着用、換気、ソーシャルディスタンス、不要不急の外出の自粛などの「命」を守るための対策の日々が続きそうです。読者の皆様も、どうぞお気をつけてお過ごしください。マスクなしで語り合い、大きな声で笑い合う「日常」が待ち遠しい限りです。

編集委員長

荻原 幸子

編集委員

角田真紀子

佐藤 由美

松尾 治

野口 武悟

内田 欽三

令和2年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 令和3年3月31日

編集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

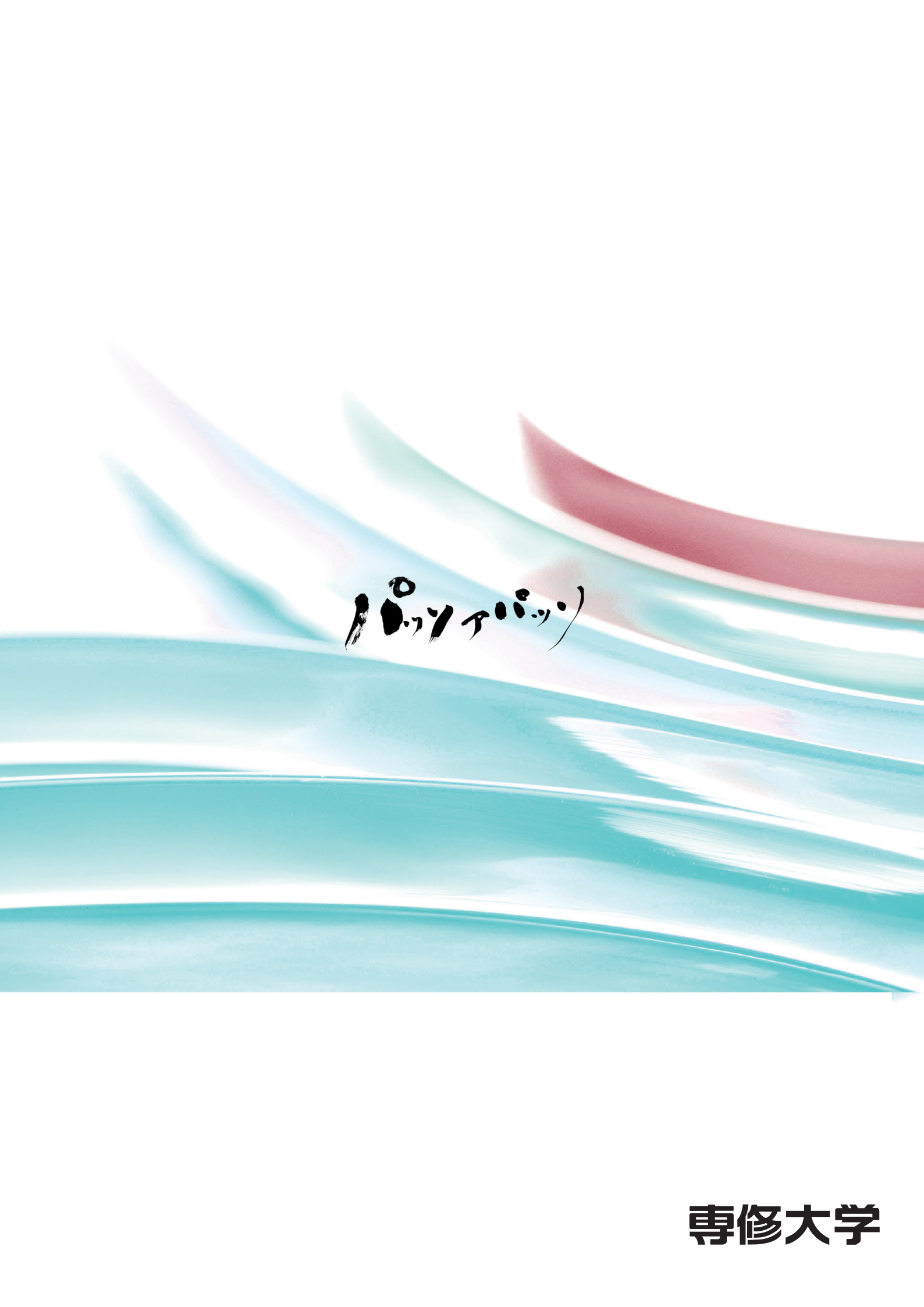
TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

URL <https://www.senshu-u.ac.jp/education/shikaku/>

印刷 有限会社米田印刷

〒140-0002 東京都品川区東品川1-21-4

TEL 03-3474-9791



ハッピー

専修大学